

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	【選択】理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
出口 義信・橘 幸子			
講義	初級障がい者スポーツ指導員対象科目(保健医療学部)	010001L2POSN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	安全を理解し確保するための基礎知識と手法を身に付けることを目標とする。		
授業の概要	将来医療職に従事する学生が安全に関する基本的素養を身に付けることは必須のことである。本授業では、安全の基本概念、リスク表現と安全目標、ハザードの同定、確率論的安全評価、事故分析、ヒューマンファクター、リスクマネジメント、リスクコミュニケーション、安全規制、安全システム、安全文化について教授する。		
授業計画	第1回	授業の進め方、成績の付け方等についての説明 ・医療現場と危険性、質の担保 (担当：橘幸子) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)	
	第2回	安全学の基本概念、・前回の復習と小テスト (担当：橘幸子) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)	
	第3回	事故はなぜ起こるのか、どう防ぐのか、リスク表現と安全目標・前回の復習と小テスト (担当：橘幸子) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)	
	第4回	ハザードの同定、安全評価 ・前回の復習と小テスト (担当：橘幸子) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)	
	第5回	事故分析1・前回の復習と小テスト (担当：橘幸子) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)	
	第6回	事故分析2・前回の復習と小テスト (担当：橘幸子) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)	
	第7回	ヒューマンファクター、ヒューマンエラーの考え方・分類・心理学・防止対策・前回の復習と小テスト (担当：橘幸子) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)	
	第8回	リスクマネジメントのプロセス、リスクマネジメントのための組織、技術システムの安全設計・前回の復習と小テスト (担当：橘幸子) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)	
	第9回	人のリスク認知とリスクコミュニケーション、前回の復習と小テスト (担当：橘幸子) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)	
	第10回	コミュニケーションエラー、前回の復習と小テスト (担当：橘幸子) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)	
	第11回	自己紹介・ミスのない医療の大切さ・医療ミスはなくなるならない・知ってほしい医療事 (担当：出口義信) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)	
	第12回	医療安全の基礎知識・医療事故防止活動の経緯・福井総合病院の医療事故防止対策の現状と課題 (担当：出口義信) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)	
	第13回	病院とは・医療の質・医療安全の指標・医療安全に関する政策、法的側面 (担当：出口義信)	

	<p>事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第14回 事故発生のメカニズム・事故防止対策・KYT・虐待・暴力対応（担当：出口義信） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第15回 医療事故防止のためのコミュニケーション（チームステップス）・チーム医療・これまでのまとめ（担当：出口義信） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>定期試験</p>
テキスト	古田一雄・長崎晋也著：安全学入門、日科技連、2023年出版
参考書・参考資料等	村上陽一郎著：安全学、青土社、2000年出版 ジェームズ・リーズン著、高野研一・佐相邦英訳：組織事故、日科技連、2005年出版 （公財）日本障がい者スポーツ協会（編）、障がいのある人のスポーツ指導教本、株式会社ぎょうせい 篠原一彦：医療のための安全学入門、丸善株式会社、2005年
学生に対する評価	筆記試験 出口義信 30% 橘幸子 70%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【選択】理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
趙 雪梅			
講義	養護教諭対象科目	010002L1POSNH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	学校と社会、子どもの発達と教育をふまえて学校教師の役割を学ぶ
授業の概要	この授業では以下のことを学び検討する。①歴史的ルーツをたどることによる教育に関するイメージの形成 ②社会変動の中の教育と教育の国際化 ③子どもの発達と教育について、子どもの学びと学校教育について、今の子どもを取り巻く状況 ④その上で、学校・教師（養護教諭も含めて）の役割を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 教育の歴史 西洋 事前学習：図書館で西洋史を調べる。(2時間) 事後学習：プリントやノートを用いて、習得した知識を整理する。(2時間)</p> <p>第2回 教育の歴史 日本 事前学習：図書館で日本史を調べる。(2時間) 事後学習：プリントやノートを用いて、習得した知識を整理する。(2時間)</p> <p>第3回 教育思想の名人からの学び 事前学習：教育思想家について調べる。(2時間) 事後学習：プリントやノートを用いて、習得した知識を整理する。(2時間)</p> <p>第4回 社会変動と教育 事前学習：社会変動について調べる。(2時間) 事後学習：学習内容によって、教育の社会性を深く理解する。(2時間)</p> <p>第5回 教育の国際化 事前学習：国際化の意味について調べる。(2時間) 事後学習：学習内容によって、教育における国際化の重要性を深く理解する。(2時間)</p> <p>第6回 小括と討議 事前学習：これまでの学習内容から興味関心があるところを考える。(2時間) 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。(2時間)</p> <p>第7回 子どもの発達 事前学習：人間形成とは何かを考える。(2時間) 事後学習：学習内容によって、現代社会における子どもの成長を深く理解する。(2時間)</p> <p>第8回 発達と教育と学習 事前学習：特別支援教育について調べる。(2時間) 事後学習：学習内容によって、発達・教育・学習の関連性を深く理解する。(2時間)</p> <p>第9回 教科学習と学力 事前学習：学力の意味を調べる。(2時間) 事後学習：学習内容によって、大学の学習から育成する学力を深く理解する。(2時間)</p> <p>第10回 「教える」と「学び」 効果的な方法 事前学習：「学び」の角度から、教え方を考える。(2時間) 事後学習：学習内容によって、自分らしい方法を整理する。(2時間)</p> <p>第11回 小括と討議 事前学習：これまでの学習内容から興味関心があるところを考える。(2時間) 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。(2時間)</p> <p>第12回 現在の子どもを取り巻く状況 事例研究 その1 事前学習：課題によって、資料を調べる。(2時間) 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。(2時間)</p> <p>第13回 現在の子どもを取り巻く状況 事例研究 その2 事前学習：課題によって、資料を調べる。(2時間) 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。(2時間)</p> <p>第14回 学校・教師（養護教諭も含む）の役割 事前学習：自分の学校時代を思い起こし、学校・教師のことを考える。(2時間) 事後学習：学習内容によって、学校・教師の役割を深く整理する。(2時間)</p> <p>第15回 小括と討議 事前学習：これまでの学習内容から興味関心があるところを考える。(2時間) 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。(2時間)</p>
テキスト	特に定めずその都度資料を提供
参考書・参考資料等	堀尾輝久『教育入門』岩波新書54 安彦忠彦・藤井千春・田中博之『よくわかる教育学原論』ミネルヴァ書房
学生に対する評価	通常のクイズ(40%)とレポート(60%)で評価する 評価基準：教育課程の理解と具体的な展開の理解がなされたかどうか、発表とレポートの内容より評価する。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	【選択】理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
趙 雪梅			
講義	養護教諭対象科目	010003L1POSNH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	教育方法の歴史的展開や動向を理解し、教育実践の位置づけを理解する。グループでの検討を通じて、レポートをまとめ、実践的に活用できることに対する認識を深める。
授業の概要	学習の方法および技術についての基礎的な理論や考え方を調べ、意味を理解する。事例を通して、指導技術を理解する。ディスカッションやグループワークを行い、教育方法に関する議論を展開する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（講義の内容や流れの確認） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）</p> <p>第2回 教育方法の歴史的展開と基礎理論（古代・中世） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）</p> <p>第3回 教育方法の歴史的展開と基礎理論（古代・中世） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）</p> <p>第4回 教育方法の歴史的展開と基礎理論における演習（古代・中世） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）</p> <p>第5回 教育方法の歴史的展開と基礎理論（中世・近代） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）</p> <p>第6回 教育方法の歴史的展開と基礎理論（中世・近代） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）</p> <p>第7回 教育方法の歴史的展開と基礎理論における演習（中世・近代） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）</p> <p>第8回 小括と討議 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）</p> <p>第9回 教育方法の歴史的展開と基礎理論（近代・現代） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）</p> <p>第10回 教育方法の歴史的展開と基礎理論（近代・現代） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）</p> <p>第11回 教育方法の歴史的展開と基礎理論における演習（近代・現代） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）</p> <p>第12回 教育方法の歴史的展開と基礎理論（現代） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）</p> <p>第13回 教育方法の歴史的展開と基礎理論（現代） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）</p> <p>第14回 教育方法の歴史的展開と基礎理論における演習（現代） 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）</p> <p>第15回 小括と討議 事前学習：課題によって、資料を調べる。（2時間） 事後学習：学習内容によって、習得した知識を整理する。（2時間）</p>
テキスト	特に定めずその都度資料を提供
参考書・参考資料等	佐藤学 『教育の方法』 左右社、2010年
学生に対する評価	通常のクイズ（40%）とレポート（60%）で評価する。 評価基準：教育課程の理解と具体的な展開の理解がなされたかどうか、発表とレポートの内容より評価する。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	【必修】言語【選択】理学, 作業, 看護
担当教員			
塩見 格一			
講義		010004L1POSN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	記述統計学と推測統計学の理解とそれらの応用ができるまでを目標とする。
授業の概要	日常的に出会う多くのデータを読み解き意味のある命題を導出するための統計的な手法を身につけるために、統計学における基礎的な概念や手法を、それぞれ幾つかの課題を例として分析することで理解を図る。
授業計画	<p>第1回 講義内容、授業の進め方、成績の付け方等についての説明 事前学習： 統計学の授業においては、毎回、アクティブ・アカデミーを利用して、授業で使用するデータを *.csv あるいは *.xlsx 形式で事前に配布します。各人においてこの配布されたデータをダウンロードして、エクセル等の表計算ソフトウェアにより開き、折れ線グラフや散布図の生成が可能であることを確認し、また以下のキーワードについて、その意味を参考資料等により調べてノートにまとめておくことが必要です。(2時間) キーワード： 保健統計、統計データ、質的データ、量的データ 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>第2回 記述統計学・推測統計学の概略説明と統計学の全体像説明 事前学習： 配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード： 記述統計学、推測統計学、フィッシャーの統計学、ナイチンゲールの業績 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>第3回 データの分類、データの図示、度数分布表、ヒストグラム 事前学習： 配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード： 度数分布表、ヒストグラム、階級幅、階級値 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>第4回 最頻値、中央値、平均値 事前学習： 配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード： 標本データ、平均値、中央値、最頻値、四分位数、四分位区間、外れ値 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>第5回 範囲、分散、標準偏差、歪度、尖度 事前学習： 配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード： 範囲、分散、標準偏差、歪度、尖度、標本標準偏差、不偏標準偏差、自由度 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>第6回 正規分布とその応用 事前学習： 配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード： 正規分布、標準正規分布、累積正規分布、誤差関数、カール・フリードリッヒ・ガウス(人名) 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>第7回 t分布、χ^2分布、F分布、2項分布、ポアソン分布 事前学習： 配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード： t分布、χ^2分布、F分布、2項分布、ポアソン分布、ヤコブ・ベルヌーイ(人名)、シメオン・ドニ・ポアソン(人名) 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>第8回 母集団、標本、標本平均の分布、母集団と標本の関係、中心極限定理 事前学習： 配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード： 母集団、標本、標本平均の分布、中心極限定理、 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>第9回 母集団の母数の区間推定 事前学習： 配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード： 標準誤差、区間推定、95%信頼区間、下限値、上限値 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p>

第10回	<p>仮説検定とは、仮説検定の手順、帰無仮説、対立仮説、有意水準 事前学習：配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード：仮説検定、帰無仮説、対立仮説、有意水準、危険率、検出力、第1種過誤、第2種過誤、P値 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個人の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p>
第11回	<p>両側検定、片側検定、Z検定、t検定 事前学習：配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード：両側検定、片側検定、Z検定、t検定 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個人の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p>
第12回	<p>母平均の検定、2つの母平均の差の検定 事前学習：配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード：母平均の検定、母平均の差の検定、母相関係数、母比率、同等性試験、非劣性試験 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個人の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p>
第13回	<p>分散分析とは、一元配置分散分析 事前学習：配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード：分散分析、一元配置分散分析、二元配置分散分析、主成分分析 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個人の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p>
第14回	<p>相関図、相関係数、回帰直線、順位相関係数 事前学習：配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード：相関図、相関係数、回帰直線、順位相関係数、回帰分析、ロジスティック回帰分析 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個人の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p>
第15回	<p>ベイズ統計、21世紀の統計学 事前学習：配布されたデータの内容を確認し、以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード：ベイズの定理、ベイズ統計、ベイズ推定、コンピュータ・シミュレーション 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個人の学習資料を作成・追加する。(2時間) 定期試験</p>
テキスト	縣俊彦著：やさしい保健統計学（改訂第5版増補）南江堂
参考書・参考資料等	倉田博史 監修：東京大学の先生伝授 文系のためのめっちゃやさしい 統計 NEWTON PRESS 倉田博史 監修：東京大学の先生伝授 文系のためのめっちゃやさしい 確率 NEWTON PRESS
学生に対する評価	定期試験（筆記試験100%）
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	9時から18時、講義終了後にも適宜対応する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【選択】理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
塩見 格一			
講義		010005L1POSNH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	<p>情報処理の基礎知識を理解し、文書作成からプレゼンテーションまでの情報処理技術、及び表計算ソフトによる統計等データ処理に係る情報処理技術を身に付けることを目標とする。</p> <p>1) コンピュータのハードウェアとソフトウェア等システム構成を理解し、情報表現・情報処理・情報検索等を実施する技術を身に付ける。</p> <p>2) 一般的な情報技術として、具体的にオフィス・アプリケーションの統合的な用法を習得する。</p> <p>3) 情報倫理とリテラシーを理解し、インターネット・アプリケーションを利用して、日常的な様々な問題を解決するインターネットの応用技術を習得する。</p>
授業の概要	<p>医療分野では広くコンピュータが使われ、基本的な情報処理技術は全ての医療従事者に必要不可欠なものとなっている。そこで本授業では、社会に普及している情報処理基盤の利用に要する技術的な知識を、これを支える知識として情報科学の発展の経緯から将来的な展望までを基本的な概念の理解と共に身につけられるように、実践的な課題を処理して学習する。</p>
授業計画	<p>第1回 コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて説明できる 情報科学の授業では、実際にパソコンを使用して課題を解きます。 インターネットに Wi-Fi 接続できるように調整したパソコンを準備する必要があります。 事前学習： 課題は事前にアクティブ・アカデミーにより配布致しますので、配布された課題やデータの内容を確認し、また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード： コンピュータの起源と発展の歴史、ハードウェア、ソフトウェア、アラン・チューリング(人名)、ジョン・ノイマン(人名) 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>第2回 高度情報化社会で使われる情報表現・情報処理・情報検索の技術、インターネットや情報倫理について説明できる 事前学習： 配布された課題やデータを確認し、また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード： 情報表現・情報処理・情報検索の技術、インターネットの仕組みと応用、情報倫理 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>第3回 ワープロソフトWordを使った基礎的情報表現ができる 事前学習： 配布された課題やデータを確認し、また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード： Word 画面構成、文書の作成、表の作成、文書の編集、文書の保存・印刷 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>第4回 ワープロソフトWordを使った応用的情報表現ができる 事前学習： 配布された課題やデータを確認し、また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード： 図形を使った文書作成、長文の作成、文書の校閲、Excel データの利用、便利な機能 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>第5回 表計算ソフトExcelを使った基礎的情報処理ができる 事前学習： 配布された課題やデータを確認し、また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード： Excel の画面構成、表作成、表内計算、ソート、検索・抽出、グラフ作成、保存・印刷 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>第6回 表計算ソフトExcelを使った応用的情報処理ができる 事前学習： 配布された課題やデータを確認し、また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード： 関数の利用、データベースの活用、ピボットテーブル、便利な機能 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>第7回 プレゼンテーションソフトPowerPointを使った基礎的プレゼンテーション資料の作成ができる 事前学習： 配布された課題やデータを確認し、また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード： PowerPoint の画面構成、文字入力、表作成、グラフ作成、図形作成、画像挿入、保存・印刷 事後学習： 講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個々の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>第8回 プレゼンテーションソフトPowerPointを使った応用的プレゼンテーションができる 事前学習： 配布された課題やデータを確認し、また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間) キーワード： 画像の加工、Word・Excelデータの利用、原稿作成、プレゼンテーションの校閲、</p>

第9回	<p>スライドショー 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個人の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>インターネットの基礎的活用ができる</p> <p>事前学習：配布された課題やデータを確認し、また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間)</p> <p>キーワード：インターネットの歴史、インターネット・ブラウザ、ホームページの検索・利用、YouTube、SNS</p>
第10回	<p>事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個人の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>インターネットの応用的活用ができる</p> <p>事前学習：配布された課題やデータを確認し、また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間)</p> <p>キーワード：メディカルオンラインを使った医学文献検索、翻訳機能</p>
第11回	<p>事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個人の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>表計算ソフトExcelを使って、基礎的統計計算ができる</p> <p>事前学習：配布された課題やデータを確認し、また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間)</p> <p>キーワード：平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差、変動係数、歪度、尖度、度数分布表作成、ヒストグラム作成</p>
第12回	<p>事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個人の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>表計算ソフトExcelを使って、相関分析と回帰分析ができる</p> <p>事前学習：配布された課題やデータを確認し、また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間)</p> <p>キーワード：散布図、相関係数、相関分析、回帰直線、決定係数、回帰分析</p>
第13回	<p>事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個人の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>表計算ソフトExcelを使って、2項分布、ポアソン分布、正規分布を求めることができる</p> <p>事前学習：配布された課題やデータを確認し、また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間)</p> <p>キーワード：2項分布、ポアソン分布、正規分布</p>
第14回	<p>事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個人の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>表計算ソフトExcelを使って、母平均の推定ができる</p> <p>事前学習：配布された課題やデータを確認し、また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間)</p> <p>キーワード：推測統計学とは、母集団、標本、標本平均の分布、母集団と標本の関係、中心極限定理、信頼度、区間推定</p>
第15回	<p>事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個人の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>表計算ソフトExcelを使って、仮説検定ができる</p> <p>事前学習：配布された課題やデータを確認し、また以下のキーワードについて調べてノートにまとめます。(2時間)</p> <p>キーワード：仮説検定とは、仮説検定の手順、帰無仮説と対立仮説、有意水準、両側検定、片側検定、Z検定、t検定</p> <p>事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、個人の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>定期試験</p>
テキスト	<p>杉本 くみ子, 大澤 栄子 著：30時間でアカデミック Office2019 実教出版 小舘香椎子他著：教養のコンピュータサイエンス 情報科学入門 第3版, 丸善, 2020年出版</p>
参考書・参考資料等	<p>小林健一郎他著：教養情報科学概論ーユビキタス時代の情報活用ー, 共立出版, 2006年出版 菅民郎著：「Excelで学ぶ統計解析入門 - Excel2019/2016 対応版, Ohmsha, 2020年出版」</p>
学生に対する評価	定期試験(筆記試験50%), 課題50%
課題(試験やレポート等)に対応するフィードバックの方法	9時から18時, 講義終了後にも適宜対応する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	【選択】理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
塩見 格一			
講義		010006LIP0SN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	人間工学は、使い易い機器や安全で快適な生活環境等を実現し、更に、技術をより人に優しくし、機械をより使い易くし、より快適な生活環境の実現を目的とする学問である。従って、人間工学は、その地域に、またその時々の人間の生活に密着したものでなければならず、本授業では、日常生活における人間工学的な成果を理解するために知識を獲得し、日常生活において経常的に人間工学的な眼差しを持ち続ける姿勢を身につける。
授業の概要	人間工学は、人に優しい技術、使いやすい機器、生活しやすい環境を創るために生まれてきた学問であり、いろいろな分野で広く応用されている。現代はコンピュータ技術、情報科学、システム工学などの進歩によって人間と機械との境界がなくなり、人間と機械・機器・システムの関係が変化してきている。人間と機械の関わり、人間の運動特性と心理・感性、人間工学の応用とヒューマンインターフェース、医療技術と人間工学などについて、具体例に基づいて学ぶ。
授業計画	<p>第1回 人間工学の目的とその意義、歴史的な人間工学の成果 事前学習：人間工学の授業では毎回の講義の前に、アクティブ・アカデミーによる当日の資料を配布します。 ・配布資料には、章毎に、また適宜キーワードが示されていますから、キーワードについて調べてノートにまとめて下さい。(2時間) キーワード：人間工学と安全工学、原子力事故、航空宇宙事故、20世紀の重大事故、21世紀の重大事故 ・また、YouTubeなどの動画資料も示すこともありますから、その場合はその動画を見て下さい。 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、各々の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>第2回 人間工学の枠組みと周辺の学術分野との関係 事前学習：アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。(2時間) キーワード：航空機のcockpitや自動車の運転席の発展の歴史とその発展に寄与した科学と工学 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、各々の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>第3回 日常生活における快適性の向上を具体的に実現した人間工学的成果 事前学習：アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。(2時間) キーワード：日常生活における必需品の変遷の歴史、筆記具の歴史、計算機や計量器の歴史、情報処理機器の歴史 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、各々の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>第4回 産業環境・社会基盤の効率化と安全性向上を両立させる人間工学の役割 事前学習：アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。(2時間) キーワード：社会基盤の構成要素、産業革命と情報革命の類似点と相違点、文化的な差異による人命に対する考え方 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、各々の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>第5回 「使い易い」という事柄の科学的・工学的な理解 事前学習：アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。(2時間) キーワード：キッチン・ツールは使い易いか？、家電製品、情報処理機器、自転車や自動車 ・使い易いという事はどのようなことか考察します。 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、各々の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>第6回 人体の形状と機能を考慮した作業目的に対する合理的作業環境と作業姿勢 事前学習：アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。(2時間) キーワード：オートクチュール、プレタポルテ、ユニバーサル・デザイン、ロナルド・メイス(人名) 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、各々の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>第7回 人体の生理機能、またその概日周期や高齢化等による変化 事前学習：アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。(2時間) キーワード：身体と精神の健全性、自律神経の働き、高齢化 ・高齢化により低下する機能や失われる機能は如何に代替・支援されるべきか？ 事後学習：講義で説明した内容を確認して、またデータ処理の結果を、ノートに追加して、各々の学習資料を作成・追加する。(2時間)</p> <p>第8回 ストレス(精神負担と生体負担)の概念と、その計測手法 事前学習：アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノート</p>

	<p>第9回 にまとめて下さい。(2時間) キーワード: 疲労とストレス, 汎適応症候群, 心身症, 神経症, ハンス・セリエ (人名) 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, またデータ処理の結果を, ノートに追加して, 個々人の学習資料を作成・追加する。(2時間) 疲労とストレスの関係, また健全性を維持するための手法</p> <p>第10回 事前学習: アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。(2時間) キーワード: 疲労やストレスの計測, 疲労指標, 自律神経系における反応, 過労死, 上畑鉄之丞 (人名) 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, またデータ処理の結果を, ノートに追加して, 個々人の学習資料を作成・追加する。(2時間) スリップや躓きの防止等, 生活環境の危険を排除する人間工学の役割と成果</p> <p>第11回 事前学習: アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。(2時間) キーワード: 転倒・転落事故の防止, 家庭内での事故防止, 風呂場とトイレ, 屋外での事故防止, 交通事故の防止 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, またデータ処理の結果を, ノートに追加して, 個々人の学習資料を作成・追加する。(2時間) 事故や高齢化により低下した身体機能の補完技術における人間工学的な考え方</p> <p>第12回 事前学習: アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。(2時間) キーワード: 認知機能, 事故の認知, 錯覚, 誤解, 能力の不足・欠如, ・・, 知的機能の補完技術としての AI ・個々人の必要性に対応した技術支援が必要ですが, ユニバーサル・デザインの考え方などを踏まえて, 集約・共通化は可能でしょうか? 「何をする場合も AI を呼び出して, リクエストして, 自分では直接的な操作などは一切行わないで済ませることは可能になるのでしょうか?」 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, またデータ処理の結果を, ノートに追加して, 個々人の学習資料を作成・追加する。(2時間) 具体的事故例から考えるヒューマンファクターとヒューマンエラーの関係</p> <p>第13回 事前学習: アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。(2時間) キーワード: (家電製品やガス器具などの) 誤操作, 自動車の運転における誤操作 ・誤操作はなぜ起こるのか? なぜ繰り返されるのか? 自動車の運転における誤操作は技術により防げるか? 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, またデータ処理の結果を, ノートに追加して, 個々人の学習資料を作成・追加する。(2時間) 生活環境や作業環境におけるリスクアセスメント</p> <p>第14回 事前学習: アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。(2時間) キーワード: 理想的な生活環境, 未来社会における生活必需品, QOL, ドナルド・ノーマン (人名) ・人間らしい生活に必要な最小限なモノと社会環境基盤の関係を検討・考察しましょう。 ・生きることと, 生き活きと生きることについて考察しましょう。 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, またデータ処理の結果を, ノートに追加して, 個々人の学習資料を作成・追加する。(2時間) 未知の事態への対応とその準備として人間工学において為すべき事柄</p> <p>第15回 事前学習: アクティブ・アカデミーにより配布する資料に示すキーワードについて調べてノートにまとめて下さい。(2時間) キーワード: 太古の衣食住, 文明黎明期の衣食住, 中世社会の衣食住, ルネッサンス期の衣食住, 近代・現代の衣食住, 未来の衣食住 ・中世からルネッサンス期の衣食住については, キリスト教社会, イスラム教社会, 中華儒教社会, 日本の平安時代から江戸時代, などなどと区別して考える必要がありますが, それぞれの社会においても上流階級と中下流階級では全く異なる生活をしていたのかも知れません。想像力を働かせて, 個々人は何のために, 何を求めて現世を生きていたのか? 考えてみましょう。 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, またデータ処理の結果を, ノートに追加して, 個々人の学習資料を作成・追加する。(2時間) 人の幸福の実現のための人間工学と人間工学の可能性を広げる周辺科学</p> <p>定期試験</p>
テキスト	特になし, 毎回資料を配布する。
参考書・参考資料等	福田収一著「デザイン工学」(財)放送大学教育振興会 D.A.ノーマン著「誰のためのデザイン? 増補・改訂版」新曜社。
学生に対する評価	定期試験(筆記試験100%)
課題(試験やレポート等)に対応するフィードバックの方法	9時から18時 講義終了後にも適宜対応する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【選択】理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
青井 利哉			
講義	A T対象科目	010101L1POSNA	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	人の心を科学的に扱うことができるのかについて学ぶとともに、自分自身や他者、日常における様々な問題について心理学的視点から捉えることができるようになる。		
授業の概要	現代の心理学は、人間についての科学的で総合的な理解を目標に、心の働きと行動について研究する学問である。治療やケアの対象となる人間の心理や行動を追及し、多面的に理解するための心理学の基礎(知覚や感覚、学習、記憶、情動や動機付け、思考や言語、発達、性格)を学ぶ。 また心理学を学習することで、自己理解や自己統制を助け人間形成にも役立てる。心理学の基礎知識、方法論を学習し、自他の理解について、心理学的なアプローチがあることを学習する。		
授業計画	第1回	心理学の歴史と広がり II-3-① いわゆる近代心理学が成立した年としては1879年があげられる。エビングハウスが1908年に出版した心理学要論の冒頭には、「心理学の過去は長いが歴史は短い」と書かれてあるが、その意味について概説する。 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第2回	心理学の研究法 実験法、質問紙法、面接法、観察法、心理検査法といった基本的な研究法の実証的論理を把握する。 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第3回	人間行動を心理学で説明するための基礎を理解する 心理学は「行動の科学」などと言われている。心理学には研究の領域によってさまざまな分野に分かれている。実験心理学、認知心理学、学習心理学、社会心理学、臨床心理学などのそれぞれの領域では人の行動をどのように説明しようとするのか概説する。 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第4回	感覚と知覚 感覚は、感覚器官を経由して外部世界や身体内部に関する情報を受容する過程のことで、知覚は感覚器官からの情報を過去の学習・経験によって活用したりすると考えられているが、具体的にどうということなのか説明する。 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第5回	学習（1）古典的条件づけ、オペラント条件づけ、学習理論 III-3-③ 学習というと学校の勉強という印象が強いが、心理学では、私たちが経験を通して身に付けたものを学習と捉える。学習（1）では、古典的条件づけにみられる基本的な学習を学ぶ。 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第6回	学習（2）技能学習、社会的学習 III-6-② 技能を獲得するとはどういうことなのだろうか。自転車に乗れた経験や、楽器がうまくなりたくて猛練習した経験など、学習（2）では、特に動作や技術の習得についての学習を説明する。 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第7回	演繹的推論、帰納的推論、思考について 思考が果たす機能には、直面している問題を解決したり、対処したりするという特徴がある。例えば、「全ての人は死ぬ、ソクラテスは人である」から導かれる答えは何だろう。推論に見られる人の思考のあり方について説明する。 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第8回	感情、動機づけ II-3-②, II-3-③ 人のさまざまな行動の背景には、行動を起こそうとする心の働きがある。行動を起こそうとする心の働きを動機づけと言い、行動を起こそうとする心の働きと、行動を起こした結果には、感情の揺れ動きが大きくかかわっている。 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	

第9回	<p>事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 記憶の特徴（感覚記憶、短期記憶、長期記憶） 心理学で扱う記憶を、感覚記憶、短期記憶、長期記憶に分類して説明する。</p>
第10回	<p>事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 記憶と忘却 忘却とは何か、なぜ忘却が起きるのか、さまざまな説を紹介しながら説明する。</p>
第11回	<p>事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） パーソナリティやパーソナリティを調べる諸方法、個人差について III-6-① パーソナリティとは、人格・個性・性格と同義で、特に個人の全体的な特性の総体を言うが、私たちのパーソナリティをどのように調べるのか、具体的な検査を紹介しながら説明する。</p>
第12回	<p>事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 欲求不満とストレス ストレスが引き起こす心理的な反応について説明する。</p>
第13回	<p>事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 発達の特徴（発達段階、発達課題） III-10-⑥ 人の成長過程においては、個人差はあるものの、多くの人に共通して見られる発達段階ごとの特徴がある。種々の発達段階や発達理論を紹介するので、自分自身の発達と照らし合わせて聞いて欲しい。</p>
第14回	<p>事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 他者を知ること（対人認知、印象形成） 周りにいる他者について、その人がどんな人か推測したり、他者の内面についてさまざまに思いめぐらせることは誰もが行うことである。人がどのように他者の印象を形成するのか説明する。</p>
第15回	<p>事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 心理アセスメント III-6-①, III-10-⑥ アセスメントには、評価や査定という意味がある。心理療法などの臨床心理学的援助の過程において、面接や心理検査などの技法を用いて行うかわりのことである。なぜ心理アセスメントが必要なのか、事例を紹介しながら説明する。</p> <p>事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 定期試験</p>
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書・参考資料等	松川順子 編：「心・理・学」、ナカニシヤ出版、2009年 鈴木常元、谷口泰富、有光興起、他6名：心理学、新曜社、2014年 リファレンスブック 公益財団法人 日本スポーツ協会 発行
学生に対する評価	筆記試験100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月曜日、水曜日の午後 研究棟2階教員室
備考	※日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナ養成「共通科目」読替

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【選択】理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
高木 祐介			
講義		010102L1POSN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	生命倫理学の視点から、「生命」、「ヒト」、「死」、「性」、「幸福」、「医療」、「研究」等について考察し、社会で顕在化する関連事象について、多義的に解釈できるようになることを目指します。
授業の概要	テレビや新聞等を毎日眺めると、実に多くの生命倫理に関するニュースがあることに気づきます。皆さんは、どのように感じ取っているのでしょうか。自身の価値観で、あるいは感情のままに考えている方、いるかと思います。皆さんは、将来、医療従事者になる可能性が高い大学生です。「生命」や「ヒトが生きること」、「性」や「死」等に関して、広く深い見聞が求められます。また、医療現場における多種多様な人々との対応の中で、これらに係る考え方が基礎となって解決されることもあるかと思います。そういったことから、皆さんがこれから培っていく考え方に、生命倫理学の視点を入れ、生命に係る様々な事象に対して多義的な解釈ができるようになって欲しいと思っています。本講義では、以上のような考えを基に、生命倫理学の基礎とそれに係る社会的な事象、関連する学問分野（社会学、法学、心理学、等）について、皆さんと共に考えていきます。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、ヒトとは何か？生命とは何か？ 事前学習：シラバスを熟読しましょう。ヒト科の生物の意思伝達方法や子育て等も調べましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で演習した問題も復習しましょう（2時間）</p> <p>第2回 ヒトの理想の生き方とは何か？（1） 事前学習：自己の理想の生き方について、考えてください。人生設計図をつくることもよいです。（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で演習した問題も復習しましょう（2時間）</p> <p>第3回 ヒトの理想の生き方とは何か？（2） 事前学習：前回講義で学習した内容を整理し、延命や多様性に係る様々な問題を調べてみましょう。（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で演習した問題も復習しましょう（2時間）</p> <p>第4回 ヒトの死について、生命倫理学の視点から考える（1） 事前学習：自殺、他殺、死刑制度、人体実験について、関係する歴史・社会問題を調べてみましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で議論した内容も振り返りましょう（2時間）</p> <p>第5回 ヒトの死について、生命倫理学の視点から考える（2） 事前学習：緩和ケア、リビング・ウィル、尊厳死、安楽死について、調べてみましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で議論した内容も振り返りましょう（2時間）</p> <p>第6回 ヒトの死について、生命倫理学の視点から考える（3） 事前学習：人工妊娠中絶について、様々な視点から調べてみましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で議論した内容も振り返りましょう（2時間）</p> <p>第7回 ヒトの死について、生命倫理学の視点から考える（4） 事前学習：宗教上の問題、呪術療法、戦争、をテーマとした種々の問題を調べてみましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で議論した内容も振り返りましょう（2時間）</p> <p>第8回 ヒトが摂取するものについて、生命倫理学の視点から考える 事前学習：人工的に細胞を培養してつくられた食物について、調べてみましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で演習した問題も復習しましょう（2時間）</p> <p>第9回 医療における自己決定権と説明責任を考える（1） 事前学習：医療過誤や医療従事者の法的責任について、調べてみましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で演習した問題も復習しましょう（2時間）</p> <p>第10回 医療における自己決定権と説明責任を考える（2） 事前学習：前回授業で作成したノートを整理し、復習しましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で演習した問題も復習しましょう（2時間）</p> <p>第11回 医学研究における不正を考える 事前学習：捏造、盗用、改竄について、その読み方と意味、それらに係る事件を調べてみましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で演習した問題も復習しましょう（2時間）</p> <p>第12回 育児・介護に係る倫理的課題（1）</p>

	<p>事前学習：赤ちゃんポスト、児童虐待、子どもの権利について、調べてみましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で演習した問題も復習しましょう（2時間）</p> <p>第13回 育児・介護に係る倫理的課題（2） 事前学習：認知症、高齢者虐待、ターミナルケアについて、調べてみましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で演習した問題も復習しましょう（2時間）</p> <p>第14回 育児・介護に係る倫理的課題（3） 事前学習：障がい者虐待、ノーマライゼーション、ユニバーサル・デザインを調べてみましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、講義内容を理解しましょう。講義で演習した問題も復習しましょう（2時間）</p> <p>第15回 まとめ 事前学習：これまでにノートに記したことを整理し、学習した内容を振り返りましょう（2時間） 事後学習：ノートを整理し、全講義内容を理解しましょう。（2時間） ※授業進度や状況等によって、予定変更もあります。</p> <p>定期試験 実施します（授業内で出題範囲等に関するアナウンスをします）</p>
テキスト	適宜資料等を配布します。
参考書・参考資料等	講義中に適宜紹介する。
学生に対する評価	定期試験 70%、課題（ミニレポート、あるいは、発表等）30%とします。その他、適宜加点あるいは減点し、総合して評価します。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義終了時に対応する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【必修】理学, 作業, 言語
担当教員			
浅井 純子			
演習		010103S1POSNH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	高校で学んだ基礎的知識を補強しつつ、基礎レベルの英文読解力・聴解力・英文作成能力・英会話力の充実を図ることを目的とする。
授業の概要	日常的な文化・社会・国際問題などや学生が関心を寄せることができる身近な話題を題材にして、語彙力の増加と基本的な構文の再確認及び英文の反復練習に重点をおきながら、上記の四つの英語コミュニケーション能力をバランスよく身につけられる学習を行う。またポスタープレゼンテーションを通してプレゼンテーションの基礎を学ぶ。
授業計画	<p>Week 1 Introduction オリエンテーションを行った後、英語で自己紹介をする 事前学習 (2時間) テキストに目を通しておく 事後学習 (2時間) 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 2 Unit 1 Meeting People Unit 1 を用いて語彙学習およびリスニング・スピーキング活動を行う 事前学習 (2時間) この章で扱う新しい語彙を確認し、リスニング・スピーキング活動のための準備をする 事後学習 (2時間) 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 3 Unit 1 Meeting People Unit 1 を用いてリーディング・ライティング活動を行う 事前学習 (2時間) この章で行うリーディング・ライティング活動のための準備をする 事後学習 (2時間) 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 4 Unit 2 Countries and Nationalities Unit 2 を用いて語彙学習およびリスニング・スピーキング活動を行う 事前学習 (2時間) この章で扱う新しい語彙を確認し、リスニング・スピーキング活動のための準備をする 事後学習 (2時間) 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 5 Unit 2 Countries and Nationalities Unit 2 を用いてリーディング・ライティング活動を行う 事前学習 (2時間) この章で行うリーディング・ライティング活動のための準備をする 事後学習 (2時間) 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 6 Unit 3 Family Unit 3 を用いて語彙学習およびリスニング・スピーキング活動を行う 事前学習 (2時間) この章で扱う新しい語彙を確認し、リスニング・スピーキング活動のための準備をする 事後学習 (2時間) 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 7 Unit 3 Family Unit 3 を用いてリーディング・ライティング活動を行う 事前学習 (2時間) この章で行うリーディング・ライティング活動のための準備をする 事後学習 (2時間) 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 8 まとめのテスト Week 1～Week 7 までの総まとめを行った後、まとめのテストを実施する 事前学習 (2時間) まとめのテストに向けて復習を行う 事後学習 (2時間) まとめのテストの結果を見直し、理解不十分な点について改善を行う</p> <p>Week 9 Unit 4 Describing People Unit 4 を用いて語彙学習およびリスニング・スピーキング活動を行う ポスター発表の準備をする 事前学習 (2時間) この章で扱う新しい語彙を確認し、リスニング・スピーキング活動のための準備をする 事後学習 (2時間) 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 10 Unit 4 Describing People Unit 4 を用いてリーディング・ライティング活動を行う ポスター発表の準備をする 事前学習 (2時間) この章で行うリーディング・ライティング活動のための準備をする 事後学習 (2時間) 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 11 Unit 5 Food and Drinks Unit 5 を用いて語彙学習およびリスニング・スピーキング活動を行う ポスター発表の準備をする 事前学習 (2時間) この章で扱う新しい語彙を確認し、リスニング・スピーキング活動のための準備をする 事後学習 (2時間) 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 12 Unit 5 Food and Drinks Unit 5 を用いてリーディング・ライティング活動を行う ポスター発表の準備をする 事前学習 (2時間) この章で行うリーディング・ライティング活動のための準備をする</p>

	<p>Week 13 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する Unit 6 Things We Do Unit 6 を用いて語彙学習およびリスニング・スピーキング活動を行う ポスター発表の準備をする 事前学習（2時間）この章で扱う新しい語彙を確認し、リスニング・スピーキング活動のための準備をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 14 Unit 6 Things We Do Unit 6 を用いてリーディング・ライティング活動を行う ポスター発表の準備をする 事前学習（2時間）この章で行うリーディング・ライティング活動のための準備をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 15 ポスター発表 プレゼンテーションを行う 事前学習（2時間）プレゼンテーションに向けてリハーサルを行う 事後学習（2時間）プレゼンテーションの評価を見直す</p> <p>定期試験 行わない</p>
テキスト	Stretch: Second Edition Starter Student Book A with Online Practice Oxford University Press (2024) ISBN 978-0-19-413568-9
参考書・参考資料等	英和・和英辞典が必要
学生に対する評価	小テスト 20% 授業中のアクティビティへの積極的な参加 10% まとめのテスト 30% ポスター発表 40%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義終了時、または研究室が「在室」表示であって面談可能な時に、質問等を受け付けます
備考	本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	【必修】作業、言語
担当教員			
Lorraine Sakka			
演習		010104S1POSN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	看護とリハビリテーションの領域における医療英語の読解・聴解・英文作成・英会話の四分野の基本的英語コミュニケーション能力の育成を目的とする。
授業の概要	平易な英文で書かれた医療関係の情報の収集方法の習得と、英文記事などを読解するために、かつ簡単な英文を作成するために基礎的な医療英語の語彙・用語と文章表現を学習する。臨床現場で簡単な会話もできるように、医療英会話の基本的表現の聴解と運用の学習を行う。またポスタープレゼンテーションを通してプレゼンテーションの基礎を学ぶ
授業計画	<p>第1回 Introduction オリエンテーションを行った後、英語で自己紹介をする 事前学習（2時間）英語での自己紹介の準備をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>第2回 Unit 1 At the Reception Unit 1 を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング・ライティング活動を行う 事前学習（2時間）Unit 1 の予習を行う 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>第3回 Unit 2 Medical Consultation Unit 2 を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング・ライティング活動を行う 事前学習（2時間）Unit 2 の予習を行う 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>第4回 Unit 3 Medical Examination Unit 3 を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング・ライティング活動を行う 事前学習（2時間）Unit 3 の予習を行う 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>第5回 Unit 4 Guide to Medical Departments Unit 4 を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング・ライティング活動を行う 事前学習（2時間）Unit 4 の予習を行う 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>第6回 Unit 5 Review Unit 1-4 Unit 5 を用いて Unit 1-4 を復習する 事前学習（2時間）Unit 5 の予習を行う 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>第7回 まとめのテスト Week 1～Week 6 までの総まとめを行った後、まとめのテストを実施する 事前学習（2時間）これまでに学習した箇所を再度復習し、まとめのテストに向けての準備を行う 事後学習（2時間）まとめのテストの結果を見直し、理解不十分な点について改善を行う</p> <p>第8回 Unit 6 Diagnosis Results Unit 6 を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング・ライティング活動を行う ポスター発表の準備をする 事前学習（2時間）Unit 6 の予習を行う 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>第9回 Unit 7 Medicine Unit 7 を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング・ライティング活動を行う ポスター発表の準備をする 事前学習（2時間）Unit 7 の予習を行う 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>第10回 Unit 8 Preoperative Testing 1 Unit 8 を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング・ライティング活動を行う ポスター発表の準備をする 事前学習（2時間）Unit 8 の予習を行う 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>第11回 Unit 9 Preoperative Testing 2 Unit 9 を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング・ライティング活動を行う ポスター発表の準備をする 事前学習（2時間）Unit 9 の予習を行う 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>第12回 Unit 10 Review Unit 6-9 Unit 10 を用いて Unit 6-9 を復習する ポスター発表の準備をする 事前学習（2時間）Unit 10 の予習を行う 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>第13回 Unit 11 Hospitalization before the Operation Unit 11 を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング・ライティング活動を行う</p>

	<p>ポスター発表の準備をする 事前学習（2時間）Unit 11 の予習を行う 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>第14回 Unit 12 Operation Unit 12 を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング・ライティング活動を行う ポスター発表の準備をする 事前学習（2時間）Unit 12 の予習を行う 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>第15回 ポスター発表 プレゼンテーションを行う 事前学習（2時間）プレゼンテーションのリハーサルを行う 事後学習（2時間）プレゼンテーションの評価結果を見直す</p> <p>定期試験行わない</p>
テキスト	<p>First Steps in English for Nursing ここからはじめる看護英語 ー基本から実践へー 朝日出版社（2025） ISBN 978-4-255-15742-9</p>
参考書・参考資料等	英和・和英辞典が必要
学生に対する評価	<p>学生に対する評価 小テスト 20% 授業中のアクティビティへの積極的な参加 10% まとめのテスト 30% ポスター発表 40%</p>
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義終了時、または研究室が「在室」表示であって面談可能な時に、質問等を受け付けます
備考	本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします

講義科目名称： 英語Ⅲ（総合演習）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	【選択】理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
浅井 純子			
演習		010105S2POSN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」の学習を基にして、医療領域での総合的でより高度な英文読解力・聴解力・英文作成能力・英語によるプレゼンテーション能力の獲得を目指す。
授業の概要	福祉・文化・社会・国際分野における様々な時事情報に関して、「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」より難度の高い英文の読解・記述・聴解を通して、語彙の増加を促進しつつ、英語で思考する習慣を身につけ意思疎通もできるようになる学習を行う。
授業計画	<p>Week 1 Introduction オリエンテーションを行った後、英語で自己紹介をする 事前学習（2時間）自己紹介の準備をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 2 Visit to the clinic 1 配布資料を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング 活動を行う 事前学習（2時間）プリントの予習をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 3 Visit to the clinic 2 復習テスト1 配布資料を用いてリーディング・ライティング活動を行う 事前学習（2時間）プリントの予習をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 4 Injury and pain 1 復習テスト2 配布資料を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング活動を行う 事前学習（2時間）プリントの予習をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 5 Injury and pain 2 復習テスト3 配布資料を用いてリーディング・ライティング活動を行う プレゼンテーション1の準備をする 事前学習（2時間）プリントの予習をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 6 Medical examination 1 復習テスト4 配布資料を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング 活動を行う プレゼンテーション1の準備をする 事前学習（2時間）プリントの予習をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 7 Medical examination 2 復習テスト5 配布資料を用いてリーディング・ライティング活動を行う プレゼンテーション1の準備をする 事前学習（2時間）プリントの予習をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 8 Presentation 1 プレゼンテーション1を行う 事前学習（2時間）プレゼンテーション1の準備をする 事後学習（2時間）プレゼンテーションの評価結果を見直し、次回のプレゼンテーションに向けて改善を行う</p> <p>Week 9 Lifestyle-related disease 1 復習テスト6 配布資料を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング 活動を行う プレゼンテーション2の準備を開始する 事前学習（2時間）プリントの予習をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 10 Lifestyle-related disease 2 復習テスト7 配布資料を用いてリーディング・ライティング活動を行う プレゼンテーション2の準備をする 事前学習（2時間）プリントの予習をする 事後学習（2時間）授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 11 Dietary restrictions 1 復習テスト8 配布資料を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング 活動を行う プレゼンテーション2の準備をする</p>

	<p>事前学習 (2時間) プリントの予習をする 事後学習 (2時間) 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 12 Dietary restrictions 2 復習テスト9 配布資料を用いてリーディング・ライティング活動を行う プレゼンテーション2の準備をする</p> <p>事前学習 (2時間) プリントの予習をする 事後学習 (2時間) 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 13 Dementia 1 復習テスト10 配布資料を用いて語彙学習・リスニング・スピーキング 活動を行う プレゼンテーション2の準備をする</p> <p>事前学習 (2時間) プリントの予習をする 事後学習 (2時間) 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 14 Dementia 2 復習テスト11 配布資料を用いてリーディング・ライティング活動を行う プレゼンテーション2の準備をする</p> <p>事前学習 (2時間) プリントの予習をする 事後学習 (2時間) 授業で学習したことを見直し、疑問点があれば次週の授業で質問する</p> <p>Week 15 Presentation 2 プレゼンテーション2を行う 事前学習 (2時間) プレゼンテーション2に向けてリハーサルを行う 事後学習 (2時間) プレゼンテーションの評価を見直す</p> <p>定期試験 行わない</p>
テキスト	プリント配布
参考書・参考資料等	英和・和英辞典が必要
学生に対する評価	小テスト 30% 授業中のアクティビティへの積極的な参加 10% プレゼンテーション1 & 2 60%
課題 (試験やレポート等) に対応するフィードバックの方法	講義終了時、または研究室が「在室」表示であって面談可能な時に、質問等を受け付けます
備考	必修科目である「英語Ⅰ」と「英語Ⅱ」に加えて、この選択科目「英語Ⅲ」を受講することにより、英語力の強化に努めましょう 本講義 (2単位) の予習・復習時間は各2時間を標準とします

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	【選択】理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
浅井 純子			
演習		010106S1POSN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	「英語Ⅱ」と同時進行的に、日常生活と医療現場における英語によるコミュニケーション運用能力の充実と発展を図る。		
授業の概要	日常英会話と臨床英会話の基本的及び発展的表現を反復練習して身につけ、それらをロールプレイングやドラマパフォーマンスなどの色々な英語運用方法を通して、日常や国際的な場で遭遇する外国人の患者や医療従事者との意思疎通が臆せずにできる英語コミュニケーション能力を修得する。		
授業計画	Week 1	<p>オリエンテーションと第1章 Hospital Departments</p> <p>授業のオリエンテーションを行った後、(第1章) Hospital Departmentsを用いて、リスニングと医療用語の学習活動を行う</p> <p>【事前学習：2時間】医療用語の発音・意味・用法を確認し、この章でリスニングの対象となるダイアログについて、前もってその意味を把握する</p> <p>【事後学習：2時間】予習と学習活動を振り返り、誤解していた部分と理解が不十分であった部分について再学習する</p>	
	Week 2	<p>第1章 Hospital Departments</p> <p>(第1章) Hospital Departmentsを用いて、ロールプレイングと表現活動を行う</p> <p>【事前学習：2時間】この章を用いて行うロールプレイングと表現活動のための準備を行う</p> <p>【事後学習：2時間】予習と学習活動を振り返り、不十分であった部分を改善する</p>	
	Week 3	<p>第3章 Parts of the Body</p> <p>(第3章) Parts of the Bodyを用いて、リスニングと医療用語の学習活動を行う</p> <p>【事前学習：2時間】医療用語の発音・意味・用法を確認し、この章でリスニングの対象となるダイアログについて、前もってその意味を把握する</p> <p>【事後学習：2時間】予習と学習活動を振り返り、誤解していた部分と理解が不十分であった部分について再学習する</p>	
	Week 4	<p>第3章 Parts of the Body</p> <p>(第3章) Parts of the Bodyを用いて、ロールプレイングと表現活動を行う</p> <p>【事前学習：2時間】この章を用いて行うロールプレイングと表現活動のための準備を行う</p> <p>【事後学習：2時間】予習と学習活動を振り返り、不十分であった部分を改善する</p>	
	Week 5	<p>第5章 Daily Routine</p> <p>(第5章) Daily Routineを用いて、リスニングと医療用語の学習活動を行う</p> <p>【事前学習：2時間】医療用語の発音・意味・用法を確認し、この章でリスニングの対象となるダイアログについて、前もってその意味を把握する</p> <p>【事後学習：2時間】予習と学習活動を振り返り、誤解していた部分と理解が不十分であった部分について再学習する</p>	
	Week 6	<p>第5章 Daily Routine</p> <p>(第5章) Daily Routineを用いて、ロールプレイングと表現活動を行う</p> <p>【事前学習：2時間】この章を用いて行うロールプレイングと表現活動のための準備を行う</p> <p>【事後学習：2時間】予習と学習活動を振り返り、不十分であった部分を改善する</p>	
	Week 7	<p>まとめのテスト1</p> <p>Week 1-6 の総まとめとして、まとめのテスト1を行う</p> <p>【事前学習：2時間】これまでに学習した箇所を再度復習し、まとめのテストに向けての準備を行う</p> <p>【事後学習：2時間】まとめのテスト1の結果を見直し、理解不十分な点について改善を行う</p>	
	Week 8	<p>第7章 Locations of Hospital Objects</p> <p>(第7章) Locations of Hospital Objectsを用いて、リスニングと医療用語の学習活動を行う</p> <p>【事前学習：2時間】医療用語の発音・意味・用法を確認し、この章でリスニングの対象となるダイアログについて、前もってその意味を把握する</p> <p>【事後学習：2時間】予習と学習活動を振り返り、誤解していた部分と理解が不十分であった部分について再学習する</p>	
	Week 9	<p>第7章 Locations of Hospital Objects</p> <p>(第7章) Locations of Hospital Objectsを用いて、ロールプレイングと表現活動を行う</p> <p>【事前学習：2時間】この章を用いて行うロールプレイングと表現活動のための準備を行う</p> <p>【事後学習：2時間】予習と学習活動を振り返り、不十分であった部分を改善する</p>	
	Week 10	<p>第8章 Hospital Directions and Instructions</p> <p>(第8章) Hospital Directions and Instructionsを用いて、リスニングと医療用語の学習活動を行う</p> <p>【事前学習：2時間】医療用語の発音・意味・用法を確認し、この章でリスニングの対象となるダイアログについて、前もってその意味を把握する</p> <p>【事後学習：2時間】予習と学習活動を振り返り、誤解していた部分と理解が不十分であった部分について再学習する</p>	
	Week 11	<p>第8章 Hospital Directions and Instructions</p> <p>(第8章) Hospital Directions and Instructionsを用いて、ロールプレイングと表現活動を行う</p> <p>【事前学習：2時間】この章を用いて行うロールプレイングと表現活動のための準備を行う</p>	

	<p>Week 12 【事後学習：2時間】 予習と学習活動を振り返り、不十分であった部分を改善する 第10章 Chatting with a Patient (第10章) Chatting with a Patientを用いて、リスニングと医療用語の学習活動を行う 【事前学習：2時間】 医療用語の発音・意味・用法を確認し、この章でリスニングの対象となるダイアログについて、前もってその意味を把握する 【事後学習：2時間】 予習と学習活動を振り返り、誤解していた部分と理解が不十分であった部分について再学習する</p> <p>Week 13 第10章 Chatting with a Patient (第10章) Chatting with a Patientを用いて、ロールプレイングと表現活動を行う 【事前学習：2時間】 この章を用いて行うロールプレイングと表現活動のための準備を行う 【事後学習：2時間】 予習と学習活動を振り返り、不十分であった部分を改善する</p> <p>Week 14 第12章 Hospital Procedures (第12章) Hospital Proceduresを用いて、リスニングと医療用語の学習活動を行う 【事前学習：2時間】 医療用語の発音・意味・用法を確認し、この章でリスニングの対象となるダイアログについて、前もってその意味を把握する 【事後学習：2時間】 予習と学習活動を振り返り、誤解していた部分と理解が不十分であった部分について再学習する</p> <p>Week 15 まとめのテスト2 Week 8-14 の総まとめとして、まとめのテスト2を行う 【事前学習：2時間】 これまでに学習した箇所を再度復習し、まとめのテストに向けての準備を行う 【事後学習：2時間】 まとめテストの結果を見直し、理解不十分な点について改善を行う</p> <p>定期試験 行わない</p>
テキスト	Speaking of Nursing 南雲堂 (2017) ISBN 978-4-523-17850-7
参考書・参考資料等	英和辞典・和英辞典が授業中に必要
学生に対する評価	小テスト 30% 授業中のアクティビティへの積極的な参加 10% まとめのテスト1&2 60%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義終了時、または研究室が「在室」表示であって面談可能な時に、質問等を受け付けます。
備考	本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします

講義科目名称： 英会話（医療系英会話）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	【選択】理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
Lorraine Sakka			
		010106S1POSN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	「英語Ⅱ」と同時進行的に、日常生活と医療現場における英語によるコミュニケーション運用能力の充実と発展を図る。
授業の概要	日常英会話と臨床英会話の基本的及び発展的表現を反復練習して身につけ、それらをロールプレイングやドラマパフォーマンスなどの色々な英語運用方法を通して、日常や国際的な場で遭遇する外国人の患者や医療従事者との意思疎通が臆せずにできる英語コミュニケーション能力を修得する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーションと コミュニケーションゲーム；テキストの紹介、Classroom Englishと自己紹介の課題 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします</p> <p>第2回 第1章 Asking Basic Questions, 会話の練習、ペアワーク； Classroom English 復讐 自己紹介発表 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします</p> <p>第3回 第2章 Patient's First Visit；リスニングと医療用語の学習活動を行う・よくある症状単語・ペアワーク 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします</p> <p>第4回 第3章 Where's Internal Medicine?リスニングと医療用語の学習活動を行う・病院内の医科・ペアワーク・まとめと宿題 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします</p> <p>第5回 復習テスト第4章 Admission to the hospital・時間・日にち・スペルのテクニック・リスニングと使える英語のフレーズなど 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします</p> <p>第6回 第6章 Symptomsリスニングと医療の症状・病院内の医科・ペアワーク・グループワーク課題 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします</p> <p>第7回 まとめのテスト1 Week 1-6 の総まとめとして、まとめのテスト1を行う 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします</p> <p>第8回 グループ発表練習・第7章 Injuries and Emergenciesリスニングと医療の症状・Body Parts・ペアワーク 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします</p> <p>第9回 第7章 Injuries and Emergencies練習・まとめ 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします</p> <p>第10回 グループ発表 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします</p> <p>第11回 第8章 How are you feeling?リスニングと医療用語の学習活動を行う・ペアワーク・ポスター課題 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします</p> <p>第12回 患者様・クライアントと患者との会話を成功させるアドバイスなど 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします</p> <p>第13回 第10章 Medicineリスニングと医療用語の学習活動を行う・ペアワーク・服薬指導・ポスター練習 本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします</p> <p>第14回 ポスター発表</p> <p>第15回 まとめのテスト2</p> <p>Week 8-14 の総まとめとして、まとめのテスト2を行う</p>
テキスト	Speaking of Nursing 南雲堂 (2017) ISBN 978-4-523-17850-7
参考書・参考資料等	英和・和英辞典が必要
学生に対する評価	小テスト 20% 授業中のアクティビティへの積極的な参加 40% まとめのテスト1 & 2 40%

課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義終了時、または研究室が「在室」表示であって面談可能な時に、質問等を受け付けます
備考	本講義（2単位）の予習・復習時間は各2時間を標準とします

講義科目名称： スポーツ医学

授業コード：

英文科目名称： Sports Medicine

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	【選択】理学、作業、言語、看護
担当教員			
林 浩嗣・小俣 直人			
講義	AT&初級障がい者スポーツ指導員 対象科目(理学・作業・言語)	010107L2POSNA	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	スポーツ指導者がスポーツ医学に関する知識を持つことの重要性について理解を深め、スポーツ活動と健康(QOL)との関わりについて学ぶ。スポーツ活動中に多いケガや病気について、その発生の原因や症状について理解し、スポーツ指導者としての対応の仕方について学ぶ。スポーツと精神医学の関わりや、精神障害者スポーツについて学ぶ。
授業の概要	(オムニバス方式/全15回) (林 浩嗣/全12回) スポーツに関する医学的知識、アンチ・ドーピング、障がい者とスポーツについて学ぶ。 (小俣 直人/全3回) スポーツと精神医学の関わりや、精神障害者スポーツについて学ぶ。
授業計画	<p>第1回 スポーツと健康 (担当：林 浩嗣) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (2時間)</p> <p>第2回 アスリートの健康管理 (担当：林 浩嗣) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (2時間)</p> <p>第3回 アスリートの内科的障害と対策 (担当：林 浩嗣) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (2時間)</p> <p>第4回 女性アスリートの障害と対策 (担当：林 浩嗣) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (2時間)</p> <p>第5回 スポーツによる精神障害と対策 (担当：林 浩嗣) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (2時間)</p> <p>第6回 外傷・障害の予防 (担当：林 浩嗣) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (2時間)</p> <p>第7回 コンディショニングの手法 (担当：林 浩嗣) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (2時間)</p> <p>第8回 救急処置 (救急蘇生法) (担当：林 浩嗣) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (2時間)</p> <p>第9回 救急処置 (外科的応急処置) (担当：林 浩嗣) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (2時間)</p> <p>第10回 アンチ・ドーピング (総論) (担当：林 浩嗣) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (2時間)</p> <p>第11回 アンチ・ドーピング (各論) (担当：林 浩嗣) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (2時間)</p> <p>第12回 障がい者とスポーツ (担当：林 浩嗣) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (2時間)</p> <p>第13回 スポーツにおける精神医学の役割 (担当：小俣 直人) 事前学習：上記に該当する内容をテキストや参考書で事前学習しておくこと (2時間)</p>

	<p>第14回 事後学習：テキストや参考書、配布資料で事後学習しておくこと（2時間） 精神医学におけるスポーツの役割 （担当：小俣 直人） 事前学習：上記に該当する内容をテキストや参考書で事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキストや参考書、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）</p> <p>第15回 精神障害者スポーツ （担当：小俣 直人） 事前学習：上記に該当する内容をテキストや参考書で事前学習しておくこと（2時間） 事後学習：テキストや参考書、配布資料で事後学習しておくこと（2時間）</p>
テキスト	公益財団法人日本スポーツ協会：Reference Book、2019
参考書・参考資料等	<p>①公益財団法人日本スポーツ協会：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト第3巻 スポーツ外傷・障害の基礎知識、文光堂、2019</p> <p>②公益財団法人日本スポーツ協会：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト第4巻 健康管理とスポーツ医学、文光堂、2019</p> <p>③公益財団法人日本スポーツ協会：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト第6巻 予防とコンディショニング、文光堂、2019</p> <p>④公益財団法人日本スポーツ協会：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト第8巻 救急処置、文光堂、2019</p> <p>⑤（公財）日本障がい者スポーツ協会（編）、障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）、（株）ぎょうせい、2020</p> <p>⑥日本スポーツ精神医学会：スポーツ精神医学、診断と治療社</p>
学生に対する評価	筆記試験：林 浩嗣80%、小俣 直人20%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する。
備考	<p>【実務経験について】</p> <p>林 浩嗣：福井大学医学部附属病院、基幹病院の急性期病棟で勤務した経験を基に、当講義を進める。 福井大学、福井医療短期大学、福井医療大学での実務（勤務）経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。</p> <p>小俣直人：精神科病棟や精神科外来で勤務した経験を基に、当講義を進める。 精神科医での実務（勤務）経験を有しており、その経験を踏まえ、講義を教授する。</p>

スポーツ栄養学			担当教員		鳴瀬 みどり			
学科専攻		看護 学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数	開講形態
			理学	作業	言語			
科目区分	必修					2年次前期	1単位	講義
	選択	○	○	○	○			
	自由							
資格取得必修		養	AT					

PT AT OT ST Ns 養 障

授業の到達目標及びテーマ

正しい食習慣が健康的なスポーツライフをマネジメントする上での第一歩であることを学習する。

・競技者に対する栄養指導の重要性を理解し、スポーツにおける栄養摂取の役割及び関係する栄養素などについての知識及び実践方法を身につける。

授業の概要

健康保護、健康増進、さらにはスポーツ活動・運動を支える栄養摂取についての基本的な知識を得るとともに、日々の食事を規則正しく摂取することが健康的なスポーツライフをマネジメントするための第一歩であることを学習する。また、水分補給の重要性についても学習する。

競技者に対する栄養指導の大切さを理解させるとともに、スポーツにおける栄養の役割と関係する栄養素との関連についての知識を高める。競技者の望ましい食事及びトレーニングの目的にあった食事の取り方について理解を深める。

授業計画

第1回：1 五大栄養素の役割と特徴 P239

- 1) 糖質 2) 脂質 3) たんぱく質

事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間)

事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)

第2回 1 五大栄養素の役割と特徴 P241、 2 アスリートの栄養摂取の考え方 P243

(五大栄養素の役割と特徴)

- 4) ミネラル 5) ビタミン

(アスリートの栄養摂取の考え方)

- 1) スポーツ栄養に関する国際的な見解、その他

事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間)

事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)

第3回 2 アスリートの栄養摂取の考え方 P244

- 2) 食事摂取基準 3) スポーツ栄養マネジメント

事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間)

事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)

第4回 3 サプリメント摂取に関する注意点 P245

- 1) サプリメントの特徴と関連情報 2) サプリメントとドーピング問題 3) サプリメントと健康問題 4) どんな時に活用するか 5) 使用時に必ず確認する項目

事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間)

事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)

第5回4 基本の食事 P247

- 1) 日常的な食事の基本 2) 食品群別摂取の考え方 3) 補食について 4) 外食と中食のポイント

事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間)

事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)

第6回5 水分補給 P249

- 1) アセスメント 2) 水分補給の目安量 3) クーリング

事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間)

事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)

第7回6 栄養食事計画の立案 p251

- 1) 減量 2) 増量 3) 貧血予防 4) 試合前・試合後の食事

事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間)

事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)

第8回6 栄養食事計画の立案、P256 まとめ

- 5) 遠征時の食事 6) 疲労骨折予防 7) 疲労回復・夏バテ 8) 女性アスリート

事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間)

事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)

定期試験

テキスト

- ・リファレンスブック (公益財団法人 日本スポーツ協会 発行) P239～261
- ・配布資料

参考書・参考資料等

- ・随時紹介

学生に対する評価

筆記試験90%，講義中の提出物10%

課題 (試験やレポート等) に対応するフィードバックの方法

講義中および終了時に適宜返答する。

講義科目名称： 体育 I

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	【必修】言語【選択】理学, 作業, 看護
担当教員			
片岡 雅彦			
講義	養護教諭対象科目	010109L1POSNH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 健康についての多様な考え方について説明できる。 2. 体力および、体力トレーニングの基礎理論を説明できる。 3. 新体力測定の方法、実施方法、評価を理解するとともに、効果的な運動プログラムを説明、紹介ができる。
授業の概要	身体の発育発達と機能について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を教授する。また、生涯にわたる心身の健康の保持増進や豊かなスポーツライフの理解を深める。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、健康水準、平均寿命、健康のとらえ方、自己実現、ヘルスプロモーションについて説明できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第2回 生活習慣病とその予防について説明できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第3回 運動の意義、運動習慣、休養・睡眠の意義について説明できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第4回 健康を阻害する喫煙、飲酒、薬物乱用について説明できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第5回 心の健康について説明できる 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第6回 技能と体力とは何か。また、技能と体力を高めるための注意点を説明できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第7回 体力づくりのためのトレーニングの基礎理論を説明できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第8回 文部科学省 新体力テストを基本とした測定方法、効果判定方法。レポート作成 自己体力診断が評価できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p>
テキスト	なし
参考書・参考資料等	必要に応じて資料を配布する
学生に対する評価	受講態度（意欲・積極性）30% 毎回の記録およびレポート70%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する。
備考	

講義科目名称： 体育Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	【必修】言語【選択】理学, 作業, 看護
担当教員			
片岡 雅彦			
実技	養護教諭対象科目	010110P1POSNH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	健康・体力に対する認識を深め、運動・スポーツの健康的意義を理解する。スポーツの意義を理解し、健康の保持増進とともに、体力の向上、人間関係の形成、さらにはスポーツの普及や振興について、実際にスポーツの体験を通して修得する。
授業の概要	スポーツの意義を理解し、健康の保持増進とともに、体力の向上、人間関係の形成、さらにはスポーツの普及や振興について、実際にスポーツの体験を通して学ぶ。また実際に各種スポーツを体験することにより、スポーツの楽しさを理解する。
授業計画	<p>第1・2回 オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方、評価に関することを説明後体育館へ移動 ・体力測定（新体力測定） <p>第3・4・5回 バドミントン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキル向上課題練習と簡易ゲーム（ダブルス） ・バドミンントンの概要説明とスキル向上課題提示・スキルテスト <p>第6・7・8回 バレーボール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキル向上課題練習とバレーボール種目の概要説明とスキル向上課題提示 ・スキル向上練習とゲーム・スキルテスト <p>第9・10回 フットサルまたはサッカー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フットサル、サッカー種目の概要説明とスキル向上課題提示 ・スキル向上練習と簡易ゲーム・スキルテスト <p>第11・12回 ソフトボール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スキル向上課題練習とゲーム・スキルテスト <p>第13・14回 ショートテニス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ショートテニスの概要説明とスキル向上課題提示・ダブルスゲーム <p>第15回 スキルテスト</p> <p>定期試験 授業内に実施</p>
テキスト	なし
参考書・参考資料等	必要に応じて資料を配布する
学生に対する評価	スキルテスト70%、受講態度（意欲・積極性）30%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	トレーニングウェア、シューズ等着用のこと 講義中および終了時に適宜返答する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【必修】理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
堀 秀昭			
講義		010201LIP0SN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	学生を取り巻く環境は時代とともに変化している。大学生生活を円滑に進めるために、様々な知識やスキルを身につける必要がある。入学後のオリエンテーションを含めて授業を構成する。
授業の概要	<p>新入生を対象とした必修科目であり、大学での4年間の学生生活をより実り豊かなものとするために必要とされるさまざまな知識やスキルを身につけることを目的としている。</p> <p>内容としては、課題を遂行する事で知識の定着を図り、今後の勉学のモチベーションの向上を図る。そして、授業を行う中での図書の活用方法を教授し、スムーズな学業への移行を支援する。</p> <p>また、患者接遇マナー、キャンパスハラスメントに対する対処法、学生を取り巻く課題としての消費者問題への対処法やアルコール依存、薬物依存などを防ぐための対処法、そして通学における車社会への対応、交通安全等に関する講義等を行い、4年間の学生生活への支援を行う。</p>
授業計画	<p>第1回 大学における教育方針、授業の進め方（全体オリエンテーション①） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、福井医療大学の教育方針の理解を深める（2時間）</p> <p>第2回 大学の組織及び学則について（全体オリエンテーション②） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、福井医療大学の組織の理解を深める（2時間）</p> <p>第3回 大学教育における単位履修及の進め方（全体オリエンテーション③） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、単位履修について理解を深める（2時間）</p> <p>第4回 大学教育における学生生活の進め方（全体オリエンテーション④） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、学生生活の進め方の理解を深める（2時間）</p> <p>第5回 学科専攻における授業概要についての説明（学科専攻別①） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業概要の理解を深める（2時間）</p> <p>第6回 学科専攻における学生として資質向上（グループによる自己啓発）（学科専攻別②） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、自己研鑽について理解を深める（2時間）</p> <p>第7回 大学におけるリスク管理1（交通安全について） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、交通安全の理解を深める（2時間）</p> <p>第8回 大学におけるリスク管理2（性犯罪防止について） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、性犯罪防止の理解を深める（2時間）</p> <p>第9回 大学におけるリスク管理3（キャンパスハラスメントについて） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、キャンパスハラスメントの理解を深める（2時間）</p> <p>第10回 大学におけるリスク管理4（消費者問題、悪徳商法とは） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、消費者問題の理解を深める（2時間）</p> <p>第11回 大学におけるリスク管理5（薬物乱用防止について） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、薬物乱用の理解を深める（2時間）</p> <p>第12回 大学におけるリスク管理6（防災時の対応） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、防災時の理解を深める（2時間）</p> <p>第13回 大学教育における図書利用、文献等の利用について 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、福井医療大学の図書館利用の理解を深める（2時間）</p> <p>第14回 社会人マナーに関して 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、社会人マナーの理解を深める（2時間）</p> <p>第15回 奨学金制度に関して 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、奨学金の理解を深める（2時間）</p>
テキスト	配布資料

参考書・参考資料等	
学生に対する評価	レポート100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	各講義終了後
備考	担当教員は、リハビリテーション関連施設で、理学療法の実務経験を有し、その経験を生かし授業を実施している。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【必修】理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
堀 秀昭・野村 友美・酒井 涼・岡本 一宏・青井 利哉			
講義		010202L1POSN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	<p>1、専門職としてのアイデンティティを確立する。</p> <p>2、チーム医療を確立するために、それぞれの専門職を理解する。</p> <p>3、臨床・臨地実習において、臨床から学生に求められるものを理解する。</p> <p>4、専門職としての報告書を作成することができる。</p> <p>5、グループワーク（k-J法）を理解する</p>
授業の概要	<p>専門職としてのアイデンティティの確立は、4年後の国家試験に向けて重要な学修のテーマである。専門職としてどうあるべきか、専門職として必要なことは何か、互いを尊重しながら、グループワークを通して確立する。</p> <p>また、専門職として働くうえでチーム医療について理解することは大切である。チーム医療とは、対象者の多様な諸問題（ニーズ）に応じて、多数の専門家がそれぞれの専門的視点から対象者の障がいをアセスメントし、綿密に連携をとり、一つの方向に向けて治療を推進していく統一的な活動をいう。そのためには、それぞれの仕事内容を理解することが重要である。</p> <p>最後にそれぞれの課程で臨床・臨地実習が行われているが、臨床の指導者からは、専門職として学生に求めているものがある。それらについてグループワークを通して理解を深め、プレゼンテーションする。また臨床においては、報告書の作成も必須であり、報告書の基本について学修する。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明（グループワークを通して、専門職としての意識を高める） グループワークを通して、他者と協力して課題に取り組む力が身につける。 グループの協力関係を確立するために、課題に取り組む。 グループの作成（10名程度）PTOTSTNSをそれぞれ配置 自己分析（専門職アイデンティティ、コミュニケーション能力等） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間）</p> <p>第2回 グループワーク1（専門職に必要なこと） グループワークを通して、専門職として必要なものについて考える。また抽出されたキーワードをエクセルに入力する。司会者を決定し、グループワークを進める。 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間）</p> <p>第3回 グループワーク1（専門職に必要なこと） 専門職として必要なことを、情意領域、認知領域、精神運動領域に分類し、ポスターを作成する。書記3名、発表者1名を決定し、グループワークを進める。 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間）</p> <p>第4回 グループワーク1（専門職に必要なこと） グループワークの成果を発表する。発表時には、それらのことを獲得するための4年間のスケジュールを含めて発表する。 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間）</p> <p>第5回 グループワーク1（専門職に必要なこと） グループワークの成果を発表する。発表時には、それらのことを獲得するための4年間のスケジュールを含めて発表する。 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間）</p> <p>第6回 グループワーク1（専門職に必要なこと） 各学科・専攻で、10名程度のグループを作成し、それぞれの専門職について調べる。また司会者、書記3名、発表者を決定する。 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間）</p> <p>第7回 専門職として必要な能力をプレゼンテーションする 専門職に必要な能力に関して、パワーポイントを使用して発表する 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間）</p> <p>第8回 専門職として必要な能力をプレゼンテーションする 専門職に必要な能力に関して、パワーポイントを使用して発表する 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間）</p> <p>第9回 グループワーク2（専門職の仕事内容） グループワークを通して、専門職の仕事内容について考える。また抽出されたキーワードをエクセルに入力する。司会者を決定し、グループワークを進める。グループの作成（10名程度）再度グループ作成PTOTSTNSをそれぞれ配置 グループワークを通して、専門職として必要なものについて考える。また抽出されたキーワードをエクセルに入力する。司会者を決定し、グループワークを進める。 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間）</p>

第10回	事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間） グループワーク2（専門職の仕事内容） 各学科・専攻で、10名程度のグループを作成し、それぞれの専門職について調べる。また司会者、書記3名、発表者を決定する。
第11回	事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間） グループワーク2（専門職の仕事内容） キーワードを分類し、臨床から学生に求められるのもまとめる。まとめ方に関しては、グループで話し合い、プレゼンテーションの資料を作成する。
第12回	事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間） グループワーク2（専門職の仕事内容） キーワードを分類し、臨床から学生に求められるのもまとめる。まとめ方に関しては、グループで話し合い、プレゼンテーションの資料を作成する。
第13回	事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間） 専門職の仕事内容をプレゼンテーションする グループワークの成果を発表する。発表時には、それらのことを獲得するための4年間のスケジュールを含めて発表する。
第14回	事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間） 専門職の仕事内容をプレゼンテーションする グループワークの成果を発表する。発表時には、それらのことを獲得するための4年間のスケジュールを含めて発表する。
第15回	事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間） 講評・まとめ 自己分析（専門職アイデンティティ等） 事前学習：講義内容について、事前に調べておく（2時間） 事後学習：講義内容を振り返り、授業の理解を深める（2時間）
テキスト	配布資料
参考書・参考資料等	なし
学生に対する評価	グループワークの参加状況、発表内容を総合的に判断して評価する。 評価 1、積極的な参加態度を示すことができた 2、プレゼンテーションを工夫して行うことができた（分かり易く説明した。多少曖昧な、分かり辛い表現をした。） 3、報告を時間内に行うことができた（制限時間の1～30秒以内に抑える、制限時間の1分以上前に終了、または延長30秒以上）
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する
備考	それぞれ理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師としての実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。 総合病院での臨床経験及び病院管理業務の経験を踏まえ、当講義を進める。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	【選択】理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
青井 利哉			
講義		010203LIP0SN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	医療に従事する職業には、その基礎に人間関係がある。この授業では人間関係の基礎的な考え方、基礎的な技術について教授する。人間関係の諸相を理解することで、より良い人間関係を構築するための基礎的な知識やスキルを修得し、それを日常の行動に応用できることが目標である。		
授業の概要	日常生活において経験する人間関係の諸相を、心理学的視点より明らかにし、人間関係のプロセスやメカニズムについて理解を深める。さらに医療従事者と患者、さらには医療職種間におけるコミュニケーションについて、講義を通して学ぶ。		
授業計画	第1回	人間関係の基本的視点について理解する 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第2回	自分とは何か、他者とは何かについてその関係性を理解する 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第3回	他者とのコミュニケーションはどのように成立するのかについて理解する 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第4回	生涯発達の視点から人間関係を理解する 乳幼児期～学童期 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第5回	生涯発達の視点から人間関係を理解する 青年期～老年期 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第6回	人間関係の諸相を理解する 家族関係 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第7回	人間関係の諸相を理解する 夫婦関係 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第8回	人間関係の諸相を理解する 親子関係 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第9回	人間関係の諸相を理解する 職場関係 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第10回	支配と服従の人間関係について理解する 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第11回	攻撃と対立の人間関係について理解する 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第12回	対人関係の問題について理解する 児童虐待とDV 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第13回	人間関係の改善について理解する ストレスへの対処 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第14回	対人援助における人間関係について理解する① 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間）	

第15回	事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2 時間） 対人援助における人間関係について理解する② 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2 時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2 時間） 定期試験
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書・参考資料等	服部祥子（著）：人を育む人間関係論, 医学書院, 2003 石川ひろの（著）：人間関係論 第3版（系統看護学講座 基礎分野）, 医学書院, 2018
学生に対する評価	筆記試験100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月曜日、水曜日の午後 研究棟2階教員室
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【選択】 理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
横井 正信			
講義	養護教諭対象科目	010204L1POSNH	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	日本国憲法に関する基本的な知識を習得し理解することを目的とする。
授業の概要	日本国憲法に関する基本的な知識を習得し理解することを目的とする。戦後日本の平和と民主主義の理念のもとに平和憲法である日本国憲法が制定された歴史を踏まえ、私たちの生活と権利を守る日本国憲法の基本的人権の精神を学び、日本国憲法を実際の生活に活かすことを目指す。同時に憲法は国家の動向を監視する役割もあり、国家のあり方を監視し私たちの生活と権利を守る存在としての日本国憲法の歴史的・現代的意義を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 大日本帝国憲法の特徴と日本国憲法制定の経緯 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第2回 国民主権と象徴天皇制 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第3回 平和主義と憲法9条 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第4回 基本的人権の原理と限界 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第5回 包括的基本権と法の下での平等 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第6回 精神的自由権（内心の自由） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第7回 精神的自由権（表現の自由） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第8回 婚姻の自由と家族制度 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第9回 経済的自由権・人身の自由 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第10回 社会権 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第11回 参政権と選挙制度 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第12回 国民代表と国会 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第13回 議院内閣制と大統領制 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第14回 裁判所と違憲審査権 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間）</p>

	<p>事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第15回 地方自治</p> <p>事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間）</p> <p>事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>定期試験</p>
テキスト	特になし（授業要約等の資料で代替）。
参考書・参考資料等	授業のなかで随時紹介する。
学生に対する評価	定期試験（筆記試験60%）、レポート40%（第1回授業時に評価方法について詳細な説明を行う）
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義の前後に対応する
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【選択】理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
長谷川 優樹			
講義	AT&初級障がい者スポーツ指導員対象科目(保健医療学部)	010205LIPOSNA	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	コーチングとは、他者が存在して初めて行われる活動であり、人間関係づくりが基盤となる。近年のスポーツコーチングにおいては、競技における専門的知識に限らず、コミュニケーション能力や人間力の高さがより重視される。本講義は、コーチングの資質向上とともに、人間力向上を目指すものである。
授業の概要	<p>コーチングの手法はコーチの人間観によってもパフォーマンスが左右される。人間が持つ本来の力をいかに発揮させるがコーチングの姿である。</p> <p>講義では、理論とトレンドな情報、映像を交え、時には従来の精神主義、根性主義的なコーチングと現在のコーチングとの比較を試みながら、あるべきコーチングのあり方、効果的なコーチング手法を講義し時にはロールプレイを行い実践者としての理解を深めていきたい。</p> <p>毎回レポートの提出を行い、コーチング理解の進捗状況を見極めながら講義を進める。</p>
授業計画	<p>第1回 コーチの成り立ち・コーチの哲学について理解し、説明することができる。 I-2-① 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間)</p> <p>第2回 コーチの役割、求められるコーチ像について理解することができる。 I-2-② I-2-③ 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間)</p> <p>第3回 「プレーヤーズ・センタード・コーチング」について理解し、説明することができる。 III-2-① II-2-② 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間)</p> <p>第4回 理想的なコーチング(選手の自主・主体性)について理解し、実践できる。 I-6-② II-2-① 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間)</p> <p>第5回 コミュニケーションスキル(バーバル・ノンバーバルコミュニケーション)を理解し、実践できる。 II-2-② 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間)</p> <p>第6回 コミュニケーションスキル(受容と共感、聞くスキルと伝えるスキル)を理解し、実践できる。 I-2-④ 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間)</p> <p>第7回 全国障害者スポーツ大会の概要から、スポーツ参加への動機付けを理解することができる。 I-2-④ 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間)</p> <p>第8回 障がい者スポーツ推進の取り組みを理解、説明することができる。 II-2-② 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間)</p> <p>第9回 障がい者スポーツ指導者としての必要なコミュニケーションスキルを理解することができる。 II-2-② 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間)</p> <p>第10回 コーチと保護者の関わり方について考えることができる。 II-2-② 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間)</p> <p>第11回 望ましいコーチングのあり方について考える I-6-① III-2-② 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間)</p> <p>第12回 コーチとしての学びについて考えることができる。 I-6-① 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく(2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う(2時間)</p>

	<p>間)</p> <p>第13回 効果的なミーティングを理解し、実践できる。 II - 2-② 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)</p> <p>第14回 一貫指導体制システムを説明できる。協働について考える。 III-2-③ 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間)</p> <p>第15回 まとめ 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (2時間) 定期試験</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・リファレンスブック 公益財団法人 日本スポーツ協会 発行 ・スポーツ心理学 (日本スポーツ心理学会編) ・配布資料
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・レイナー・マートン スポーツ・コーチング学, 西村書店 ・ロビン・S. ビーリー コーチングに役立つ実力発揮のメンタルトレーニング, 大修館書店 ・(公財) 日本障がい者スポーツ協会(編), 障がいのある人のスポーツ指導教本, 株式会社ぎょうせい
学生に対する評価	筆記試験80%, 毎講義終了前のレポート20%
課題 (試験やレポート等) に対応するフィードバックの方法	メール時による質問、問い合わせ可能。積極的なコミュニケーションを図りたい。(アドレス wintree16@gmail.comまたはフェイスブック：メンタル&フィジカルコンディショニング研究会)
備考	<p>※日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成「共通科目」読替</p> <p>【実務経験について】 競技力向上や教育を目的としたスポーツ心理学の研究活動及び現場で6000時間以上のメンタルトレーニング(応用スポーツ心理学)の指導実践経験を積み、日本スポーツ心理学会認定：スポーツメンタルトレーニング指導士の資格を有する。その知識と経験を基に当講義を進める。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【必修】理学, 作業, 言語
担当教員			
飯野 哲			
講義		020301L1POS	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 医療に従事するに当たり必要な解剖学用語を理解し表現できるようにする。 2. 人体構造の基本となる細胞や組織、器官の形態について解剖学的な視点から理解する。 3. 人体諸器官がどのような関連性を持つかを理解し、人体全体の構造を把握する。
授業の概要	人間を対象としその障害を治療する仕事においては、人体の構造と機能を理解することが重要である。解剖学の学習は、人体の構造と機能の理解には欠かすことができないものであり、各部の名称を理解し記憶することが基本となる。解剖学専門用語の理解のみならず、骨学、筋学、靭帯学、神経学、呼吸循環学、内臓学における基本事項を理解することを目的とする。 また、諸構造を構成する細胞や組織についても学び、機能との関連についての理解を深めるように努める。
授業計画	<p>第1回 解剖学の基本用語および細胞構造 (テキスト P. 1～P. 38) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：テキストと配布資料を通して授業内容を理解し復習するとともに、レポート課題を行う (2時間)</p> <p>第2回 組織と器官の基本構造 (テキスト P. 39～P. 62) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：テキストと配布資料を通して授業内容を理解し復習するとともに、レポート課題を行う (2時間)</p> <p>第3回 皮膚と腺の構造 (テキスト P. 69～P. 84) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：テキストと配布資料を通して授業内容を理解し復習するとともに、レポート課題を行う (2時間)</p> <p>第4回 骨格系の概要 (テキスト P. 85～P. 99) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：テキストと配布資料を通して授業内容を理解し復習するとともに、レポート課題を行う (2時間)</p> <p>第5回 筋系の概要 (テキスト P. 189～P. 203) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：テキストと配布資料を通して授業内容を理解し復習するとともに、レポート課題を行う (2時間)</p> <p>第6回 神経系の概要 (テキスト P. 261～P. 274) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：テキストと配布資料を通して授業内容を理解し復習するとともに、レポート課題を行う (2時間)</p> <p>第7回 脳と脊髄、末梢神経 (テキスト P. 277～P. 359) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：テキストと配布資料を通して授業内容を理解し復習するとともに、レポート課題を行う (2時間)</p> <p>第8回 視覚器・聴覚器・内分泌系 (テキスト P. 361～P. 401) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：テキストと配布資料を通して授業内容を理解し復習するとともに、レポート課題を行う (2時間)</p> <p>第9回 心臓 (テキスト P. 417～P. 431) 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：テキストと配布資料を通して授業内容を理解し復習するとともに、レポート課題を行う (2時間)</p> <p>第10回 血管・血液・リンパ</p>

	<p>(テキスト P. 405～P. 415, P. 433～P. 479)</p> <p>事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：テキストと配布資料を通して授業内容を理解し復習するとともに、レポート課題を行う (2時間)</p> <p>第11回 呼吸器系 (テキスト P. 481～P. 499)</p> <p>事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：テキストと配布資料を通して授業内容を理解し復習するとともに、レポート課題を行う (2時間)</p> <p>第12回 消化器系 (テキスト P. 503～P. 532)</p> <p>事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：テキストと配布資料を通して授業内容を理解し復習するとともに、レポート課題を行う (2時間)</p> <p>第13回 泌尿器および男性生殖器 (テキスト P. 533～P. 562)</p> <p>事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：テキストと配布資料を通して授業内容を理解し復習するとともに、レポート課題を行う (2時間)</p> <p>第14回 女性生殖器 (テキスト P. 562～P. 575)</p> <p>事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：テキストと配布資料を通して授業内容を理解し復習するとともに、レポート課題を行う (2時間)</p> <p>第15回 ヒトの発生 (テキスト P. 579～P. 591)</p> <p>事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (2時間) 事後学習：テキストと配布資料を通して授業内容を理解し復習するとともに、レポート課題を行う (2時間) 定期試験</p>
テキスト	F. H. マティーンニ他著 井上貴央監訳 カラー人体解剖学 構造と機能：マイクロからマクロまで 西村書店 2003年
参考書・参考資料等	配布資料
学生に対する評価	筆記試験80%，レポート課題20%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および講義終了時に個別に対応する。メールによる問い合わせ可能 (iinosa@u-fukui.ac.jp)
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【必修】理学, 作業, 言語
担当教員			
猪口 徳一			
講義	A T対象科目	020305LIP0SA	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	生理学とは「生きていること、生きるための体の機能」を理解する学問分野である。人体を構成する60兆個の細胞は一定の機能を持つ細胞が集まり、組織や器官を形成している。さらに、それらが協働し、循環器系、神経系などの生きるための機能を発揮している。これら生命機能について分子・細胞・組織・器官といった個々のレベルで理解し説明できること、個々の生命機能が如何にして相互作用し、集約・統合されて、正常な体の機能とその恒常性維持に働いているかについて理解・説明できることを目標とする。
授業の概要	人体を構成する細胞の機能に始まり、細胞が集まって構成される器官、臓器の機能、それらの相互作用や統合によって支えられる正常な体の機能とその恒常性維持の仕組みについて解説する。本講義において特に、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、代謝・体温、の働きについて解説する。また、普段、われわれの体で起きている生理現象についての事例や、病態における生理現象についてグループワークで問題に取り組み、科学的思考能力や発表能力を養う。
授業計画	<p>第1回 〈生理学とは〉 生体の恒常性とは何かが説明できる。細胞の機能を説明できる。(教科書 p1~9) 事前学習 (2.0時間) : 教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習 (2.0時間) : 専用のノートを作り、授業で学習した範囲の教科書各章にあるstarter questionを解いておくこと</p> <p>第2回 〈血液と体液〉 血液と体液の働きについて説明できる。(p11~27) 事前学習 (2.0時間) : 教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習 (2.0時間) : 授業で学習した範囲の教科書各章にあるstarter questionを解いておくこと</p> <p>第3回 血液と体液に関する問題演習・発表を行い理解を深める。 事前学習 (4.0時間) : 教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと、第1回~2回の授業範囲のグループワークの準備としてstarter questionの解答をノートにまとめておくこと</p> <p>第4回 〈循環1〉 心臓の働きについて説明できる。(p29~40) 事前学習 (2.0時間) : 教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習 (2.0時間) : 授業で学習した範囲の教科書各章にあるstarter questionを解いておくこと</p> <p>第5回 〈循環2〉 血管系の働きについて説明できる。(p40~53) 事前学習 (2.0時間) : 教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習 (2.0時間) : 授業で学習した範囲の教科書各章にあるstarter questionを解いておくこと</p> <p>第6回 循環系に関する問題演習・発表を行い理解を深める。 事前学習 (4.0時間) : 教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと、第4回~5回の授業範囲のグループワークの準備としてstarter questionの解答をノートにまとめておくこと</p> <p>第7回 〈呼吸1〉 呼吸運動、換気量について説明できる。(p55~63) 事前学習 (2.0時間) : 教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習 (2.0時間) : 授業で学習した範囲の教科書各章にあるstarter questionを解いておくこと</p> <p>第8回 〈呼吸2〉 血液ガス運搬、呼吸調節について説明できる。(p63~75) 事前学習 (2.0時間) : 教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習 (2.0時間) : 授業で学習した範囲の教科書各章にあるstarter questionを解いておくこと</p> <p>第9回 呼吸器系に関する問題演習・発表を行い理解を深める。 事前学習 (4.0時間) : 教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと、第7回~8回の授業範囲のグループワークの準備としてstarter questionの解答をノートにまとめておくこと</p> <p>第10回 〈消化と呼吸〉 食物を消化、吸収する働きについて説明できる。(p77~98) 事前学習 (2.0時間) : 教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習 (2.0時間) : 授業で学習した範囲の教科書各章にあるstarter questionを解いておくこと</p> <p>第11回 〈尿の生成と排泄〉 腎臓と膀胱の働きについて説明できる。(p99~118) 事前学習 (2.0時間) : 教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習 (2.0時間) : 授業で学習した範囲の教科書各章にあるstarter questionを解いておくこと</p> <p>第12回 消化器系、泌尿器系に関する問題演習・発表を行い理解を深める。 事前学習 (4.0時間) : 教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと、第10回~11回の授業範囲のグループワークの準備としてstarter questionの解答をノートにまとめておくこと</p> <p>第13回 〈代謝・体温〉 エネルギー代謝と体温調節について説明できる。(p119~149) 事前学習 (2.0時間) : 教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと 事後学習 (2.0時間) : 授業で学習した範囲の教科書各章にあるstarter questionを解いておくこと</p>

	<p>と</p> <p>第14回 エネルギー代謝と体温調節に関する問題演習・発表を行い理解を深める。 事前学習（4.0時間）：教科書の該当範囲を事前に通読し不明な点を明確にしておくこと、第13回の授業範囲のグループワークの準備としてstarter questionの解答をノートにまとめておくこと</p> <p>第15回 第1回から第14回までの講義の内容を統合的に理解し、説明できる 事前学習（2.0時間）：これまでの学修で解いてきた教科書のstarter questionと、自身のノートを見て、重要事項の確認をしておくこと 事後学習（2.0時間）：これまでの学修で作成してきたノートを完成させること 定期試験</p>
テキスト	彼末一之・能勢博 著：やさしい生理学 第7版、南江堂
参考書・参考資料等	<p>毎回事前に配信する講義資料ファイル</p> <p>カラー図解 人体の正常構造と機能 第4版、日本医事新報社</p> <p>シンプル生理学 第8版、南江堂</p> <p>カスタム明解生理学 原著第6版、エルゼビア・ジャパン株式会社</p> <p>ギャノン生理学、丸善</p>
学生に対する評価	問題演習・発表への取り組み20%、筆記試験80%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	面談、メールにて随時可能
備考	※日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成「専門科目」読替

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	【必修】理学, 作業, 言語
担当教員			
青井 利哉・蓑輪 千帆			
講義	AT&初級障がい者スポーツ指導員 対象科目(理学・作業・言語)	020309LIPOSA	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	人間の発達は、受胎、胎生期、新生児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老人期、死というライフステージに分けられる。障害のある人への支援を行う専門職には、そうしたライフステージの特徴を踏まえつつ、支援を行うことが求められている。そのため、各ライフステージを身体的・心理的・社会的諸相が全体としてダイナミックに変化していくプロセスとして説明できることを到達目標とする。
授業の概要	人間を生涯にわたり発達する存在としてとらえ、生命の誕生から小児期、青年期、成人期(老年期)を経て死に至るまでの量的・質的变化について学ぶ。ライフステージの各時期に発現する行動を広く、深く理解し、各時期に生じやすい発達上あるいは健康上の課題とその解決法について考える。
授業計画	<p>第1回 総論 (担当：青井利哉) 人間発達について、発達要因、発達の基本原則、臨界期、発達段階の各視点から説明できる。 事前学習：教科書(リハビリテーションのための人間発達学 第3版) pp2-6に目を通しておくこと (2時間) 事後学習：授業で示した重要ポイントの学習 (2時間)</p> <p>第2回 発達の要因 (担当：青井利哉) 事前学習：教科書(リハビリテーションのための人間発達学 第3版) pp15-30に目を通しておくこと (2時間) 事後学習：授業で示した重要ポイントの学習 (2時間)</p> <p>第3回 発達理論 (担当：青井利哉) 運動発達の理論(神経成熟理論)を理解し説明できる。 事前学習：教科書(リハビリテーションのための人間発達学 第3版) pp12-14に目を通しておくこと (2時間) 事後学習：授業で示した重要ポイントの学習 (2時間)</p> <p>第4回 人間発達の見方 (担当：青井利哉) 事前学習：教科書(リハビリテーションのための人間発達学 第3版) pp15-30に目を通しておくこと (2時間) 事後学習：授業で示した重要ポイントの学習 (2時間)</p> <p>第5回 発達検査の進め方 (担当：青井利哉) 発達評価の視点や進め方を理解し説明できる。 事前学習：教科書(リハビリテーションのための人間発達学 第3版) pp248-259に目を通しておくこと (2時間) 事後学習：授業で示した重要ポイントの学習 (2時間)</p> <p>第6回 胎児期・新生児期の発達 (担当：蓑輪 千帆) 胎児期、新生児期の正常発達について、その発達学的特徴を理解し説明できる。 事前学習：教科書(リハビリテーションのための人間発達学 第3版) pp15-30に目を通しておくこと (2時間) 事後学習：授業で示した重要ポイントの学習 (2時間)</p> <p>第7回 乳児期の発達 (担当：蓑輪 千帆) 乳児期の身体、運動、認知、言語、情緒および社会性の発達学的特徴を理解し説明できる。 事前学習：教科書(リハビリテーションのための人間発達学 第3版) pp31-50に目を通しておくこと (2時間) 事後学習：授業で示した重要ポイントの学習 (2時間)</p> <p>第8回 幼児期前期・後期の発達 (担当：蓑輪 千帆) 幼児期の身体、運動、認知、言語、情緒および社会性の発達学的特徴を理解し説明できる。 事前学習：教科書(リハビリテーションのための人間発達学 第3版) pp51-68に目を通しておくこと (2時間) 事後学習：授業で示した重要ポイントの学習 (2時間)</p> <p>第9回 学童期の発達 (担当：蓑輪 千帆) 学童期の身体、運動、認知、言語、情緒および社会性の発達学的特徴を理解し説明できる。 事前学習：教科書(リハビリテーションのための人間発達学 第3版) pp69-84に目を通しておくこと (2時間) 事後学習：授業で示した重要ポイントの学習 (2時間)</p> <p>第10回 青年期の発達 (担当：蓑輪 千帆) 青年期の身体、運動、認知、言語、情緒および社会性の発達学的特徴を理解し説明できる。 事前学習：教科書(リハビリテーションのための人間発達学 第3版) pp85-102に目を通しておくこと (2時間) 事後学習：授業で示した重要ポイントの学習 (2時間)</p> <p>第11回 成人期の発達 (担当：蓑輪 千帆) 成人期の身体、運動、認知、言語、情緒および社会性の発達学的特徴を理解し説明できる。 事前学習：教科書(リハビリテーションのための人間発達学 第3版) pp103-116に目を通しておくこと (2時間) 事後学習：授業で示した重要ポイントの学習 (2時間)</p>

	<p>第12回 老年期の発達 (担当: 蓑輪 千帆) 老年期の身体、運動、認知、言語、情緒および社会性の発達学的特徴を理解し説明できる。 事前学習: 教科書 (リハビリテーションのための人間発達学 第3版) pp117-134に目を通しておくこと (2時間) 事後学習: 授業で示した重要ポイントの学習 (2時間)</p> <p>第13回 身体運動機能と構造の発達 (担当: 蓑輪 千帆) 身体構造の成長、発達の概要を理解し説明できる。 身体機能の獲得過程のうち、特に出生から歩行獲得までの粗大運動と手の巧緻機能の発達過程を理解し説明できる。 事前学習: 教科書 (リハビリテーションのための人間発達学 第3版) pp175-194に目を通しておくこと (2時間) 事後学習: 授業で示した重要ポイントの学習 (2時間)</p> <p>第14回 知覚・認知機能の発達 (担当: 蓑輪 千帆) 知覚および認知機能の発達を、能力の変化と処理方略の変化の両面から理解し説明できる。 知覚および認知機能の下位領域の発達と、その障害の概要を理解し説明できる。 事前学習: 教科書 (リハビリテーションのための人間発達学 第3版) pp195-214に目を通しておくこと (2時間) 事後学習: 授業で示した重要ポイントの学習 (2時間)</p> <p>第15回 情緒・社会性の発達 (担当: 蓑輪 千帆) 各発達段階における情緒、社会性の発達を理解し説明できる。 情緒、社会性の発達の特性に応じた評価法を理解し説明できる。 事前学習: 教科書 (リハビリテーションのための人間発達学 第3版) pp231-246に目を通しておくこと (2時間) 事後学習: 授業で示した重要ポイントの学習 (2時間) 定期試験</p>
テキスト	大城昌平 (編集) : リハビリテーションのための人間発達学 第3版, 株式会社メディカルプレス, 2021
参考書・参考資料等	<p>福田恵美子編著: 人間発達学(コメディカルのための専門基礎分野テキスト)、中外医学社、2012</p> <p>鈴木光太郎著: ヒトの心はどう進化したのかー狩猟採集生活が生んだもの、筑摩書房、2013</p> <p>細田多穂監修: 人間発達学テキスト(シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ)、南江堂、2014</p> <p>服部祥子著: 生涯人間発達論、医学書院、2010</p> <p>公益財団法人 日本スポーツ協会 (編) : Reference Book, 2019</p> <p>山田弘幸 (編著) : 言語聴覚士のための心理学、医歯薬出版、2012</p> <p>(公財) 日本障がい者スポーツ協会 (編), 障がいのある人のスポーツ指導教本, 株式会社ぎょうせい</p>
学生に対する評価	筆記試験100% (蓑輪70%, 青井30%)
課題 (試験やレポート等) に対応するフィードバックの方法	<p>青井 : 月・木・金の9時から12時、火・水の13時から17時</p> <p>蓑輪 : 月曜日～金曜日 研究室在室時、随時</p>
備考	<p>青井 : 小中学校でのスクールカウンセラー実務経験を基に、当講義を進める。</p> <p>蓑輪 : 病院で発達障害児への作業療法を実践した経験を基に、当講義を進める。</p> <p>※日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成「共通科目」読替</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	【必修】理学, 作業, 言語
担当教員			
青井 利哉			
講義		020401L3POS	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	臨床心理学の実践的知識、カウンセリングや心理療法などの技能の体系的な学習を通して、医療機関や福祉施設で対人援助サービスを行うための基本的な態度や心構えを身に付ける。		
授業の概要	臨床心理学とは、心理学を中心とした知識や理論を用いて、こころの問題を抱えたり、さまざまな生活上の問題に苦しむ人たちの現状と背景を理解し、その援助について研究・実践する学問である。本講義では人間理解の手がかりとなる諸理論を学び、人が適応・成長するとはどういうことかを考える。また、心理検査、心理療法の基本的な成り立ちについて説明する。講義の後半では、基本的な心理的介入の技法について、演習も交えながらできる限り具体的に伝えたい。さらに臨床心理学の実践領域のいくつかを取り上げ、それぞれの対象者や留意点について学ぶ。		
授業計画	第 1 回	臨床心理学とはなにか 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2 時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2 時間）	
	第 2 回	心理的問題とその影響 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2 時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2 時間）	
	第 3 回	ライフサイクルに伴う心の問題 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2 時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2 時間）	
	第 4 回	フロイトの精神分析学と力動的心理療法 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2 時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2 時間）	
	第 5 回	クライアント中心療法 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2 時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2 時間）	
	第 6 回	学習理論と行動療法 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2 時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2 時間）	
	第 7 回	遊戯療法の原理と実際 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2 時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2 時間）	
	第 8 回	心理学的アセスメントについての理解 ①診断 見立て 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2 時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2 時間）	
	第 9 回	心理学的アセスメントについての理解 ②心理検査（知能検査、発達検査） 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2 時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2 時間）	
	第10回	心理学的アセスメントについての理解 ③心理検査（性格検査） 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2 時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2 時間）	
	第11回	カウンセリングの基礎 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2 時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2 時間）	
	第12回	カウンセリングの実践 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2 時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2 時間）	
	第13回	臨床心理学が関連する領域 ①医療・福祉 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2 時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2 時間）	
	第14回	臨床心理学が関連する領域 ②教育	

	<p>事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 事例の紹介とまとめ 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 定期試験</p>
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリントを配布する
参考書・参考資料等	松井豊(監修), 杉江征(編集), 青木佐奈枝(編集) スタンダード臨床心理学 サイエンス社 2015 本城秀次, 河野莊子, 永田雅子, 金子一史 心理臨床における多職種との連携と協働 岩崎学術出版社 2015
学生に対する評価	筆記試験80%、講義中に指示する課題20%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月曜日、水曜日の午後 研究棟2階教員室
備考	小中学校でのスクールカウンセラー実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】理学, 作業, 言語
担当教員			
供田 文宏			
講義		020402L2POS	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	日常のリハビリテーション実施において不可欠な内科的疾患の医学的情報や病気の成り立ちを理解する。呼吸器疾患、消化器疾患、循環器疾患、血液疾患における病態の把握、検査と診断の進め方、治療について学習する。		
授業の概要	リハビリテーションに必要な内科的疾患の概要、病態、診断、治療を学習し、治療法に関しては、疾病の病態、症状と理学・作業・言語聴覚療法との関係を理解する。 疾患としては、呼吸循環系、循環器系、血液・造血系、消化器系の各種疾患について学ぶ。		
授業計画	第1回	呼吸器の解剖と生理、呼吸器疾患の症候および検査 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第2回	閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患の病態および治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第3回	肺炎、気管支拡張症、肺癌の病態および治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第4回	サルコイドーシス、気胸、肺水腫の病態および治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第5回	心臓血管系の解剖と生理、循環器疾患の症候および検査、心不全の症候および検査と治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第6回	不整脈の病態および検査と治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第7回	虚血性心疾患と心臓弁膜症の病態および検査と治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第8回	先天性心疾患、心筋症、心内膜炎、肺高血圧、肺性心の病態および検査と治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第9回	高血圧症、大動脈疾患の病態および検査と治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第10回	食道、胃の疾患の病態および検査と治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第11回	小腸、大腸の疾患の病態および検査と治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第12回	肝臓疾患の病態および検査と治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第13回	胆道、膵臓、腹膜の疾患の病態および検査と治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第14回	貧血の病態および検査と治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
	第15回	白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫、血小板減少および凝固異常の検査と治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)	
テキスト	寺野 彰著：シンプル内科学 改定第2版、南江堂出版、2017年出版		
参考書・参考資料等	特になし		
学生に対する評価	筆記試験 100%		
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	14時から17時に研究室6で随時受けつける。 講義中および終了時に適宜返答する。		

備考	担当教員は富山大学附属病院で従事した内科診療、急性期医療、病理検討業務の経験を基に、当講義を進める。 また、担当教員は富山大学、福井医療短期大学、福井医療大学での実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。
----	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】理学, 作業, 言語
担当教員			
供田 文宏・林 浩嗣			
講義		020403L2POS	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	日常のリハビリテーション実施において不可欠な内科学的疾患の医学的情報や病気の成り立ちを理解する。内科学の総論および腎尿路系疾患、電解質および酸塩基平衡の異常、代謝・内分泌疾患、小児疾患における病態の把握、検査と診断の進め方、治療について学習する。
授業の概要	リハビリテーションに必要な内科学的疾病の概要、病態、診断、治療を学習し、治療法に関しては、疾病の病態、症状と理学・作業・言語聴覚療法との関係を理解する。 (オムニバス方式全15回) (供田文宏/12回) 成人における腎尿路系疾患、電解質および酸塩基平衡の異常、代謝・内分泌疾患について学ぶ。 (林 浩嗣/3回) 小児疾患について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 病気の成り立ち、生命徴候、検査と治療の概要 (担当：供田 文宏) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)</p> <p>第2回 腎臓の解剖と生理、腎臓疾患の検査 (担当：供田 文宏) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)</p> <p>第3回 急性腎障害と慢性腎不全の病態および検査、治療 (担当：供田 文宏) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)</p> <p>第4回 糸球体腎炎、慢性腎臓病、ネフローゼ症候群の病態および検査、治療 (担当：供田 文宏) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)</p> <p>第5回 間質性腎炎と全身性疾患による腎障害の病態および検査、治療 (担当：供田 文宏) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)</p> <p>第6回 尿管・膀胱・前立腺の疾患の病態および検査、治療 (担当：供田 文宏) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)</p> <p>第7回 水・電解質代謝および酸塩基平衡の異常における病態および検査、治療 (担当：供田 文宏) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)</p> <p>第8回 視床下部・下垂体疾患、甲状腺の疾患での病態および検査、治療 (担当：供田 文宏) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)</p> <p>第9回 副甲状腺疾患、副腎疾患、性腺疾患での病態および検査、治療 (担当：供田 文宏) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)</p> <p>第10回 糖尿病の概念、病態および検査、治療 (担当：供田 文宏) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)</p> <p>第11回 糖尿病の急性合併症と慢性合併症の病態および検査、治療 (担当：供田 文宏) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)</p> <p>第12回 脂質代謝異常と尿酸代謝異常の病態および検査、治療 (担当：供田 文宏) 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (0.5時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (0.5時間)</p> <p>第13回 小児の発達と成長、胎児医学と出生前医学 (担当：林 浩嗣) 事前学習：上記に該当する内容に関する資料を配布するので事前学習しておくこと (0.5時間)</p>

	<p>第14回 事後学習：配布資料、課題で事後学習しておくこと（0.5時間） 周産期障害、脳性麻痺と運動器疾患、てんかんと痙攣性疾患の病態および治療 （担当：林 浩嗣） 事前学習：上記に該当する内容に関する資料を配布するので事前学習しておくこと（0.5時間） 事後学習：配布資料、課題で事後学習しておくこと（0.5時間）</p> <p>第15回 小児の感染症、その他の疾患の病態および治療 （担当：林 浩嗣） 事前学習：上記に該当する内容に関する資料を配布するので事前学習しておくこと（0.5時間） 事後学習：配布資料、課題で事後学習しておくこと（0.5時間）</p>
テキスト	寺野 彰著：シンプル内科学 改定第2版、南江堂出版、2017年出版
参考書・参考資料等	特になし
学生に対する評価	供田文宏：筆記試験のみ 80% 林 浩嗣：筆記試験のみ 20%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	供田文宏：14時から17時に研究室6で随時受けつける。講義中および終了時に適宜返答する。 林 浩嗣：講義中および終了時に適宜返答する。
備考	<p>【実務経験について】</p> <p>供田文宏：富山大学附属病院で従事した内科診療、急性期医療、病理検討業務の経験を基に、当講義を進める。 また、富山大学、福井医療短期大学、福井医療大学での実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。</p> <p>林 浩嗣：福井大学医学部附属病院、基幹病院の急性期病棟で勤務した経験を基に、当講義を進める。 福井大学、福井医療短期大学、福井医療大学での実務(勤務)経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【必修】理学, 作業, 言語
担当教員			
佐藤 万美子			
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	主要な神経症候の診かたと正確な神経学的検査法を学習する。
授業の概要	神経疾患に関する正確な知識を得るために、神経解剖、局所解剖、病態生理をもとに神経症候について理解する。また、主要な神経症候の診かたと正確な神経学的検査法を学習することで、各種神経疾患の診断に結びつく基礎を身につける。
授業計画	<p>第1回 病歴のとりかた、診察の順序 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第2回 運動機能の診かた 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第3回 運動麻痺の診かた 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第4回 反射の診かた 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第5回 感覚・感覚障害の診かた 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第6回 脳神経の診かた 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第7回 脳神経障害の診かた 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第8回 精神状態の診かた 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第9回 意識障害患者の診かた 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第10回 小脳機能の診かた 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第11回 小脳障害の診かた 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第12回 不随意運動の診かた 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第13回 失語、失行、失認の診かた 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第14回 局在診断のすすめ方 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p>

	<p>第15回</p> <p>重要点の補充</p> <p>事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間）</p> <p>事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）</p> <p>定期試験</p>
テキスト	病気がみえるvol.7 脳・神経：メディックメディア
参考書・参考資料等	配布資料
学生に対する評価	筆記試験 100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する
備考	<p>【実務経験について】</p> <p>大学病院、一般病院において、神経内科医・リハビリテーション科医としての実務経験を有しており、その経験を踏まえ講義で教授する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【必修】理学, 作業, 言語
担当教員			
小俣 直人			
講義	初級障がい者スポーツ指導員対象科目(理学・作業・言語)	020408L1POS	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	精神と行動の障害における病態、診断などに関する基本的な知識を習得し理解することを目的とする。
授業の概要	精神医学の概念を学び、精神症状の特徴を理解する。疾患としては、統合失調症、躁うつ病、てんかんを中心にその評価診断法、治療法を学ぶ。 精神医学とは、精神疾患の診断・治療を担当すると同時に、精神症状で苦しんでいる人々のこころを理解し、必要な援助を行うことである。対象となる患者の身体のみならず精神状態や、おかれている社会的状況を正確に把握する資質を養うことも重要である。また精神障害者が地域社会で生活するうえでのリハビリテーションについても理解することが肝要である。
授業計画	<p>第1回 精神疾患の分類、精神症状学 事前学習：参考書等を使用して学習テーマの概略を掴んでおくこと。(30分) 事後学習：プリントを、最後に記載した「まとめ」の内容を参照しながら見返して、学習テーマの要点を確認すること。(30分)</p> <p>第2回 面接、精神療法 事前学習：参考書等を使用して学習テーマの概略を掴んでおくこと。(30分) 事後学習：プリントを、最後に記載した「まとめ」の内容を参照しながら見返して、学習テーマの要点を確認すること。(30分)</p> <p>第3回 認知症1 (総論、変性性認知症) 事前学習：参考書等を使用して学習テーマの概略を掴んでおくこと。(30分) 事後学習：プリントを、最後に記載した「まとめ」の内容を参照しながら見返して、学習テーマの要点を確認すること。(30分)</p> <p>第4回 認知症2 (脳血管性認知症)、発達障害 事前学習：参考書等を使用して学習テーマの概略を掴んでおくこと。(30分) 事後学習：プリントを、最後に記載した「まとめ」の内容を参照しながら見返して、学習テーマの要点を確認すること。(30分)</p> <p>第5回 てんかん 事前学習：参考書等を使用して学習テーマの概略を掴んでおくこと。(30分) 事後学習：プリントを、最後に記載した「まとめ」の内容を参照しながら見返して、学習テーマの要点を確認すること。(30分)</p> <p>第6回 薬物・アルコール依存 事前学習：参考書等を使用して学習テーマの概略を掴んでおくこと。(30分) 事後学習：プリントを、最後に記載した「まとめ」の内容を参照しながら見返して、学習テーマの要点を確認すること。(30分)</p> <p>第7回 統合失調症1 (症状、診断) 事前学習：参考書等を使用して学習テーマの概略を掴んでおくこと。(30分) 事後学習：プリントを、最後に記載した「まとめ」の内容を参照しながら見返して、学習テーマの要点を確認すること。(30分)</p> <p>第8回 統合失調症2 (治療) 事前学習：参考書等を使用して学習テーマの概略を掴んでおくこと。(30分) 事後学習：プリントを、最後に記載した「まとめ」の内容を参照しながら見返して、学習テーマの要点を確認すること。(30分)</p> <p>第9回 気分障害1 (うつ病) 事前学習：参考書等を使用して学習テーマの概略を掴んでおくこと。(30分) 事後学習：プリントを、最後に記載した「まとめ」の内容を参照しながら見返して、学習テーマの要点を確認すること。(30分)</p> <p>第10回 気分障害2 (双極性障害) 事前学習：参考書等を使用して学習テーマの概略を掴んでおくこと。(30分) 事後学習：プリントを、最後に記載した「まとめ」の内容を参照しながら見返して、学習テーマの要点を確認すること。(30分)</p> <p>第11回 神経症1 (不安障害など) 事前学習：参考書等を使用して学習テーマの概略を掴んでおくこと。(30分) 事後学習：プリントを、最後に記載した「まとめ」の内容を参照しながら見返して、学習テーマの要点を確認すること。(30分)</p> <p>第12回 神経症2 (解離性障害、身体表現性障害など) 事前学習：参考書等を使用して学習テーマの概略を掴んでおくこと。(30分) 事後学習：プリントを、最後に記載した「まとめ」の内容を参照しながら見返して、学習テーマの要点を確認すること。(30分)</p> <p>第13回 睡眠障害、摂食障害 事前学習：参考書等を使用して学習テーマの概略を掴んでおくこと。(30分) 事後学習：プリントを、最後に記載した「まとめ」の内容を参照しながら見返して、学習テーマの要点を確認すること。(30分)</p>

	<p>第14回 パーソナリティ障害、性同一性障害、自殺 事前学習：参考書等を使用して学習テーマの概略を掴んでおくこと。(30分) 事後学習：プリントを、最後に記載した「まとめ」の内容を参照しながら見返して、学習テーマの要点を確認すること。(30分)</p> <p>第15回 精神保健福祉と司法精神医学 事前学習：参考書等を使用して学習テーマの概略を掴んでおくこと。(30分) 事後学習：プリントを、最後に記載した「まとめ」の内容を参照しながら見返して、学習テーマの要点を確認すること。(30分) 定期試験</p>
テキスト	プリント
参考書・参考資料等	飯高哲也編：メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ 精神医学、理工図書 (公益)日本障がい者スポーツ協会(編)、障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級)(株)ぎょうせい
学生に対する評価	定期試験(筆記試験)90%、修学態度10%
課題(試験やレポート等)に対応するフィードバックの方法	講義中および講義終了後に適宜返答する。
備考	精神科病棟や精神科外来で勤務した経験を基に、当講義を進める。 精神科医での実務(勤務)経験を有しており、その経験を踏まえ、講義を教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【必修】理学, 作業, 言語
担当教員			
供田 文宏			
講義		020409L1POS	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	医療に関わる者として、疾病の原因 (etiology) と発症機序 (pathogenesis) について学び、患者の生活機能の欠落がどのようにして起こってきたのかを十分に理解し、理学療法・作業療法及び言語療法に役立てることを目標とする。
授業の概要	病理学は疾病(病気)の特性を形態像から理論的に体系づけた学問であり、具体的には疾病の原因、病態、経過、予後などを学習する。病理学総論と各論に分けて行う。 総論では、萎縮、変性、壊死、代謝障害、肥大、再生、肉芽組織と創傷治癒、化生、移植、異物の処理、循環、貧血、充血、鬱血、出血、ショック、血栓症、塞栓症、梗塞症、体液循環障害、炎症、自己免疫疾患、炎症、腫瘍等について、理解を深める。 また、各論では、それぞれの症状がみられる疾患について学習し、診断と治療法について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 刺激や障害に対する細胞・組織の病理変化 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (2時間)</p> <p>第2回 出血、浮腫、血栓・塞栓症の病態と病理変化 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (2時間)</p> <p>第3回 ショックと高血圧の病態と病理変化 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (2時間)</p> <p>第4回 生体の免疫機構とその異常 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (2時間)</p> <p>第5回 炎症と自己免疫性疾患 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (2時間)</p> <p>第6回 感染症の発症機序、検査および治療 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (2時間)</p> <p>第7回 細菌・ウイルス・結核菌の感染症の特徴と形態異常 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (2時間)</p> <p>第8回 先天異常と腫瘍の発症機序と病理変化 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと (2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと (2時間)</p>
テキスト	寺野 彰著：シンプル内科学 改定第2版、南江堂出版、2017年出版 小林正伸ら著：なるほどなっとく！病理学 病態形成の基本的なしくみ、南山堂出版、2017年(第2版)出版
参考書・参考資料等	特になし
学生に対する評価	筆記試験 100%
課題(試験やレポート等)に対応するフィードバックの方法	14時から17時に研究室6で随時受けつける。 講義中および終了時に適宜返答する。
備考	担当教員は富山大学附属病院で従事した内科診療、急性期医療、病理検討業務の経験を基に、当講義を進める。 また、担当教員は富山大学、福井医療短期大学、福井医療大学での実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】理学、作業、言語
担当教員			
林 浩嗣			
講義	初級障がい者スポーツ指導員対象科目(言語)	020410L2POS	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の診断方法を理解し、評価できるようにする。 ・障害に関係する診断技術について理解する。
授業の概要	リハビリテーション医学は様々な疾患により発生した、身体的、心理的障害に対して、正しい診断と評価を行い、早期の社会復帰を目標に行う医療である。リハビリテーションで行われている評価手技(医用画像を含む)を理解し、代表的疾患についてのリハビリテーション医学診断学の基礎的知識を獲得する。また日本におけるリハビリテーション専門医制度を理解し、急性期リハビリテーション、回復期リハビリテーション、維持期リハビリテーションにおける専門医とのかかわりについて学ぶ。
授業計画	<p>第1回 運動障害の仕組みについて理解する。疼痛の評価について理解する。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと(2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと(2時間)</p> <p>第2回 循環について理解する。呼吸について理解する。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと(2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと(2時間)</p> <p>第3回 小児の発達を評価できる。失語症と構音障害について理解する。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと(2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと(2時間)</p> <p>第4回 嚥下障害について理解する。患者の心理を理解する。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと(2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと(2時間)</p> <p>第5回 高次脳機能障害について理解し評価できる。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと(2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと(2時間)</p> <p>第6回 排泄について理解し治療できる。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと(2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと(2時間)</p> <p>第7回 リハビリテーションに必要な画像を読影できる。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと(2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと(2時間)</p> <p>第8回 身体障がい・内部障がいについて理解する。 事前学習：上記に該当する内容をテキストで事前学習しておくこと(2時間) 事後学習：テキスト、配布資料で事後学習しておくこと(2時間)</p>
テキスト	千野直一監修：現代リハビリテーション医学 改訂第4版、金原出版、2017年
参考書・参考資料等	(公財)日本障がい者スポーツ協会(編)、障がいのある人のスポーツ指導教本、株式会社ぎょうせい
学生に対する評価	筆記試験 100%
課題(試験やレポート等)に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する。
備考	<p>【実務経験について】</p> <p>福井大学医学部附属病院、基幹病院の急性期病棟で勤務した経験を基に、当講義を進める。 福井大学、福井医療短期大学、福井医療大学での実務(勤務)経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【必修】理学, 作業, 言語
担当教員			
菅野 智也			
講義	A T対象科目	020414L1POA	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	スポーツ現場における救急対応の考え方を理解し、外傷、障害の評価や基本的な救急対応について説明・実践できる。また、内科疾患に対する救急対応について説明・実践できる。
授業の概要	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの役割における「救急対応」の位置づけを理解したうえで、医療資格保持者へ引き継ぐためにできる最高レベルの救急対応の実践的な知識、態度や技術を習得することをねらいとする。合わせて、スポーツ活動現場における救急対応の特性と意義を理解することをねらいとする。具体的な目標を次のようにあげる。 スポーツ現場における救急対応の考え方を理解し、外傷、障害の評価や基本的な救急対応について説明・実践できる。また、内科疾患に対する救急対応について説明・実践できる。
授業計画	<p>第1回 スポーツ現場と救急対応について 事前学習：テキストp2～p5を読んでおく。(時間30分) 事後学習：授業内容を復習し、ノート及び配布資料に整理する。(時間30分)</p> <p>第2回 救急対応の考え方について 事前学習：テキストp8～p11を読んでおく。(時間30分) 事後学習：授業内容を復習し、ノート及び配布資料に整理する。(時間30分)</p> <p>第3回 スポーツ現場における救急体制構築の留意点と計画について 事前学習：テキストp14～p19を読んでおく。(時間30分) 事後学習：授業内容を復習し、ノート及び配布資料に整理する。(時間30分)</p> <p>第4回 スポーツ現場における救急体制計画の実際について 事前学習：テキストp19～p27を読んでおく。(時間30分) 事後学習：授業内容を復習し、ノート及び配布資料に整理する。(時間30分)</p> <p>第5回 スポーツ現場での外傷・障害の初期評価について／スポーツ現場における救急体制構築の留意点と計画について 事前学習：テキストp30～p35を読んでおく。(時間30分) 事後学習：授業内容を復習し、ノート及び配布資料に整理する。(時間30分)</p> <p>第6回 スポーツ現場での外傷・障害における体位管理と保温、搬送法について 事前学習：テキストp36～p47を読んでおく。(時間30分) 事後学習：授業内容を復習し、ノート及び配布資料に整理する。(時間30分)</p> <p>第7回 スポーツ現場での外傷・障害における体位管理と保温、搬送法の実践 事前学習：テキストp36～p47を読んでおく。(時間30分) 事後学習：授業内容を復習し、ノート及び配布資料に整理する。(時間30分)</p> <p>第8回 創傷・出血における救急対応について 事前学習：テキストp50～p56を読んでおく。(時間30分) 事後学習：授業内容を復習し、ノート及び配布資料に整理する。(時間30分)</p> <p>第9回 創傷・出血における救急対応についての実践 事前学習：テキストp50～p56を読んでおく。(時間30分) 事後学習：授業内容を復習し、ノート及び配布資料に整理する。(時間30分)</p> <p>第10回 打撲・捻挫・肉離れの救急対応について 事前学習：テキストp57～p62を読んでおく。(時間30分) 事後学習：授業内容を復習し、ノート及び配布資料に整理する。(時間30分)</p> <p>第11回 心停止の病態と医学的留意事項・救急対応の意義について 事前学習：テキストp124～p129を読んでおく。(時間30分) 事後学習：授業内容を復習し、ノート及び配布資料に整理する。(時間30分)</p> <p>第12回 心停止の救急対応について 事前学習：テキストp129～p136を読んでおく。(時間30分) 事後学習：授業内容を復習し、ノート及び配布資料に整理する。(時間30分)</p> <p>第13回 心停止の救急対応の実践 事前学習：テキストp129～p136を読んでおく。(時間30分) 事後学習：授業内容を復習し、ノート及び配布資料に整理する。(時間30分)</p> <p>第14回 熱中症の救急対応について 事前学習：テキストp137～p150を読んでおく。(時間30分) 事後学習：授業内容を復習し、ノート及び配布資料に整理する。(時間30分)</p> <p>第15回 スポーツでよくみられる内科的疾患の救急対応について 事前学習：テキストp151～p162を読んでおく。(時間30分) 事後学習：授業内容を復習し、ノート及び配布資料に整理する。(時間30分) 定期試験</p>
テキスト	①公益財団法人日本スポーツ協会：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第5巻 救急対応、2022
参考書・参考資料	Reference Book (公益財団法人日本スポーツ協会 発行)

等	
学生に対する評価	定期試験 レポート試験40%、筆記試験 60%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義前後に対応する
備考	※日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成「専門科目」読替 医療機関での実務経験を有しており、その経験を踏まえ講義で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	【必修】理学, 作業, 言語
担当教員			
堀 秀昭			
講義	初級障がい者スポーツ指導員対象科目(理学・作業・言語)	020501LIP0S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	リハビリテーションの概念について理解する。
授業の概要	リハビリテーションの歴史、概念、理念および、その仕組みについて理解する。具体的にはリハビリテーションの定義から始まり、リハビリテーションの諸相である、医学的リハビリテーション（自立支援を含む）、教育的リハビリテーション、職業的リハビリテーション（就労支援を含む）、社会的リハビリテーション（地域包括ケアシステムを含む）の違いについて学習する。また、障害の分類については、ICFの分類を中心に、現在の患者の置かれている状況を把握する。その他、リハビリテーションチームの役割、QOL、保健医療制度、公的介護保険制度などについて学ぶ。
授業計画	<p>第1回 リハビリテーションの歴史及び概念 事前学習：講義資料を確認しリハビリテーションの歴史（古代～現代）を確認する（2時間） 事後学習：リハビリテーションの歴史を学び、その変遷を歴史的なキーポイントから整理する（2時間）</p> <p>第2回 医学的リハビリテーションについて（障害者の自立支援を含む） 事前学習：医学的リハビリテーションとは何か。急性期、回復期、生活期に分けて確認する（2時間） 事後学習：医学的リハビリテーションの範囲を理解し、そこに生じる廃用症候群を整理し理解する（2時間）</p> <p>第3回 国際生活機能分類（ICF）について 事前学習：ICFとICIDHの違いを確認する（2時間） 事後学習：ICFが制定された時代背景を理解し、ICFの求めている内容を整理する。（2時間）</p> <p>第4回 教育的リハビリテーションについて 事前学習：教育的リハビリテーションとは何か確認する（2時間） 事後学習：統合教育の現状を整理し、教育的リハビリテーションがどのように進められているか整理する（2時間）</p> <p>第5回 職業的リハビリテーションについて（就労支援を含む） 事前学習：職業的リハビリテーションとは何か確認する（2時間） 事後学習：職業的リハビリテーションの進め方を整理し、ビデオから現状を認識、レポートを作成し理解を深める（2時間）</p> <p>第6回 社会的リハビリテーションについて（地域包括ケアシステムを含む） 事前学習：社会的リハビリテーションとは何か確認する（2時間） 事後学習：社会的リハビリテーションの進め方を整理し、自治体の進める地域包括ケアを確認する（2時間）</p> <p>第7回 地域リハビリテーション（介護保険制度） 事前学習：地域リハビリテーションとは何か確認する（2時間） 事後学習：地域リハビリテーションの進め方を整理し、介護保険との関係性を確認する（2時間）</p> <p>第8回 レポート発表 事前学習：障害の受容、インフォームドコンセント等について確認する（2時間） 事後学習：発表内容を理解し、リハビリテーションに対する関連知識を整理する（2時間） 定期試験</p>
テキスト	（公益）日本障がい者スポーツ協会（編）、障がいのある人のスポーツ指導教本 株式会社ぎょうせい 配布資料
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	試験100%、レポート（加点方式）20% 発表（加点方式）20%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する
備考	担当教員は、リハビリテーション関連施設で、理学療法の実務経験を有し、その経験を生かし授業を実施している。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	【必修】理学, 作業, 言語
担当教員			
山口 明夫			
講義		020502L1POS	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	将来医療職に携わる者として以下のことを理解し、判断できる知識の修得を目標とする。 医学概論として、医学・医療とはなにか、現代の医療・福祉の抱えている問題点を学ぶ。
授業の概要	人々の健康を保持・増進するために、これまでの保健・医療・福祉に新しい発想が求められ、時代とともに制度改革がなされている。医療職として人々の健康を支援するには、保健・医療・福祉制度を総合的に理解し、それらを調整できる能力が求められている。 また、医療職は人の心に直接ふれる仕事である。医療の変遷から、生命倫理や患者の権利、価値観や人格を尊重した医学的ケアについての考えを深め、専門職としてのアイデンティティを形成する基盤とする。内容は、医学医療の歩み、保健・医療・福祉制度とその動向、現代医療の特性と医の倫理、医療安全、情報開示、終末期医療などである。
授業計画	<p>第1回 医学・医療の歩み、疾病の成り立ちや健康の概念を理解し、説明できる 事前学習：学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（1時間）</p> <p>第2回 死因、疾病構造の変化や疫学、生活習慣と病気など生活と健康について理解し、説明できる 事前学習：学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（1時間）</p> <p>第3回 疾病の診断と治療や患者の権利、医療人の義務などの医学と医療の実践を理解し、説明できる 事前学習：学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（1時間）</p> <p>第4回 日本の医療制度を踏まえ、医療施設や医療保険制度などの医療供給体制を理解し、説明できる 事前学習：学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（1時間）</p> <p>第5回 医療人として倫理規定を理解し、医療安全や感染症対策などに関する知識を会得し、説明できる 事前学習：学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（1時間）</p> <p>第6回 医療における患者の権利、病状告知、インフォームド・コンセントなどを理解し、説明できる 事前学習：学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（1時間）</p> <p>第7回 環境保健、脳死と臓器移植を理解し、問題点を説明できる 事前学習：学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（1時間）</p> <p>第8回 緩和医療や安楽死、尊厳死などを含めた終末期医療について理解し、問題点を説明できる 事前学習：学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（1時間） 定期試験</p>
テキスト	なし
参考書・参考資料等	・小阪樹徳編：新体系看護学12 現代医療論、メディカルフレンド社、平成26年度 ・過去の国家試験問題集
学生に対する評価	1. 筆記試験（授業のプリントより出題する） 100% 2. レポートの提出を求める事もある。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	授業担当日で、講義終了後。ただし原則としてアポイントメントを取ることを。
備考	【実務経験について】

大学病院で急性期病棟や手術室で勤務した経験を基に、当講義を進める。 消化器外科医での実務（勤務）経験を有しており、その経験を踏まえ、講義を教授する。 医学部長、病院長としての実務経験を基に、医療制度、医療安全、終末期医療などについて講義する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	【必修】理学, 作業, 言語, 看護
担当教員			
浅井 智恵美			
講義		020503L3POSN	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1、チーム医療の構成員として自身の専門性を活かし積極的に医療に参画する事ができるようになるために、チーム構成員の職能、医療倫理をはじめとするチーム医療の基礎知識を習得する。 2、関係職種と協働し、ともに地域社会の人々の保健・医療・福祉・教育に貢献できるような態度を身に付け職種間のコミュニケーションの重要性を理解する
授業の概要	医療に携わる専門スタッフには、職能の発揮だけではなく、相互理解と綿密な連携によるチームアプローチが求められる。そのためには、各専門スタッフの職域を理解し、それぞれに課された役割を理解する必要がある。 内容は、チーム医療の歴史、必要性、実際、各専門職域と役割、医療現場、在宅現場における事例を提示し、それぞれの職種の関わりを教授する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 医療のイメージ 事前学習：テキストに目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第2回 チーム医療とは チーム医療の起源 医療従事者の捉えるチーム医療 事前学習：テキストに目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第3回 チーム医療における患者医療者関係 患者参加 チームの中での医療者・患者・家族の役割 患者中心の協働的なチームアプローチ 事前学習：テキストに目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p> チーム医療の倫理 チーム医療の倫理性 倫理的効用を高める民主的なチーム体制 インフォームドコンセント 各専門職の職能 事前学習：テキストに目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第4回 コミュニケーション論 事前学習：テキストに目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第5回 チームダイナミクス PTOTSTNsの立場からの重要な視点とは（チームの立場を理解する） 事前学習：テキストに目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第6回 日本の保健・医療・福祉システム 地域包括ケアシステム 事前学習：テキストに目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第7回 チーム医療の実際 専門職の協働(病院内) 事前学習：テキストに目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第8回 チーム医療の実際 地域医療におけるチーム医療 これからの医療ケア 事前学習：テキストに目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 定期試験</p>
テキスト	鷹野 和美編著 チーム医療論、医歯薬出版株式会社、2002年
参考書・参考資料等	細田 満知子著：「チーム医療」とは何か 医療とケアに生かす社会学からのアプローチ、日本看護協会出版会、2012年出版 水本清久 岡本 牧人 石井 邦雄 土本 寛二編著：実践チーム医療論 実際と教育プログラム、医歯薬出版株式会社、2011

	年
学生に対する評価	筆記試験 90% 提出記録物 10%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了中に適宜返答する
備考	<p>【実務経験について】 総合病院病棟で勤務した経験を基に、当講義を進める。 看護師、保健師、訪問看護師、介護支援専門員、地域包括支援センターでの実務（勤務）経験を有しており、その経験を踏まえ、講義を教授する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	1	【必修】言語【選択】作業、理学
担当教員			
堀 秀昭			
講義	初級障がい者スポーツ指導員対象科目(言語)	020506L4POS	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	社会保障制度について理解する。
授業の概要	コミュニケーション障害者が置かれている様々な環境を理解し、言語聴覚士がコミュニケーション障害者に最善のサービスを行うために、社会保障制度の知識は必須である。現在の社会保障制度の構成と制度を学び、社会福祉の法律が運用どのように運用されているかを理解する。また、実際の障害者に関する施策と実施体制を理解する。さらに、介護保険を始めとする介護保障とその制度の運用を理解する。その上に、直接援助技術、間接援助技術、その他の関連専門援助技術を知る
授業計画	<p>第1回 社会保障の概念と社会福祉について 事前学習：社会保障の目的、機能を確認する（2時間） 事後学習：ノーマライゼーション、自立支援を整理する（2時間）</p> <p>第2回 社会保険の概要について① 事前学習：社会保険制度の役割と変遷を確認する（2時間） 事後学習：社会保険制度の歴史的背景を整理する（2時間）</p> <p>第3回 社会保険の概要について② 事前学習：医療保険と年金保険の役割と変遷を確認する（2時間） 事後学習：医療保険と年金保険の対象範囲を整理する（2時間）</p> <p>第4回 介護保険法について 事前学習：介護保険の役割と変遷を確認する（2時間） 事後学習：介護保険の対象範囲を整理する（2時間）</p> <p>第5回 高齢者福祉について 事前学習：高齢者福祉の役割と変遷を確認する（2時間） 事後学習：高齢者福祉の対象範囲を整理する（2時間）</p> <p>第6回 障害者福祉について 事前学習：高齢者福祉の役割と変遷を確認する（2時間） 事後学習：高齢者福祉の対象範囲を整理する（2時間）</p> <p>第7回 児童福祉について 事前学習：児童福祉の役割と変遷を確認する（2時間） 事後学習：児童福祉の対象範囲を整理する（2時間）</p> <p>第8回 社会福祉援助技術について 事前学習：ケースワーク、グループワークを確認する（2時間） 事後学習：社会福祉援助技術の意義、役割を整理する（2時間） 定期試験</p>
テキスト	西村淳著：健康支援と社会保障制度3 社会福祉，メヂカルフレンド社 2021年
参考書・参考資料等	(公益)日本障がい者スポーツ協会(編)、障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級)(株)ぎょうせい
学生に対する評価	筆記試験：堀 秀昭100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する
備考	担当教員は、リハビリテーション関連施設で、理学療法の実務経験を有し、その経験を生かし授業を実施している。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】言語
担当教員			
高橋 昇			
講義		020601L2S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	言語聴覚士は聴覚障害、発声・言語機能障害、嚥下障害などを対象とするために、それらの基本である耳鼻咽喉科学の知識の修得を目標とする。
授業の概要	耳鼻咽喉科学の知識は、言語聴覚士にとって、必要不可欠なものといえる。また、その他の専門基礎科目、専門科目を学習していく上でも、基礎となる科目といえる。 ここでは、まず、耳・鼻・口腔・咽頭・気管・食道などの各々の構造や機能について説明する。さらに、それぞれ主要な病態を紹介し、耳鼻科的な検査や診断方法、治療方法について概説していく。将来の臨床現場で必要となる、耳鼻咽喉科学の知識を獲得することを目標とする。
授業計画	<p>第1回 聴覚・前庭系の構造と機能の理解 (①P. 9-22) 事前学習：指定テキスト上記範囲に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第2回 耳疾患の理解 (①P. 46-56) 事前学習：指定テキスト上記範囲に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第3回 真珠腫性中耳炎の理解 (①P. 48. 49) 顔面神経麻痺の理解 (①P. 50-52) 事前学習：指定テキスト上記範囲に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第4回 めまい、前庭障害の理解 (①P. 15. 16. 21. 22. 86-102) 耳鳴りの理解 (①P. 103-110) 事前学習：指定テキスト上記範囲に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第5回 幼児難聴・遺伝性難聴の理解 (①P. 22-25. 39-46. 64-67) 心因性難聴 (①P. 76) 事前学習：指定テキスト上記範囲に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第6回 鼻の構造と機能の理解 (①P. 114-121) アレルギー性鼻炎の理解 (①P. 126-128) 事前学習：指定テキスト上記範囲に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第7回 鼻・副鼻腔疾患の理解 (①P. 121-132) 事前学習：指定テキスト上記範囲に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第8回 口腔・咽頭の構造と嚥下機能の理解 (①P. 134-140) 唾液腺疾患の理解 (①P. 143-145) 事前学習：指定テキスト上記範囲に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第9回 舌口腔・咽頭疾患の理解 (①P. 141-143) 頭頸部癌術後再建法の理解 (②P. 296-297) 事前学習：指定テキスト上記範囲に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第10回 喉頭の構造と声帯運動の理解 (①P. 176-184) 事前学習：指定テキスト上記範囲に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第11回 喉頭疾患の理解 (①P. 190-197) 事前学習：指定テキスト上記範囲に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第12回 反回神経麻痺の理解 (①P. 195. 196. 207) 代用発声法の理解 (①P. 208. 209) 事前学習：指定テキスト上記範囲に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第13回 気管食道の解剖、気管食道異物の理解 (①P. 214-234) 事前学習：指定テキスト上記範囲に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間) 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う (0.5時間)</p> <p>第14回 気管切開術の理解 (①P. 235-243) 事前学習：指定テキスト上記範囲に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく (0.5時間)</p>

	<p>事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）</p> <p>第15回 嚥下障害、特に外科的治療の理解（①P. 262-264）、まとめ</p> <p>事前学習：指定テキスト上記範囲に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（0.5時間）</p> <p>事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（0.5時間）</p> <p>定期試験</p>
テキスト	<p>①田山 二郎、他編：言語聴覚士のための基礎知識・耳鼻咽喉科学 第3版、医学書院、2023</p> <p>②森満 保：イラスト耳鼻咽喉科学第4版増補、文光堂、2024</p>
参考書・参考資料等	言語聴覚士の国家試験問題集
学生に対する評価	筆記試験 100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	授業担当日で、講義終了後。
備考	<p>【実務経験について】</p> <p>耳鼻咽喉科医での実務（勤務）経験を有しており、その経験を踏まえ、講義を教授する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	【必修】言語
担当教員			
西尾 桂子・北川 敦子			
講義		020602L2S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	<p>形成外科は、先天性および後天性の身体外表の形態と色調の変化や機能障害を対象とする。機能はもとより形態を正常に近づけることで個人を社会に適応させることを使命としている。身体外表に関する外傷、腫瘍性疾患、先天性疾患、および加齢性変化に伴う機能および整容的異常が対象となる。対象は顔面頸部となることが多く、言語聴覚関連部位と密接に関連している。授業は言語聴覚士に必要な形成外科的知識の習得を目的とする。</p> <p>1) 治療総論 皮膚解剖と生理、創傷治癒、皮膚縫合、組織移植、植皮、皮弁 2) 口唇裂、口蓋裂 分類、統計、発生、手術時期、術式、二次手術、鼻咽腔閉鎖不全、言語療法 3) 頭蓋頸顔面疾患 顔面頸部の解剖、顔面外傷、頭頸部再建、先天性形態異常 4) 形成外科の疾患 熱傷、難治性皮膚潰瘍、瘢痕・ケロイド</p>
授業の概要	<p>言語聴覚士にとって頭蓋・顔面への深い理解は、欠かせない。ここでは、皮膚の解剖・生理および創傷治癒、組織移植や外傷、熱傷、潰瘍および形成手術、再建手術の総論について学ぶ。また、言語聴覚士に関連の強い疾患である口唇・口蓋裂については、分類・発生・原因とその手術時期・術式について具体的に学習する。</p> <p>さらに、その他の頭蓋・顔面の先天異常について学び、頭頸部外科手術後の変形および機能障害などについて理解を深める。</p>
授業計画	<p>第1回 形成外科治療方法について理解する 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第2回 形成外科が扱う疾患について理解する 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第3回 唇顎口蓋裂について理解する 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第4回 唇顎口蓋裂の手術について理解する 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第5回 唇顎口蓋裂二次手術とその他の先天性異常について理解する 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第6回 創傷がもつ意味について創傷発生から治癒過程を理解し、STに求められることを考察する 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第7回 褥瘡の発生予測から治癒までのケアを多角的側面から理解する 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第8回 STとして褥瘡の予防や治癒促進に向けた具体的なケア方法を考える（演習） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 定期試験</p>
テキスト	配布資料
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	筆記試験（西尾60%、北川40%（内、北川担当の演習レポート試験8%を含む））で評価し、60%以上を合格とする。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	授業前後に質問時間を設ける。
備考	<p>【実務経験について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学病院等で急性期病棟や手術室で勤務した経験を基に、当講義を進める。 ・形成外科での実務（勤務）経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。

	<p>大学院で創傷関連の研究および製品開発と評価を行ってきた。さらに看護師として大学病院、一般病院、老健施設などでの創傷ケア経験、褥瘡回診メンバーとして培った経験をもとに、当講義を進める（北川）</p> <ul style="list-style-type: none">・リハビリテーション関連病院および大学・大学院で言語聴覚障害に対する症例研究等の実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。（西尾）
--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】言語
担当教員			
木下 英荘			
講義		020603L2S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 口腔領域に含まれる諸器官（特に歯・歯周組織）の構造や機能について学び、う蝕や歯周病、基本的な口腔疾患等の病態と治療法を理解する。 2. 口腔疾患と全身疾患の関連について説明できる。 3. 口腔疾患の種類、発生部位、原因、症状、治療法などを系統だてて説明できる。 4. 口腔領域の悪性・良性腫瘍、嚢胞、顎変形症や顎関節症について適切に説明できる。 5. 口腔疾患の予防方法や、機能障害が生じた際の補助装置について説明できる。
授業の概要	構音障害・摂食嚥下障害を理解するために、臨床歯科医学の知識は必須である。臨床歯科医学では、歯科・口腔領域の解剖・生理・機能・疾患および病態の理解を深める。具体的には、口腔領域に含まれる諸器官（特に歯・歯周組織）の構造・機能・発生について学び、齶蝕や歯周病などの病態を理解する。また、顎関節や唾液腺の機能・発生・構造も併せて学ぶ。さらに、口腔ケアや歯科医学的処置についても理解を深める。
授業計画	<p>第1回 頭頸部、口腔の名称や構成される骨について説明できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第2回 舌や唾液腺の機能と構造が説明できる。またその代表的な疾患を説明できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第3回 頭頸部の神経、筋について説明できる。顎関節の構造と顎運動のしくみを説明できる。顎関節症の成因、治療法を理解する。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第4回 下顎の反射のしくみを理解する。歯の発生、歯式について説明できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第5回 歯、歯周組織の構造と機能を説明できる。う蝕の成因や治療法を説明できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第6回 歯周病の成因と治療法や口腔ケアについて説明できる。歯の欠損に対する治療法を理解する。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第7回 基本的な口腔外科疾患と治療法、また、言語聴覚士との連携について説明できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第8回 これまで学習した内容について、知識を整理し系統だて、適切に説明できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 定期試験</p>
テキスト	小島愛子他著：成人看護学 歯・口腔疾患患者の看護、医学書院、2004。 道健一編：言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学、医歯薬出版、2003。
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	筆記試験 100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する。
備考	【実務経験について】 大学病院で急性期病棟や手術室で勤務した経験を基に、当講義を進める。 歯科口腔外科での実務（経験）を有しており、その経験を踏まえ、講義を教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	【必修】言語
担当教員			
新谷 純・保屋野 健悟			
講義		020604L1S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	発声発語器官の機能が説明でき、その器官の構造と運動が説明できる。さらに、その器官の異常がもたらす発声発語機能の障がいとの関係が説明できる。また、発声発語と摂食・嚥下の関係が説明できる。
授業の概要	発声発語（話しことば＝音声の生成）にとって重要な、呼吸、発声、共鳴・調音といった諸過程に関わっている器官とその構造、および神経・筋活動などについて学習する。各器官の構造と運動が、発声発語および摂食・嚥下機能とどう関係しているか理解し、さらに、各器官に生じた形態および運動の異常は正常な発声発語と摂食・嚥下をどのように妨げるかの基本を理解する。
授業計画	<p>第1回 概論。発声発語器官の観察。発声発語運動の観察 (担当：新谷 純) 事前学習 (30分)：教科書の対応箇所を読み、関連する教科の復習を行う 事後学習 (30分)：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第2回 発声発語器官の構造、全体像 (担当：新谷 純) 事前学習 (30分)：教科書の対応箇所を読み、関連する教科の復習を行う 事後学習 (30分)：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第3回 呼吸器の形態、構造、正常な運動機能 (担当：新谷 純) 事前学習 (30分)：教科書の対応箇所を読み、関連する教科の復習を行う 事後学習 (30分)：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第4回 喉頭の形態、構造、正常な運動機能 (担当：新谷 純) 事前学習 (30分)：教科書の対応箇所を読み、関連する教科の復習を行う 事後学習 (30分)：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第5回 下顎、舌、口唇の形態、構造、正常な運動機能 (担当：保屋野 健悟) 事前学習 (30分)：教科書の対応箇所を読み、関連する教科の復習を行う 事後学習 (30分)：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第6回 構音・摂食嚥下に関係する神経 (担当：保屋野 健悟) 事前学習 (30分)：教科書の対応箇所を読み、関連する教科の復習を行う 事後学習 (30分)：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第7回 構音・摂食嚥下に関係する神経 (担当：保屋野 健悟) 事前学習 (30分)：教科書の対応箇所を読み、関連する教科の復習を行う 事後学習 (30分)：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第8回 摂食嚥下機能と発声発語運動機能の関連 (担当：保屋野 健悟) 事前学習 (30分)：教科書の対応箇所を読み、関連する教科の復習を行う 事後学習 (30分)：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う 定期試験</p>
テキスト	坂井 建雄 プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖 第3版 医学書院 2019年 益田 慎：発声発語・摂食嚥下の解剖・生理学. MEDICAL VIEW, 2022年
参考書・参考資料等	なし
学生に対する評価	筆記試験（100％）とする。出題割合は、100点満点中、新谷60点、保屋野40点、とし、総合点で60点以上を合格とする。また、聴講票の未提出（欠席時は除く）があれば、不合格とする場合がある。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	研究室在室時は随時対応します。
備考	<p>新谷：急性期・回復期のリハビリテーション関連病院で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。</p> <p>保屋野：急性期・回復期・生活期のリハビリテーション関連病院・施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	【必修】言語
担当教員			
林 浩嗣			
講義		020605LIS	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. ヒトの行為や言動、思考などは中枢神経系の働きによって営まれており、身体における神経系の構造を把握することは、言語聴覚療法を行うにあたり重要であることを理解する。 2. 大脳を中心とした神経・感覚器系の基本的な構造と機能について学ぶ。 3. 運動・感覚障害に対する解剖生理学的な分析能力を学ぶ。
授業の概要	脳は約1000億もの神経細胞から構成される情報処理器官である。この神経細胞の複雑なネットワークにより、認知、記憶、思考、言語、感情、意志など、ヒトにとって最も重要な高次精神機能が生まれる。脳はヒトが人間らしく生きるための根幹を成す器官である。言語聴覚療法を行うにあたりヒトの脳について深く学ぶことは非常に重要な要素である。 まず神経科学の入門として脳の神経細胞の働き、中枢神経系および末梢神経系の構造・機能について学び、それらの神経系の病態についても理解する。さらに、神経生理・画像検査についても広く学び、近年の脳イメージング研究から得られた知見からヒトの脳機能についてより深く考察できる能力を養う。
授業計画	<p>第1回 神経系の解剖(ニューロン、シナプス、神経伝達物質、グリア細胞) 事前学習：上記に該当する内容に関する資料を配布するので事前学習しておくこと (30分) 事後学習：配布資料、課題で事後学習しておくこと (30分)</p> <p>第2回 神経系の解剖(大脳皮質・白質) 事前学習：上記に該当する内容に関する資料を配布するので事前学習しておくこと (30分) 事後学習：配布資料、課題で事後学習しておくこと (30分)</p> <p>第3回 神経系の解剖(大脳基底核、大脳辺縁系) 事前学習：上記に該当する内容に関する資料を配布するので事前学習しておくこと (30分) 事後学習：配布資料、課題で事後学習しておくこと (30分)</p> <p>第4回 神経系の解剖(間脳、脳幹、小脳) 事前学習：上記に該当する内容に関する資料を配布するので事前学習しておくこと (30分) 事後学習：配布資料、課題で事後学習しておくこと (30分)</p> <p>第5回 神経系の解剖(脳脊髄液、脳循環、脊髄) 事前学習：上記に該当する内容に関する資料を配布するので事前学習しておくこと (30分) 事後学習：配布資料、課題で事後学習しておくこと (30分)</p> <p>第6回 神経系の解剖(運動系・感覚系の伝導路) 事前学習：上記に該当する内容に関する資料を配布するので事前学習しておくこと (30分) 事後学習：配布資料、課題で事後学習しておくこと (30分)</p> <p>第7回 神経系の解剖(脳神経、自律神経) 事前学習：上記に該当する内容に関する資料を配布するので事前学習しておくこと (30分) 事後学習：配布資料、課題で事後学習しておくこと (30分)</p> <p>第8回 脳イメージング 事前学習：上記に該当する内容に関する資料を配布するので事前学習しておくこと (30分) 事後学習：配布資料、課題で事後学習しておくこと (30分)</p> <p>第9回 脳血管障害、頭部外傷 事前学習：上記に該当する内容に関する資料を配布するので事前学習しておくこと (30分) 事後学習：配布資料、課題で事後学習しておくこと (30分)</p> <p>第10回 脳腫瘍、感染症 事前学習：上記に該当する内容に関する資料を配布するので事前学習しておくこと (30分) 事後学習：配布資料、課題で事後学習しておくこと (30分)</p> <p>第11回 神経変性疾患 事前学習：上記に該当する内容に関する資料を配布するので事前学習しておくこと (30分) 事後学習：配布資料、課題で事後学習しておくこと (30分)</p> <p>第12回 頭痛、てんかん、脱髄性疾患 事前学習：上記に該当する内容に関する資料を配布するので事前学習しておくこと (30分) 事後学習：配布資料、課題で事後学習しておくこと (30分)</p> <p>第13回 筋疾患、神経・筋接合部疾患 事前学習：上記に該当する内容に関する資料を配布するので事前学習しておくこと (30分) 事後学習：配布資料、課題で事後学習しておくこと (30分)</p> <p>第14回 末梢神経障害 事前学習：上記に該当する内容に関する資料を配布するので事前学習しておくこと (30分) 事後学習：配布資料、課題で事後学習しておくこと (30分)</p> <p>第15回 認知症 事前学習：上記に該当する内容に関する資料を配布するので事前学習しておくこと (30分) 事後学習：配布資料、課題で事後学習しておくこと (30分)</p>
テキスト	配布資料
参考書・参考資料等	ベッドサイドの神経の診かた：南山堂

学生に対する評価	筆記試験 100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	講義中および終了時に適宜返答する
備考	<p>【実務経験について】</p> <p>福井大学医学部附属病院、基幹病院の急性期病棟で勤務した経験を基に、当講義を進める。 福井大学、福井医療短期大学、福井医療大学での実務(勤務)経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【必修】言語
担当教員			
高橋 昇			
講義		020606LIS	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 聴覚器の構造・機能について理解する。 2. 聴覚路と聴覚中枢について理解する。 3. 種々の聴覚に関する検査について理解する。 4. 難聴の種類とそれに関連する疾患への理解を深める。
授業の概要	言語聴覚士の主要な業務は、言語・聴覚のリハビリテーションであり、聴覚障害について十分に理解しておくことが必須となる。多くの聴覚障害は耳疾患由来であり、また原因疾患を十分理解することが、聴覚障害者に適切な訓練・指導を行っていくうえで重要である。ここでは、耳の基本的な解剖や機能、聴覚検査も含めた検査法を概説する。さらに、聴覚障害をきたす代表的な疾患について解説し、難聴の機序や、難聴の診断までの過程、治療の基本的な方法などを理解することを目標とする。
授業計画	<p>第1回 聴器の構造の理解（全体像、外耳、中耳）（①P7～P12） 事前学習：指定テキスト上記範囲に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：テキストおよび講義内容をもとに復習を行う（2時間）</p> <p>第2回 聴器の構造の理解（内耳、聴覚伝導路）（①P12～P19） 事前学習：指定テキスト上記範囲に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：テキストおよび講義内容をもとに復習を行う（2時間）</p> <p>第3回 聴器の機能の理解（①P20～P38） 事前学習：指定テキスト上記範囲に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：テキストおよび講義内容をもとに復習を行う（2時間）</p> <p>第4回 聴器に関する検査、標準純音聴力検査の理解（②P32～P47） 事前学習：指定テキスト上記範囲に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：テキストおよび講義内容をもとに復習を行う（2時間）</p> <p>第5回 標準純音聴力検査以外の聴覚検査の理解（②P48～P61） 事前学習：指定テキスト上記範囲に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：テキストおよび講義内容をもとに復習を行う（2時間）</p> <p>第6回 伝音難聴をきたす疾患の理解（①P40～P44） 事前学習：指定テキスト上記範囲に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：テキストおよび講義内容をもとに復習を行う（2時間）</p> <p>第7回 感音性難聴をきたす疾患の理解（その1）（①P45～P58） 事前学習：指定テキスト上記範囲に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：テキストおよび講義内容をもとに復習を行う（2時間）</p> <p>第8回 感音性難聴をきたす疾患の理解（その2）（①P58～P70） 事前学習：指定テキスト上記範囲に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：テキストおよび講義内容をもとに復習を行う（2時間）</p> <p>定期試験</p>
テキスト	①中野雄一：聴覚系耳科学，考古堂，2008 ②森満保：イラスト耳鼻咽喉科 第4版増補，文光堂，2024
参考書・参考資料等	特になし
学生に対する評価	筆記試験 100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	授業担当日で、講義終了後。
備考	【実務経験について】 耳鼻咽喉科医での実務（勤務）経験を有しており、その経験を踏まえ、講義を教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	【必修】言語
担当教員			
青井 利哉			
講義		020607L3S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	心理学における学習とは何かを考える講義である。人のさまざまな行動について、学習理論による説明を試みることができる。		
授業の概要	行動の原理を学び、それを日常の身近な行動に当てはめて考えられることを目指す。人間を含めた動物の行動の獲得・維持・変化・消失に関わる古典的条件づけとオペラント条件づけに焦点を当て、行動がどのような要因の影響を受け変化するかについて理解し、その原理に関連する諸現象を学習する。 さらに、認知とは生体の能動的な情報収集・処理の活動であるため、環境からの情報収集と保存、獲得した情報を加工して新たな知識を作り出す過程などについても学習する。		
授業計画	第1回	学習・認知心理学の歴史的背景 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第2回	学習とは何か 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第3回	人と動物の生得的行動 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第4回	古典的条件づけの基礎 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第5回	古典的条件づけによる行動の獲得 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第6回	オペラント条件づけの基礎 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第7回	オペラント条件づけによる行動の獲得 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第8回	技能学習における技能の上達と練習 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第9回	技能学習における学習の転移 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第10回	社会的学習 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第11回	問題解決と推理 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第12回	概念形成と言語獲得 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第13回	言語と思考 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）	
	第14回	情報処理メカニズムとしての注意 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間）	

	間) 第15回 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 日常における学習、認知の活動 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 定期試験
テキスト	テキストは使用せず、適宜プリントを配布する
参考書・参考資料等	山内光哉、春木豊 編著：グラフィック学習心理学—行動と認知、サイエンス社、2001年 深田博己（監修）、宮谷真人、中条和光（編著）：認知・学習心理学、ミネルヴァ書房、2012年
学生に対する評価	筆記試験80%、講義中に指示する課題20%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月曜日、水曜日の午後 研究棟2階教員室
備考	小中学校でのスクールカウンセラー実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	【必修】言語
担当教員			
青井 利哉			
講義		020608L3S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	心理学研究における研究方法、データの収集方法および分析方法を理解する。
授業の概要	心という、直接に観察・測定することはおそらく不可能なものを、私たちはどのようにして観察・測定するのか。その観察・測定の方法を具体的に学習する。心理測定法の論理を理解し、私たちの知覚、認知、動機、感情、欲求、価値、性格など、心のさまざまな側面を測定するために開発されてきた実際の測定方法を体験し、自らが分析し、考察することによって、心理測定法の実際に触れる。さらに、基本的な実験計画方法についても理解を深める。
授業計画	<p>第1回 心理学における測定の意義、心理測定法の概要①（観察法、面接法） 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）</p> <p>第2回 心理測定法の概要②（実験法、質問紙法） 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）</p> <p>第3回 精神物理学的測定法①（調整法、極限法、恒常法） 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）</p> <p>第4回 精神物理学的測定法②（刺激閾、弁別閾、主観的等価値） 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）</p> <p>第5回 データの信頼性と妥当性 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）</p> <p>第6回 データの分析方法（記述統計、相関、差の検定） 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）</p> <p>第7回 SD法（意味差判別法）による評価 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間）</p> <p>第8回 性格の測定の実習と分析、考察、心理測定に関する留意事項、倫理的配慮 事前学習：前回の授業の最後に紹介した用語について、参考書などで意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べた用語を、授業で理解したことも含めまとめる。（2時間） 定期試験</p>
テキスト	指定しない。適宜プリントを配布する。
参考書・参考資料等	心理学実験指導研究会 編：実験とテスト＝心理学の基礎 実習編、培風館、2004年
学生に対する評価	筆記試験80%、講義中に指示する課題20%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月曜日、水曜日の午後 研究棟2階教員室
備考	小中学校でのスクールカウンセラー実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	【必修】言語
担当教員			
西尾 桂子・高橋 宣弘			
講義		020609L1S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	言語学の基本的な概念を説明できる。日本語の特色、日本語のシンタックス、語彙、表記法（かな、カタカナ、漢字）などの規則と特徴を理解し、言語レベルの障がいの検査・評価・訓練に応用できる。
授業の概要	（西尾 桂子／全8回） 言語学の歴史および基礎知識について学ぶ。また、言語学の主要な概念（音韻論、意味論、語用論などを中心）や用語について理解し、言語発達や音韻の障がいとの関連性を理解する。 （高橋 宣弘／全7回） 言語学の主要な概念（形態論、統語論、文字論を中心）や用語について理解し、失語症等言語レベルの障がいとの関連性を理解する。
授業計画	<p>第1回 言語学の歴史 （担当：西尾 桂子） 事前学習（2時間）：1年前期に学習した「音声学」を復習する 事後学習（2時間）：授業時に配布した配布資料の整理とプリントをまとめる</p> <p>第2回 言語学の基礎と機能 （担当：西尾 桂子） 事前学習（2時間）：前回の授業資料を確認し、理解が曖昧な点は再学習する。 事後学習（2時間）：授業時に配布した配布資料の整理とプリントをまとめる</p> <p>第3回 言語学の研究分野（音韻論） （担当：西尾 桂子） 事前学習（2時間）：前回の授業資料を確認し、理解が曖昧な点は再学習する。 事後学習（2時間）：授業時に配布した配布資料の整理とプリントをまとめる</p> <p>第4回 言語学の研究分野（音韻論） （担当：西尾 桂子） 事前学習（2時間）：前回の授業資料を確認し、理解が曖昧な点は再学習する。 事後学習（2時間）：授業時に配布した配布資料の整理とプリントをまとめる</p> <p>第5回 言語学の研究分野（意味論） （担当：西尾 桂子） 事前学習（2時間）：前回の授業資料を確認し、理解が曖昧な点は再学習する。 事後学習（2時間）：授業時に配布した配布資料の整理とプリントをまとめる</p> <p>第6回 言語学の研究分野（意味論） （担当：西尾 桂子） 事前学習（2時間）：前回の授業資料を確認し、理解が曖昧な点は再学習する。 事後学習（2時間）：授業時に配布した配布資料の整理とプリントをまとめる</p> <p>第7回 言語学の研究分野（語用論、認知言語学） （担当：西尾 桂子） 事前学習（2時間）：前回の授業資料を確認し、理解が曖昧な点は再学習する。 事後学習（2時間）：授業時に配布した配布資料の整理とプリントをまとめる</p> <p>第8回 言語学の研究分野（語用論、認知言語学） （担当：西尾 桂子） 事前学習（2時間）：前回の授業資料を確認し、理解が曖昧な点は再学習する。 事後学習（2時間）：授業時に配布した配布資料の整理とプリントをまとめる</p> <p>第9回 言語学の研究分野（形態論） （担当：高橋 宣弘） 事前学習（2時間）：前回の授業資料を確認し、理解が曖昧な点は再学習する。 事後学習（2時間）：授業時に配布した配布資料の整理とプリントをまとめる</p> <p>第10回 言語学の研究分野（形態論） （担当：高橋 宣弘） 事前学習（2時間）：前回の授業資料を確認し、理解が曖昧な点は再学習する。 事後学習（2時間）：授業時に配布した配布資料の整理とプリントをまとめる</p> <p>第11回 言語学の研究分野（統語論） （担当：高橋 宣弘） 事前学習（2時間）：前回の授業資料を確認し、理解が曖昧な点は再学習する。 事後学習（2時間）：授業時に配布した配布資料の整理とプリントをまとめる</p> <p>第12回 言語学の研究分野（統語論） （担当：高橋 宣弘） 事前学習（2時間）：前回の授業資料を確認し、理解が曖昧な点は再学習する。 事後学習（2時間）：授業時に配布した配布資料の整理とプリントをまとめる</p> <p>第13回 言語学の研究分野（文字論） （担当：高橋 宣弘） 事前学習（2時間）：前回の授業資料を確認し、理解が曖昧な点は再学習する。 事後学習（2時間）：授業時に配布した配布資料の整理とプリントをまとめる</p> <p>第14回 言語理論と言語聴覚療法（成人）</p>

	<p>(担当：高橋 宣弘) 事前学習 (2時間)：前回の授業資料を確認し、理解が曖昧な点は再学習する。 事後学習 (2時間)：授業時に配布した配布資料の整理とプリントをまとめる 国試過去問解説 (担当：高橋 宣弘) 事前学習 (2時間)：前回の授業資料を確認し、理解が曖昧な点は再学習する。 事後学習 (2時間)：授業時に配布した配布資料の整理とプリントをまとめる 定期試験</p>
テキスト	配布資料
参考書・参考資料等	・岩田一成、岩崎淳也：言語聴覚療法学テキスト 言語学・言語発達学，メディカルビュー，2022
学生に対する評価	筆記試験100%（西尾担当50%、高橋担当分50%）とする。筆記試験は100点満点換算で60点以上を合格とする。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	<p>(西尾) 月曜～金曜の9：00～17：00まで随時受け付けます。 E-mail：keinishio@fukui-hsu.ac.jp (高橋) 月曜～金曜の9：00～17：00まで随時受け付けます。 E-mail：takahashi@fukui-hsu.ac.jp</p>
備考	<p>[実務経験について] ・リハビリテーション関連病院および大学・大学院で言語聴覚障害に対する症例研究および基礎研究等の実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【必修】言語
担当教員			
新谷 純			
講義		020610LIS	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	音声の産生の仕方について理解する。検査や訓練手技に繋がる実用的なレベルでの理解が必要である。発声発語器官が説明でき、子音と母音の違いが説明できる。国際音声記号にそって代表的な構音点、構音方法が説明できる。プロソディとは何か説明できる。言語障害の記述でなぜ国際音声記号を用いるか説明できる
授業の概要	言語障害の中の運動系の障害に共通する基礎知識として、発声発語・摂食嚥下の器官の解剖・構造ならびに、機能については総合的に学ぶ。音声の産生の仕方および音声の記述の仕方を、国際音声字母を通じて理解する。さらに、プロソディについて学び、摂食・嚥下との関連性を学び、音声と摂食・嚥下の発達について理解する。
授業計画	<p>第1回 音を記述する体験。音声とは。調音とは。音声と言語療法の学問史。 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第2回 発声発語器官の描画。発声発語器官を理解する。空気の流れの説明。 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第3回 発話障害の体験、音声記号での記述と、その他の方法での記述の違い。 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第4回 日本語の母音の産生にかかわる発語器官の様態。母音の三角形の観察と記述。 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第5回 発声発語器官と機能：呼吸器と喉頭。軟口蓋。舌。顎。口唇。 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第6回 2重分節と音素、有声、無声、鼻音：母音と子音の違い。 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第7回 子音の構音点、構音方法、有声無声の観察記述。有声、無声、鼻音の産生の仕方解説。 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第8回 閉鎖音・摩擦音：閉鎖音・摩擦音とは何か、その産生の仕方。 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第9回 母音：母音の三角形にそって、上下、前後の関係を知る。 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第10回 国際音声字母。構音検査と調音音声学の関連性を理解する。音声学と音韻論。 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第11回 音声記号と、他の記号での記述の違い。プロソディ定義と範囲。 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第12回 プロソディの機能、分析。日本語のプロソディ。プロソディの記述。 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第13回 音韻の獲得とその順序。 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第14回 摂食・嚥下運動と構音運動。 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第15回 摂食・嚥下の獲得。まとめ。 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う 定期試験</p>
テキスト	竹内 京子, 稲田 朋晃: Crosslink 言語聴覚療法学テキスト 音響・音声学, メジカルビュー社, 2023
参考書・参考資料等	

学生に対する評価	筆記試験（100％）で評価するが、聴講票の未提出（欠席時は除く）があれば、不合格とする場合がある。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	研究室在室時は随時対応します。
備考	新谷：急性期・回復期のリハビリテーション関連病院で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【必修】言語
担当教員			
塩見 格一			
講義		020611LIS	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	音響学においては、人間のコミュニケーションの基本である音声の物理的側面に係る基礎的知識を獲得し、また音響学的特性等に係る音声分析手法を身に付け、言語聴覚障害等の科学的な分析に要する能力を育成する。
授業の概要	コミュニケーションの基本となるものは音声であり、音声はコミュニケーションが成立するための重要な要素の一つとなっている。言語聴覚障害の科学的な分析能力を養う上で、音声を持つ物理的特性や音響分析の基礎的知識、種々の音声の音響学的特性や音声分析の方法を学ぶ。 また、音声情報を処理する聴覚機構は脳機能の一つであるが、音声の物理的な変化とは必ずしも対応しない心理的側面を持つ。音の物理的変化に伴う聴覚心理的な変化との対応や聴覚機能のメカニズム、両耳の意義などを学習する。
授業計画	<p>第1回 音声の物理的側面に係る基本的な性質と物理量 事前学習：音波の性質に係る以下のキーワードについてテキストや参考者、またインターネット等を利用して調べてノート等にまとめる。 ・なおノートへの記述においては、言葉だけでまとめるのではなく、図や表としても記述して分かり易くまとめることとする。(2時間) キーワード：音、数直線、単位円、三角関数、正弦波、波長、周期、周波数、純音、周期音、非周期音、複合音、雑音 事後学習：講義で説明した内容を確認して、ノートに追加して、個々人のオリジナルな学習資料を作成する。(2時間)</p> <p>第2回 共鳴や倍音、反射や屈折、等々の音声の音響的側面に係る現象 事前学習：以下のキーワードについて調べてノート等にまとめる。(2時間) キーワード：SI 単位系、音の伝播、音速、横波、縦波、疎密波、圧力波、音の反射、屈折、回折、進行波、定在波、共鳴 ・疎密波についてはその性質をよく考えて、模式図の描き方を検討して、幾つかのモデルを描いてみる。 事後学習：講義で説明した内容を確認して、ノートに追加して、個々人のオリジナルな学習資料を作成する。(2時間)</p> <p>第3回 音圧の概念の理解(音の強さ、音の大きさ、音圧レベル)と音の強さに対する感覚とデシベル 事前学習：以下のキーワードについて調べてノート等にまとめる。(2時間) キーワード：線形と非線形、対数、音の大きさ、音の強さ、音のインデンシティ・レベル、音圧レベル 事後学習：講義で説明した内容を確認して、ノートに追加して、個々人のオリジナルな学習資料を作成する。(2時間)</p> <p>第4回 音声分析の手法(フーリエ変換、他)と分析結果の視覚化(スペクトル分析、スペクトログラム) 事前学習：以下のキーワードについて調べてノート等にまとめる。(2時間) キーワード：フーリエ級数、フーリエ変換、パワースペクトラム、サウンドスペクトログラム、声紋 ・音声分析アプリケーション Praat を個々人のパソコンにインストールして、音声波形を観測する。 事後学習：講義で説明した内容を確認して、ノートに追加して、個々人のオリジナルな学習資料を作成する。(2時間)</p> <p>第5回 アナログ信号のデジタル化と様々なデジタル音声信号処理 事前学習：以下のキーワードについて調べてノート等にまとめる。(2時間) キーワード：標本化、量子化、アナログ・デジタル変換、ハリー・ナイキスト(人名)、ナイキスト周波数 事後学習：講義で説明した内容を確認して、ノートに追加して、個々人のオリジナルな学習資料を作成する。(2時間)</p> <p>第6回 音声生成過程に係る生体器官と音声の特徴付ける物理量(ピッチ、フォルマント、等々) 事前学習：以下のキーワードについて調べてノート等にまとめる。(2時間) キーワード：ピッチ周波数、フォルマント周波数帯域、ソース(音源)フィルター理論 ・Praat を利用して一般的な日本語発話におけるピッチやフォルマントを観察する。 事後学習：講義で説明した内容を確認して、ノートに追加して、個々人のオリジナルな学習資料を作成する。(2時間)</p> <p>第7回 母音の音響的な特徴と特徴量 事前学習：以下のキーワードについて調べてノート等にまとめる。(2時間) キーワード：第1フォルマント、第2フォルマント、日本語母音 ・Praat を利用して日本語5母音のサウンドスペクトログラムを観察する。 事後学習：講義で説明した内容を確認して、ノートに追加して、個々人のオリジナルな学習資料を作成する。(2時間)</p> <p>第8回 破裂音・摩擦音の音響特徴 事前学習：以下のキーワードについて調べてノート等にまとめる。(2時間) キーワード：破裂音、摩擦音、IPA(国際音声記号)、広帯域サウンドスペクトログラム、狭帯域サウンドスペクトログラム ・Praat を利用して破裂音、摩擦音のサウンドスペクトログラムを観察する。 事後学習：講義で説明した内容を確認して、ノートに追加して、個々人のオリジナルな学習資料を作成する。(2時間)</p>

	<p>を作成する。(2時間)</p> <p>第9回 破擦音, 鼻音の音響特徴, 韻律的特徴 (アクセント, イントネーション, リズム) 事前学習: 以下のキーワードについて調べてノート等にまとめる。(2時間) キーワード: 破擦音, 鼻音, 鼻音フォルマント, アンチ・フォルマント, 放射特性・Praat を利用して一般的な日本語発話のアクセントやイントネーションを観察する。 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, ノートに追加して, 個々人のオリジナルな学習資料を作成する。(2時間)</p> <p>第10回 聴覚機構の構造と機能, 方向知覚 事前学習: 以下のキーワードについて調べてノート等にまとめる。(2時間) キーワード: 聴覚機構, 内耳機能, 方向知覚, ゲオルグ・ベケシー (人名), 場所ピッチ, 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, ノートに追加して, 個々人のオリジナルな学習資料を作成する。(2時間)</p> <p>第11回 聴覚の情報処理, 聴覚閾値, 可聴範囲 事前学習: 以下のキーワードについて調べてノート等にまとめる。(2時間) キーワード: ウィーヴァーとブレイ (人名), 時間ピッチ, 斉射説 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, ノートに追加して, 個々人のオリジナルな学習資料を作成する。(2時間)</p> <p>第12回 音の大きさと高さ 事前学習: 以下のキーワードについて調べてノート等にまとめる。(2時間) キーワード: フェヒナーの法則, ステューブンスの法則, メル尺度, ソーン尺度 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, ノートに追加して, 個々人のオリジナルな学習資料を作成する。(2時間)</p> <p>第13回 時間的パタンの知覚, 閾値, 刺激閾, 弁別閾と比弁別, ウェーバーの法則, 閾下知覚 事前学習: 以下のキーワードについて調べてノート等にまとめる。(2時間) キーワード: ウェーバーの法則, 聴覚閾値, 両耳聴, 両耳聴加算効果, バーチャルピッチ 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, ノートに追加して, 個々人のオリジナルな学習資料を作成する。(2時間)</p> <p>第14回 同時・継時・両耳間マスキング, 周波数マスキング, 時間マスキング, 閾臨界帯域, 聴覚フィルタ 事前学習: 以下のキーワードについて調べてノート等にまとめる。(2時間) キーワード: マスカーとマスキャー, 白色雑音, 帯域雑音, マスキング・オーディオグラム, 非同時マスキング 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, ノートに追加して, 個々人のオリジナルな学習資料を作成する。(2時間)</p> <p>第15回 両耳による音の知覚, 生活環境と聴覚, 障害音声の聴覚印象評価 事前学習: 以下のキーワードについて調べてノート等にまとめる。(2時間) キーワード: ドップラー効果, 頭の陰影効果, カクテルパーティー効果, ハース効果, 事後学習: 講義で説明した内容を確認して, ノートに追加して, 個々人のオリジナルな学習資料を作成する。(2時間) 定期試験</p>
テキスト	吉田友敬著: 言語聴覚士の音響学入門 2訂版. 海文堂, 2020.
参考書・参考資料等	今泉敏著: 言語聴覚士のための音響学. 医歯薬出版, 2007. 日本音声言語医学会編: 第2版 声の検査法 基礎編/臨床編, 医歯薬出版, 1994.
学生に対する評価	定期試験 (筆記試験100%)
課題 (試験やレポート等) に対応するフィードバックの方法	9時から18時, 講義終了後にも適宜対応する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【必修】言語
担当教員			
西尾 桂子・村田 里佳・熊下 由加			
講義		020612L1S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・各言語期の発達の特徴が説明できる。 ・言語獲得を説明する理論について、大まかに述べる事が出来る。
授業の概要	<p>(西尾 桂子、熊下 由加／全5回) 子供たちは、誕生後数年のうちに、基本的な言語能力のほとんどを身につけてしまう。なぜ子供たちは言語を獲得できるのか、どのように獲得していくのか、言語発達の道筋について理解する。まず「聞く」「話す」しくみと働き、ことばの生物学的基礎を学習する。さらに、前言語期、語彙獲得期、前期構文獲得期、中期構文獲得期の言語発達を概観する。また、言語発達に及ぼす環境の影響について理解する。</p> <p>(村田 里佳／全3回) 学童期の言語発達を概観する。また、人間に特有の言語獲得の背景にどのようなメカニズムがあるのか、それを説明する理論を学ぶ。</p>
授業計画	<p>第1回 音声言語の普遍的特徴とスピーチチェーン (担当：西尾・熊下) 事前学習 (30分)：言語の普遍的特徴とスピーチチェーンについて復習する 事後学習 (1時間)：授業後に授業のまとめを作成し、講師に提出する</p> <p>第2回 前言語期の発達：コミュニケーション行動の発達、発声行動・言語音知覚の発達、感覚運動的知能の発達 (担当：西尾・熊下) 事前学習 (30分)：講義前に指定されたキーワードについて、配布資料やテキストを参考に復習する 事後学習 (1時間)：授業後に授業のまとめを作成し、講師に提出する</p> <p>第3回 1～2歳の言語発達：初語の出現・語彙の増加、言語発達を促す大人の関わり、構文の発達 (担当：西尾・熊下) 事前学習 (30分)：講義前に指定されたキーワードについて、配布資料やテキストを参考に復習する 事後学習 (1時間)：授業後に授業のまとめを作成し、講師に提出する</p> <p>第4回 1～2歳の言語発達：象徴機能の発達 幼児期の言語発達：語彙・構文の発達 (担当：西尾・熊下) 事前学習 (30分)：講義前に指定されたキーワードについて、配布資料やテキストを参考に復習する 事後学習 (1時間)：授業後に授業のまとめを作成し、講師に提出する</p> <p>第5回 幼児期の言語発達：談話能力の発達、音韻意識の発達 (担当：西尾・熊下) 事前学習 (30分)：講義前に指定されたキーワードについて、配布資料やテキストを参考に復習する 事後学習 (1時間)：授業後に授業のまとめを作成し、講師に提出する</p> <p>第6回 児童期の言語発達：読み書き能力の発達、読解・作文の発達、比喩・皮肉の発達 (担当：村田) 事前学習 (30分)：講義前に指定されたキーワードについて、配布資料やテキストを参考に復習する 事後学習 (1時間)：授業後に授業のまとめを作成し、講師に提出する</p> <p>第7回 言語発達を説明する理論：学習説・生得説・認知説・社会・相互交渉説 (担当：村田) 事前学習 (30分)：講義前に指定されたキーワードについて、配布資料やテキストを参考に復習する 事後学習 (1時間)：授業後に授業のまとめを作成し、講師に提出する</p> <p>第8回 環境とことば (担当：村田) 事前学習 (30分)：講義前に指定されたキーワードについて、配布資料やテキストを参考に復習する 事後学習 (1時間)：授業後に授業のまとめを作成し、講師に提出する 定期試験</p>
テキスト	岩田一成・岩崎淳也 編集：言語聴覚療法テキスト「言語学・言語発達学」、メジカルビュー社、2022出版
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・廣瀬肇監修：言語聴覚士テキスト第3版、医歯薬出版、2018出版 ・玉井ふみ・深浦順一(編)：言語発達障害学第3版、医学書院、2021出版
学生に対する評価	筆記試験で評価し、100点満点で60点以上を合格とする
課題(試験やレポート等)に対応するフィードバックの方法	<p>(西尾) 月曜～金曜の先行表示が「在室」になっているとき、随時受け付けます。 E-mail：keinishio@fukui-hsu.ac.jp</p> <p>(村田) 月曜～金曜の先行表示が「在室」になっているとき、随時受け付けます。 E-mail：murata-r@fukui-hsu.ac.jp</p>

備考	[実務経験について] ・リハビリテーション関連病院および大学・大学院で言語聴覚障害に対する症例研究等の実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。
----	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【必修】言語
担当教員			
村田 里佳・西尾 桂子			
演習		093602S1S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	子どもは日々発達し変化している。そのため子どもの発達段階を理解し、言語領域の発達と関連づけて考えることが必要になってくる。そこで発達検査と、言語発達を支える認知機能を評価する知能検査の概要を理解する
授業の概要	1. 発達段階についてそって発達検査の種類、特徴を理解する。 2. 代表的な発達検査・知能検査の概要・構成を理解し、検査が実際に行えるようになる。 3. 検査結果から発達全体と言語領域の発達を関連づけて考察できるようになる。 担当教員全員で実施する。
授業計画	<p>第1回 発達検査の概要 事前学習(30分)：検査に必要な物品を準備する 事後学習(30分)：授業のノートのまとめと配布資料を整理する</p> <p>第2回 発達検査演習：遠城寺、津守式、KIDS 事前学習(30分)：検査に必要な物品を準備する 事後学習(30分)：授業のノートのまとめと配布資料を整理する</p> <p>第3回 発達検査演習：新版K式 事前学習(30分)：配布資料を確認し、疑問点を整理する 事後学習(30分)：授業のノートのまとめと配布資料を整理する</p> <p>第4回 発達検査演習：新版K式 事前学習(30分)：配布資料を確認し、疑問点を整理する 事後学習(30分)：授業のノートのまとめと、検査の手順を復習する</p> <p>第5回 発達検査演習：新版K式 事前学習(30分)：前回までの検査手順を復習する 事後学習(30分)：授業のノートのまとめと、検査の手順を復習する</p> <p>第6回 発達検査演習：新版K式 事前学習(30分)：前回までの検査手順を復習する 事後学習(30分)：授業のノートのまとめと、検査の手順を復習する</p> <p>第7回 発達検査演習：新版K式 事前学習(30分)：前回までの検査手順を復習する 事後学習(30分)：授業のノートのまとめと、検査の手順を復習する</p> <p>第8回 OSCE(新版K式) 事前・事後学習：検査マニュアルや配布資料をもとに技術練習をする</p> <p>第9回 知能検査演習：田中ビネーV 事前学習(30分)：検査に必要な物品を準備する 事後学習(30分)：授業のノートのまとめと、検査の手順を復習する</p> <p>第10回 知能検査演習：田中ビネーV 事前学習(30分)：前回までの検査手順を復習する 事後学習(30分)：授業のノートのまとめと、検査の手順を復習する</p> <p>第11回 知能検査演習：田中ビネーV 事前学習(30分)：前回までの検査手順を復習する 事後学習(30分)：授業のノートのまとめと、検査の手順を復習する</p> <p>第12回 知能検査演習：田中ビネーV 事前学習(30分)：前回までの検査手順を復習する 事後学習(30分)：授業のノートのまとめと、検査の手順を復習する</p> <p>第13回 知能検査演習：田中ビネーV 事前学習(30分)：前回までの検査手順を復習する 事後学習(30分)：検査結果をまとめ講師に提出し指導を受ける</p> <p>第14回 知能検査演習：DAMグッドイナフ人物画知能検査 事前学習(30分)：検査に必要な物品を準備する 事後学習(30分)：授業のノートのまとめと配布資料を整理する</p> <p>第15回 OSCE(田中ビネーV) 事前・事後学習：検査マニュアルや配布資料をもとに技術練習をする 定期試験</p>
テキスト	配布資料
参考書・参考資料等	なし

学生に対する評価	実技試験（50％）と筆記試験（50％）で評価する。各試験の60％以上を満たさない場合は不合格とする。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	（西尾）月曜～金曜で先行表示が「在室」となっているとき、随時受け付けます。 E-mail：keinishio@fukui-hsu.ac.jp （村田）月曜～金曜の先行表示が「在室」となっているとき、随時受け付けます。 E-mail：murata-r@fukui-hsu.ac.jp
備考	<p>〔実務経験について〕 小児施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。</p> <p>【準備物】 この演習ではストップウォッチ（消音機能あり）を使用するので各自準備してください。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【必修】言語
担当教員			
岡本 一宏・村田 里佳			
演習		093603S1S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	言語聴覚療法の臨床場面では、知能検査や心理検査が、症状分析の際の一役を担っている。そのため知能検査および心理検査の概要・構成を理解し、検査の実施と採点法の演習を行う。
授業の概要	知能は学習する能力、学習によって獲得された知識および技能を新しい場面で利用する能力であり、このような能力を測定するものに知能検査がある。また、性格に関する側面を把握する評価として人格検査がある。知能や人格の評価は臨床場面でも症状分析の一つとして実施されている。よって授業では知能検査および心理検査の概要・構成を理解し、検査の実施と採点法について演習する。 オムニバス形式で実施する。
授業計画	<p>第1回 知能検査の概要 事前学習：検査マニュアルの該当範囲を熟読し、手続きなどについて予習しておく。(0.5時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(0.5時間)</p> <p>第2回 検査演習：WAIS-IV 事前学習：検査マニュアルの該当範囲を熟読し、手続きなどについて予習しておく。(0.5時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(0.5時間)</p> <p>第3回 検査演習：WAIS-IV 事前学習：検査マニュアルの該当範囲を熟読し、手続きなどについて予習しておく。(0.5時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(0.5時間)</p> <p>第4回 検査演習：WAIS-IV 事前学習：検査マニュアルの該当範囲を熟読し、手続きなどについて予習しておく。(0.5時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(0.5時間)</p> <p>第5回 検査演習：WAIS-IV 事前学習：検査マニュアルの該当範囲を熟読し、手続きなどについて予習しておく。(0.5時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(0.5時間)</p> <p>第6回 検査演習：WAIS-IV 事前学習：検査マニュアルの該当範囲を熟読し、手続きなどについて予習しておく。(0.5時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(0.5時間)</p> <p>第7回 検査演習：WAIS-IV 事前学習：検査マニュアルの該当範囲を熟読し、手続きなどについて予習しておく。(0.5時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(0.5時間)</p> <p>第8回 検査演習：WAIS-IV 事前学習：検査マニュアルの該当範囲を熟読し、手続きなどについて予習しておく。(0.5時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(0.5時間)</p> <p>第9回 検査結果の採点 事前学習：検査マニュアルの該当範囲を熟読し、手続きなどについて予習しておく。(0.5時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(0.5時間)</p> <p>第10回 検査のまとめと解釈 事前学習：検査マニュアルの該当範囲を熟読し、手続きなどについて予習しておく。(0.5時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(0.5時間)</p> <p>第11回 心理検査の概要・検査演習：エゴグラム 事前学習：検査マニュアルの該当範囲を熟読し、手続きなどについて予習しておく。(0.5時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(0.5時間)</p> <p>第12回 検査演習：MMPI 事前学習：検査マニュアルの該当範囲を熟読し、手続きなどについて予習しておく。(0.5時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(0.5時間)</p> <p>第13回 検査演習：P-Fスタディ 事前学習：検査マニュアルの該当範囲を熟読し、手続きなどについて予習しておく。(0.5時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(0.5時間)</p> <p>第14回 検査演習：内田クレペリン検査 事前学習：検査マニュアルの該当範囲を熟読し、手続きなどについて予習しておく。(0.5時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(0.5時間)</p> <p>第15回 心理検査のまとめ 事前学習：検査マニュアルの該当範囲を熟読し、手続きなどについて予習しておく。(0.5時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(0.5時間)</p>
テキスト	1. E. O. リヒテンバーク他著／上野一彦訳：エッセンシャルズWAIS-IVによる心理アセスメント，日本文化科学社，2022 2. 山田弘幸 編著：言語聴覚士のための心理学第2版，医歯薬出版，2020
参考書・参考資料等	なし
学生に対する評価	知能検査の実技試験及びレポート（65％）と心理検査のレポート試験（35％）のそれぞれで60％以上且つ、総

	合で60%以上を合格とする。なお、実技試験またはレポート試験のどちらかの未受験・未提出があれば、不合格とする。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	岡本・村田：月～金曜日の9:00～17:00の研究室在室時に随時受け付ける。
備考	<p>講義ではストップウォッチ（操作音が消せるもの）を使用するので、各自準備すること（スマートフォン不可）。</p> <p>〔事前学習・事後学習について〕 授業配布資料とテキストの該当頁で成人の知能検査や心理検査の特徴、実施方法、解釈について復習する。</p> <p>〔実務経験について〕 リハビリテーション関連病院・施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	【選択】言語
担当教員			
山本 桃花子			
講義		093601L3S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	<p>カウンセリングはクライアントの悩みや困り事を“聴く”ことを基本とする。この“聴く”の言葉には、カウンセラーの積極的なかわりが含まれている。積極的にクライアントの語りに耳を傾けるために必要なカウンセリングの基本的な考え方や言語技法を伝授する。また、他者と自分の考え方の違いを体験することやロールプレイを通してカウンセリングの技術を深めることも行っていく。</p>
授業の概要	<p>カウンセリングとは、主に言語的なやりとりを用いた援助方法である。カウンセラーは悩みや困り事を抱えたクライアント（来談者）を言語的なやりとりを通じて理解し、社会適応や人格的な成長を援助する。そこで、この授業ではカウンセリングの概要や基本的な言語技法を学習しながら、実際にロールプレイやグループワークを通してカウンセリングの技術を身につけることを目標とする。</p>
授業計画	<p>第 1 回 カウンセリングの概要について理解できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第 2 回 カウンセリングの基本的な考え方について理解できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第 3 回 カウンセリングの基本的な言語技法について理解できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第 4 回 自分と他人の価値観の違いについて理解できる。（グループワーク） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第 5 回 カウンセリングの基本的な言語技法を応用できる①（ロールプレイ） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第 6 回 カウンセリングの基本的な言語技法を応用できる②（ロールプレイ） 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第 7 回 頻繁に使用しない方がよいカウンセラーの応答について理解できる。 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間）</p> <p>第 8 回 カウンセリングの基本的な言語技法のまとめ 事前学習：配布資料に目を通し、学習テーマの概略をつかんでおく（2時間） 事後学習：配布資料を通して授業内容を理解するとともに、授業中行った問題の復習を行う（2時間） 定期試験</p>
テキスト	既定のテキストは用意しません。授業中にプリントを配布します。
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	筆記試験40～50% 講義中に課すレポート50～60% (レポートの回数によって、評価の%はかわります。)
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	基本的には、講義の始まる前（10分間）および終わった後（10分間）ですが、事前に申し出があった場合は、別に時間を取ることも可能です。
備考	【実務経験について】 病院や学校、その他福祉機関での勤務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	【必修】言語
担当教員			
保屋野 健悟・西尾 桂子			
講義		05301L1S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	言語聴覚障害の特徴を理解し説明できる。言語聴覚士の職業特性や社会的役割を理解し説明できる。
授業の概要	言語聴覚障害の特徴を理解した上で、機能的な問題に加え、日常活動の制限や社会参加の制約をもたらすことを学ぶ。言語聴覚障害に対する言語聴覚士の役割を学ぶ。また、これらの学習を通して言語聴覚士に求められる資質、責任を学ぶ。チーム医療の基礎能力を身につけることを目的に、グループ学習を通して他者と協同することの重要性を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 言語聴覚士の役割と責任 担当：保屋野 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第2回 言語とコミュニケーション 担当：保屋野 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第3回 言語聴覚障害の種類 担当：保屋野 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第4回 言語聴覚療法の流れ 担当：保屋野 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第5回 病期ごとの言語聴覚療法 担当：保屋野 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第6回 言語聴覚療法とICF（生活機能分類） 担当：保屋野 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第7回 言語聴覚士の職業倫理・言語聴覚療法に関連する法律 担当：西尾 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第8回 言語聴覚療法の実際（失語症・高次脳機能障害） 担当：保屋野 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第9回 言語聴覚療法の実際（摂食嚥下障害） 担当：保屋野 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第10回 言語聴覚療法の実際（言語発達障害） 担当：西尾 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第11回 言語聴覚療法の実際（構音障害） 担当：西尾 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第12回 言語聴覚療法の実際（聴覚障害） 担当：西尾 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第13回 グループワークの進め方・レポートの書き方 担当：西尾 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料を参考に、グループワークで重要なこと、レポートの書き方のポイントを整理する</p> <p>第14回 グループ発表 担当：西尾</p>

	<p>第15回</p> <p>事前学習（2時間）：自分の割り当てられた役割についての準備を行う 事後学習（2時間）：グループ内で発表で出た課題について整理する グループ発表 担当：西尾 事前学習（2時間）：自分の割り当てられた役割についての準備を行う 事後学習（2時間）：グループ内で発表で出た課題について整理する 定期試験</p>
テキスト	藤田郁代・北義子・阿部晶子編集：標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論 第2版，医学書院，2019年
参考書・参考資料等	倉内紀子編集：言語聴覚療法シリーズ1 改定言語聴覚障害総論 I，建帛社，2013年
学生に対する評価	成績は発表（30%）、筆記試験（70%）を合算したもので評価を行う。ただし、発表、筆記試験それぞれで6割を満たさない場合は、不合格となる。欠席以外の理由での聴講票未提出の場合は試験を受けられないことがある。発表への参加不良の場合は、他の成績に関わらず不合格とすることができる。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	保屋野・西尾：月～金曜日の9：00～17：00まで随時受け付ける。
備考	<p>[実務経験について]</p> <p>・急性期・回復期・生活期など様々なリハビリテーション関連病院・施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	【必修】言語
担当教員			
保屋野 健悟・西尾 桂子・新谷 純・高橋 宣弘・村田 里佳・岡本 一宏			
演習		053002S2S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	言語聴覚障害に対する評価の流れを理解できる。各言語聴覚障害の評価の留意点、特徴が理解できる。評価がその後の治療や日常生活に關与していることが理解できる。
授業の概要	言語聴覚障害概論を踏まえ、言語障害の種類その原因疾患、障害の発現メカニズムを理解し、障害の特徴及び診断法を学ぶ。評価結果を解釈し、機能的な側面に加え、対象者の日常生活に与える影響を考察する過程を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 言語聴覚障害の評価・診断の基本概念、評価技法と臨床データの解釈 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理を行う</p> <p>第2回 言語聴覚障害の評価・診断の基本概念、評価技法と臨床データの解釈 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理を行う</p> <p>第3回 基本情報の解釈 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理を行う</p> <p>第4回 言語聴覚療法の評価・診断に用いる検査と流れ (スクリーニング) 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理を行う</p> <p>第5回 スクリーニング検査の結果の解釈 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理を行う</p> <p>第6回 言語聴覚障害の評価・診断に用いる検査と流れ (言語・認知系 成人) 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理を行う</p> <p>第7回 失語症・高次脳機能障害の検査結果の解釈 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理を行う</p> <p>第8回 言語聴覚障害の評価・診断に用いる検査と流れ (発声発語系) 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理を行う</p> <p>第9回 発声発語障害の検査結果の解釈 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理を行う</p> <p>第10回 言語聴覚障害の評価・診断に用いる検査と流れ (摂食嚥下系) 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理を行う</p> <p>第11回 摂食嚥下障害の検査結果の解釈 事前学習 (30分) : 言語聴覚療法の評価・診断についての復習 事後学習 (30分) : グループワークで必要となったものを調べ、整理する</p> <p>第12回 言語聴覚障害の評価・診断に用いる検査と流れ (聴覚系) 事前学習 (30分) : グループワーク内での自分の役割についての準備 事後学習 (30分) : グループワークで必要となったものを調べ、整理する</p> <p>第13回 聴覚障害の検査結果の解釈 事前学習 (30分) : グループワーク内での自分の役割についての準備 事後学習 (30分) : グループワークで必要となったものを調べ、整理する</p> <p>第14回 言語聴覚障害の評価・診断に用いる検査と流れ (小児系) 事前学習 (30分) : グループワーク内での自分の役割についての準備 事後学習 (30分) : 発表時に出た課題の整理</p> <p>第15回 言語発達障害の検査結果の解釈 事前学習 (30分) : グループワーク内での自分の役割についての準備 事後学習 (30分) : 発表時に出た課題の整理 定期試験</p>
テキスト	深浦順一・植田恵編集：標準言語聴覚障害学 言語聴覚療法評価・診断学，医学書院，2020年 小園真知子監修，荒木謙太郎著：言語障害スクリーニングテストSTAD. インテルナ出版，2018年 白波瀬元道編集：ST評価ポケット手帳第2版. ヒューマンプレス，2023年
参考書・参考資料等	

学生に対する評価	発表（30％）筆記試験（70％）。それぞれについて、100点満点で60点以上をとること。欠席以外の理由で聴講票未提出の場合は、試験を受けられないことがある。発表やその準備などの参加が不良の場合は、筆記試験の結果によらず不合格とすることができる。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	保屋野・西尾・新谷・高橋・村田・岡本：月～金曜日の9：00～17：00まで随時受け付ける。
備考	[実務経験について] ・急性期・回復期・生活期など様々なリハビリテーション関連病院・施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、演習で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	【必修】言語
担当教員			
保屋野 健悟・高橋 宣弘・新谷 純・村田 里佳・岡本 一宏			
演習		093604S2S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	患者様ならびにご家族に対する接遇を理解し、実践できる。 検査や訓練の手順を滞りなく実施できる。
授業の概要	外部施設での臨床評価実習の前段階として、学内および臨床現場において教員立ち会いの下に、実際の症例に対して言語聴覚療法の演習を行う。臨床家として必要な基礎的な能力（身だしなみやことは違いに留意できる、協力下さる症例やそのご家族に配慮できる、検査や訓練の準備を滞りなく行いスムーズに実施できる、等）を身につけることを目的とする。この演習において、これまで学んだ各領域の知識、技能を統合することを学習する。 担当教員全員で実施する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・スクリプトの作成、臨床記録の取り方 事前学習 (0.5時間)：講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間)：授業資料を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第2回 症例呈示 (演習) 事前学習 (0.5時間)：講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間)：授業資料を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第3回 グループワーク 事前学習 (0.5時間)：講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間)：授業資料を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第4回 ケースノート作成・指導 (演習) 事前学習 (0.5時間)：講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間)：授業資料を参考に授業内容と演習の復習を行う</p> <p>第5回 症例呈示 (演習) 事前学習 (0.5時間)：講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間)：授業資料を参考に授業内容と演習の復習を行う</p> <p>第6回 グループワーク 事前学習 (0.5時間)：講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間)：授業資料を参考に授業内容と演習の復習を行う</p> <p>第7回 ケースノート作成・指導 (演習) 事前学習 (0.5時間)：講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間)：授業資料を参考に授業内容と演習の復習を行う</p> <p>第8回 症例呈示 (演習) 事前学習 (0.5時間)：講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間)：授業資料を参考に授業内容と演習の復習を行う</p> <p>第9回 グループワーク 事前学習 (0.5時間)：講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間)：授業資料を参考に授業内容と演習の復習を行う</p> <p>第10回 ケースノート作成・指導 (演習) 事前学習 (0.5時間)：講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間)：授業資料を参考に授業内容と演習の復習を行う</p> <p>第11回 ケースレポート作成・指導 (演習) 事前学習 (0.5時間)：講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間)：授業資料を参考に授業内容と演習の復習を行う</p> <p>第12回 ケースレポート作成・指導 (演習) 事前学習 (0.5時間)：講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間)：授業資料を参考に授業内容と演習の復習を行う</p> <p>第13回 ケースレポート作成・指導 (演習) 事前学習 (0.5時間)：講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間)：授業資料を参考に授業内容と演習の復習を行う</p> <p>第14回 ケースレポート作成・指導 (演習) 事前学習 (0.5時間)：講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間)：授業資料を参考に授業内容と演習の復習を行う</p> <p>第15回 ケースレポート作成・指導 (演習) 事前学習 (0.5時間)：講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間)：授業資料を参考に授業内容と演習の復習を行う 定期試験</p>
テキスト	白波瀬元道編集：ST評価ポケット手帳第2版。ヒューマンプレス、2023年 専門科目の授業で使用したテキスト全般

参考書・参考資料等	なし
学生に対する評価	グループワーク、個別指導、ケースノート、ケースレポートが評価対象となる。評価の詳細は授業内で説明する。60点以上を合格とする。グループワーク・個別指導時の取り組み、態度が不良の場合は、他の成績に関わらず不合格とすることができる。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	保屋野・新谷・高橋・村田・岡本：月曜～金曜の9：00～17：00まで随時受け付ける。
備考	〔実務経験について〕 ・急性期・回復期・生活期など様々なリハビリテーション関連病院・施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、演習で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	【必修】言語
担当教員			
保屋野 健悟・西尾 桂子・新谷 純・高橋 宣弘・村田 里佳・岡本 一宏・塩見 格一・青井 利哉			
講義		053003L3S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	研究にあたり、適切に、資料、文献を検索し、参照できる。研究における倫理について理解し、実践できる。テーマについて、論理的に論文を展開し、構築できる。
授業の概要	言語聴覚障害に関わる今日的課題を設定し、その課題について研究するための方法論について学ぶ。まず、研究とは何かについて整理し、どのような研究方法があるのか、具体例について先行研究を参考に研究方法について検討する。学生は各自が興味を持った文献について、文献抄読・発表・討論を行い、言語聴覚研究の準備を開始する。さらに、研究活動を行う上で研究の公正を守らなければならないことや科学研究を臨床の場で行うためには倫理審査やインフォームド・コンセントといった具体的な手続きが不可欠であるといった研究倫理を理解する。 担当教員全員で実施する。
授業計画	<p>第1回 研究とは・研究を行う理由 (担当：保屋野) 事前学習 (2時間)：興味のある領域やキーワードをもとに情報を収集し、研究テーマを検討する 事後学習 (2時間)：興味のある領域やキーワードをもとに情報を収集し、研究テーマを検討する</p> <p>第2回 研究計画の立案 研究の種類とデザイン (担当：保屋野) 事前学習 (2時間)：興味のある領域やキーワードをもとに情報を収集し、研究テーマを検討する 事後学習 (2時間)：興味のある領域やキーワードをもとに情報を収集し、研究テーマを検討する</p> <p>第3回 研究の種類とデザイン (担当：保屋野) 事前学習 (2時間)：興味のある領域やキーワードをもとに情報を収集し、研究テーマを検討する 事後学習 (2時間)：興味のある領域やキーワードをもとに情報を収集し、研究テーマを検討する</p> <p>第4回 心理実験 (担当：青井) 事前学習 (2時間)：興味のある領域やキーワードをもとに情報を収集し、研究テーマを検討する 事後学習 (2時間)：興味のある領域やキーワードをもとに情報を収集し、研究テーマを検討する</p> <p>第5回 文献検索の方法・文献の種類 研究活動における倫理 (担当：西尾) 事前学習 (2時間)：興味のある領域やキーワードをもとに情報を収集し、研究テーマを検討する 事後学習 (2時間)：興味のある領域やキーワードをもとに情報を収集し、研究テーマを検討する</p> <p>第6回 データの収集・解析 (信頼性, 妥当性, プロトコール, バイアス, 統計解析) (担当：新谷・塩見) 事前学習 (2時間)：興味のある領域やキーワードをもとに情報を収集し、研究テーマを検討する 事後学習 (2時間)：研究テーマを決定し、担当講師に提出する</p> <p>第7回 データの収集・解析 (信頼性, 妥当性, プロトコール, バイアス, 統計解析) (担当：新谷・塩見) 事前学習 (2時間)：研究テーマに関する文献を検索する 事後学習 (2時間)：研究テーマに関する文献を検索する</p> <p>第8回 論文の書き方・研究結果の公表 (担当：高橋) 事前学習 (2時間)：研究テーマに関する文献を検索する 事後学習 (2時間)：ゼミ担当教員の指導の下、研究テーマに関する文献を検索する</p> <p>第9回 文献検索・文献抄読 (担当：村田・岡本) 事前学習 (2時間)：研究テーマに関する文献を検索・抄読し、資料を作成する 事後学習 (2時間)：研究テーマに関する文献を検索・抄読し、資料を作成する</p> <p>第10回 文献検索・文献抄読 第10回以降はゼミ担当教員の指導にそって研究計画を詰めていきます</p> <p>事前学習 (2時間)：研究テーマに関する文献を検索・抄読し、資料を作成する 事後学習 (2時間)：研究テーマに関する文献を検索・抄読し、資料を作成する</p> <p>第11回 文献レビュー発表 事前学習 (2時間)：研究テーマに関する文献を検索・抄読し、資料を作成する 事後学習 (2時間)：研究テーマに関する文献を検索・抄読し、資料を作成する</p> <p>第12回 文献レビュー発表 事前学習 (2時間)：研究テーマに関する文献を検索・抄読し、資料を作成する 事後学習 (2時間)：研究テーマに関する文献を検索・抄読し、資料を作成する</p> <p>第13回 研究計画書の作成 事前学習 (2時間)：研究計画書の草案を作成する 事後学習 (2時間)：研究計画書を推考する</p> <p>第14回 研究計画の中間発表</p>

	<p>第15回</p> <p>事前学習 (2時間) : 発表資料を作成する 事後学習 (2時間) : 研究計画書を推考する 研究計画の中間発表 事前学習 (2時間) : 発表資料を作成する 事後学習 (2時間) : 研究計画書を推考する</p>
テキスト	柳井久江著：4Stepエクセル統計 第5版，オーエムエス出版，2023年
参考書・参考資料等	言語聴覚学専攻の全ての講義資料
学生に対する評価	審査員による研究計画書審査(60点)、およびデザイン発表(40点)により評価する。60点以上を合格とし単位を与える。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	保屋野・西尾・新谷・高橋・岡本・塩見・青井：月～金曜日の9：00～17：00まで随時受け付ける。
備考	<p>[実務経験について]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション関連病院および大学・大学院で言語聴覚障害に関連する研究等の実務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。

講義科目名称： 言語聴覚研究

授業コード： 308400A

英文科目名称： Research of Speech-Language-Hearing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年	3	【必修】言語
担当教員			
保屋野 健悟・西尾 桂子・新谷 純・高橋 宣弘・村田 里佳・岡本 一宏・塩見 格一・青井 利哉			
演習		053004S4S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	自分の関心に基づいて研究テーマを選択できる。テーマにそって研究デザインを作成し、必要な資料収集、調査、文献検索を実施できる。収集したデータを論理的に分析し、適切に表現する。科学における創造性と独創性について理解する。
授業の概要	言語聴覚障害領域および関連領域において発生した諸問題の中から、自らの関心に基づいて研究を行う。言語聴覚療法の対象者の臨床に寄与するテーマを卒業論文中間発表会を経て設定する。担当教員の指導のもと、研究計画を立案し、それに基づき情報収集、調査分析、実験、結果の整理、考察等を行い、卒業論文を作成する。論文作成と同時に卒業論文口頭試問を行う。
授業計画	研究論文を作成する。テーマの選択を重視し、言語聴覚療法対象者の臨床とどのように結びつくかを十分検討する。その上で目的を実現するための研究デザインを作成する。調査、実験、症例報告などそのデザインに沿った方法論を検討し、論文を作成する。
テキスト	柳井久江著：4Stepエクセル統計 第5版，オーエムエス出版，2023年
参考書・参考資料等	言語聴覚学専攻の全ての講義資料
学生に対する評価	審査員による論文審査(60点)、および口頭試問(40点)により評価する。60点以上を合格とし単位を与える。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	保屋野・西尾・新谷・高橋・村田・岡本・塩見・青井：月～金曜日の9：00～17：00まで随時受け付ける。
備考	〔実務経験について〕 ・リハビリテーション関連病院および大学・大学院で言語聴覚障害に対する症例研究および基礎研究等の実務経験を有しており、その経験を踏まえ、演習で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年	2	【選択】言語
担当教員			
保屋野 健悟・西尾 桂子・高橋 宣弘・新谷 純・村田 里佳・岡本 一宏			
講義		093608L4S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	言語聴覚療法の現状を理解し、今後、求められる資質、知識、技術、責任を理解することができる。臨床に従事してからの最新の技術・知識・情報などをインプットし、それらを対象者に還元していく姿勢の大切さを理解する。それらの姿勢が対象者・その家族を支援する上で重要であることを理解する。
授業の概要	言語聴覚療法の現状を理解し、今後臨床で求められる言語聴覚士としての姿勢を学ぶ。対象者またはその家族を中心とした言語聴覚療法を展開できるための姿勢を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 言語聴覚士として働く責任 (担当：保屋野) 事前学習(2時間)：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習(2時間)：聴講票を作成し、講師に提出する。</p> <p>第2回 医療保険での言語聴覚療法 (担当：新谷 純) 事前学習(2時間)：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習(2時間)：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>第3回 介護保険での言語聴覚療法 (担当：新谷 純) 事前学習(2時間)：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習(2時間)：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>第4回 急性期の言語聴覚療法 (担当：岡本 一宏) 事前学習(2時間)：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習(2時間)：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>第5回 回復期の言語聴覚療法 (担当：高橋 宣弘) 事前学習(2時間)：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習(2時間)：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>第6回 維持期・生活期の言語聴覚療法 (担当：西尾 桂子) 事前学習(2時間)：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習(2時間)：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>第7回 EBPに基づく言語聴覚療法 (担当：岡本 一宏) 事前学習(2時間)：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習(2時間)：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>第8回 言語聴覚士の職業倫理 (担当：西尾 桂子) 事前学習(2時間)：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習(2時間)：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>第9回 病院・施設での業務管理 (担当：高橋 宣弘) 事前学習(2時間)：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習(2時間)：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>第10回 多職種連携と地域連携 (担当：保屋野 健悟) 事前学習(2時間)：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習(2時間)：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>第11回 医療の質とリスクマネジメント (担当：岡本 一宏) 事前学習(2時間)：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習(2時間)：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>第12回 養成教育と卒後教育</p>

第13回	(担当：高橋 宣弘) 事前学習 (2時間)：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習 (2時間)：聴講票を作成し、講師に提出する 最新の言語聴覚療法(小児)
第14回	(担当：村田 里佳) 事前学習 (2時間)：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習 (2時間)：聴講票を作成し、講師に提出する 最新の言語聴覚療法(成人)
第15回	(担当：新谷 純) 事前学習 (2時間)：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習 (2時間)：聴講票を作成し、講師に提出する 言語聴覚士のキャリア形成 (担当：保屋野 健悟) 事前学習 (2時間)：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習 (2時間)：聴講票を作成し、講師に提出する
テキスト	久保高明, 山野克明編集：PT・PT・STのためのリハビリテーション管理学. 診断と治療社, 2024年
参考書・参考資料等	なし
学生に対する評価	レポート (100%) にて評価を行う。レポート未提出の場合は不合格となる。
課題 (試験やレポート等) に対応するフィードバックの方法	保屋野・西尾・新谷・高橋・村田・岡本：月～金曜日の9：00～17：00まで随時受け付ける。
備考	[実務経験について] ・急性期・回復期・生活期など様々なリハビリテーション関連病院・施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	【必修】言語
担当教員			
高橋 宣弘			
講義		053101L2S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	高次機能障害の中核をなす失語症について学ぶ。 1. 脳と失語症の定義について学ぶ。 2. 言語症状と失語症候群について学ぶ
授業の概要	神経心理学の知見をベースに高次脳機能障害の中核をなす失語症の歴史や脳の古典的言語領域について整理する。そして、失語症の言語症状と失語症候群およびその評価と訓練について学ぶ。さらに、失語症者の心理的問題や社会参加などについて幅広く学ぶ。
授業計画	<p>第1回 言語の神経学的基盤 両半球の働き、利き手と側性化、陰性症状・陽性症状、言語の神経基盤および関連領域</p> <p>事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第2回 脳血管障害と脳血管支配および失語症の原因疾患、失語症の定義 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第3回 言語モダリティ 聴覚理解、読解、発話、書字、呼称、復唱、音読、自発書字、書取</p> <p>事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第4回 失語症の言語症状 発話、復唱、流暢性、構音、プロソディ、発話失行、残語、喚語困難、錯語、ジャルゴン、新造語、接近行為、復唱、反響言語</p> <p>事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第5回 失語症の言語症状 聴覚理解、読解、書字、語音認知、聴覚理解、単語の理解、構文の理解、読解、音読、自発書字、書取、漢字と仮名、錯読、錯書</p> <p>事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第6回 症候群の成り立ちおよび失語症候群の種類 古典論、古典型失語症候群、ブローカ失語、ウエルニッケ失語、伝導失語、健忘失語、全失語、超皮質性失語、皮質下性失語</p> <p>事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第7回 ブローカ失語・ウエルニッケ失語 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第8回 伝導失語、健忘失語、超皮質性失語 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第9回 全失語、交叉性失語、皮質下性失語、進行性失語、後天性小児失語、 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第10回 純粋型 純粋語聾、発話失行、純粋語啞、純粋語読、純粋失書、失読失書、表層性と深層性</p> <p>事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第11回 認知神経心理学的モデル（聴覚的理解） 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第12回 認知神経心理学的モデル（呼称、復唱、音読） 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第13回 認知神経心理学的モデル（読解） 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第14回 認知神経心理学的モデル（自発書字、書取）</p>

	<p>第15回</p> <p>事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う 失語症者の心理的問題および社会参加 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う 定期試験</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・藤田郁代編：標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版. 医学書院, 2021 ・小嶋知幸編：なるほど!失語症の評価と治療. 金原出版, 2010
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・石川裕治編：言語聴覚療法シリーズ 失語症. 建帛社, 2000 ・竹内愛子編：脳卒中後のコミュニケーション障害 改訂第2版. 協同医書出版社, 2012
学生に対する評価	筆記試験：100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月曜～金曜の9：00～17：00までの在室時、随時受け付けます。
備考	<p>[実務経験について]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急性期、回復期、維持期のリハビリテーション関連病院で失語症に対する言語聴覚療法の実務経験を有し、その経験を踏まえて、講義で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	【必修】言語
担当教員			
高橋 宣弘			
講義	初級障がい者スポーツ指導員対象科目(言語)	053102L2S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	<p>1. 脳の機能の中には、入力情報の受容や出力情報の発信といった一次的な機能と、複雑な認知機能および随意性や制御を司る、より高次の機能があることを理解する。</p> <p>2. 高次脳機能障害の概念を知る上で、脳の構造と心の働き、脳の生理学的あるいは科学的な働きとの相関を知り、人間の心理現象の構造についてまずは理解する。</p> <p>3. 主に大脳損傷によって生じる高次脳機能障害の神経学的背景、症候について理解し、高次脳機能障害のリハビリテーションの実際を学ぶ。</p>
授業の概要	<p>神経心理学と神経科学の知見から高次脳機能の神経メカニズムについて理解を深める。</p> <p>脳が損傷を受けたために、言語、行為、認知、記憶、注意、遂行機能、社会的行動などの高次の精神機能が障害された高次脳機能障害について学修する。具体的には視覚・聴覚および触覚認知の障害（失認）、視空間認知障害、行為・動作の障害（失行）、身体意識・病態認知の障害、記憶障害、注意障害、前頭葉機能障害（ワーキングメモリ機能、遂行機能）、脳梁離断症状、社会的行動障害などの神経学的背景、症候について学ぶ。認知症の診断・評価およびリハビリテーションの実際についても理解する。</p> <p>さらに、高次脳機能障害者の社会参加（就学・就労）の問題についても学ぶ。</p>
授業計画	<p>第1回 中枢神経系の骨格構造、大脳の基本構造・階層構成および神経心理学での基本的な考え方 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第2回 背景症状 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第3回 注意障害 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第4回 記憶のメカニズムおよび健忘症候群の症状 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第5回 視知覚障害、視覚認知障害（失認症）の概念およびそのメカニズム 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第6回 視空間認知機能とその障害 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第7回 聴覚認知の障害、触覚認知の障害、身体・病態認知の障害のメカニズム 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第8回 失行症の概念およびそのメカニズム 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第9回 前頭葉損傷における高次脳機能障害 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第10回 失算および脳梁離断によって生じる症状 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第11回 認知症の原因疾患および認知症の中核症状 認知症と認知機能、認知症の鑑別診断基準、認知症の臨床特徴 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第12回 認知症の原因疾患および認知症の中核症状 Alzheimer病、Pick病、Lewy小体病、その他の認知症をきたす疾患、軽度認知障害 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第13回 外傷性脳損傷によって生じる症状 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第14回 運動ニューロン疾患の高次脳機能障害 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第15回 高次脳機能障害者の社会参加 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p>

	定期試験
テキスト	・藤田 郁代他編：標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版. 医学書院, 2021.
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・山鳥 重：神経心理学入門. 医学書院, 1985. ・長谷川 賢一編：高次脳機能障害. 建帛社, 2001. ・石合 純夫：高次脳機能障害学. 医歯薬出版, 2003. ・岩田 誠他編：言語聴覚士のための基礎知識 臨床神経学・高次脳機能障害学. 医学書院, 2006. ・小寺 富子監修：言語聴覚療法臨床マニュアル 第2版. 協同医書出版社, 2004. ・鹿島 晴雄他著：よくわかる失語症と高次脳機能障害. 永井書店, 2004. ・大沢 愛子監修：高次脳機能障害ビジュアル大辞典. メディカ出版, 2020. ・(公財)日本障がい者スポーツ協会(編), 障がいのある人のスポーツ指導教本, 株式会社ぎょうせい
学生に対する評価	定期試験100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月曜～金曜の9：00～17：00までの在室時に随時受け付けます。
備考	<p>[実務経験について]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急性期、回復期、維持期のリハビリテーション関連病院で高次脳機能障害に対する言語聴覚療法の実務経験を有し、その経験を踏まえて、講義で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	2	【必修】言語
担当教員			
高橋 宣弘・新谷 純			
演習		053103S2S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	<p>1. 失語症の鑑別診断検査の1つである標準失語症検査 (SLTA) の概要・構成を理解し、検査の実施と採点法を学ぶ。</p> <p>2. 標準失語症検査 (SLTA) 結果より、報告書の作成を学ぶ。</p> <p>3. 標準失語症検査 (SLTA) 以外の検査の特性を知り、適切に用いることを学ぶ。</p> <p>4. 失語症の評価および診断のプロセスを学ぶ。</p> <p>5. 高頻度に臨床で使用される失語症検査を理解し、その実際について演習する。</p>
授業の概要	失語症および周辺症状の評価において临床上高頻度に使用される基本的な検査を深く理解し、その実際について演習する。具体的には、言語障害に対するスクリーニングテスト、総合的失語症検査、言語機能障害に関する各種のディープテスト、コミュニケーション能力検査などである。
授業計画	<p>第1回 失語症の評価・診断のプロセス 事前学習 (0.5時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第2回 標準失語症検査 (SLTA) の概要、留意点および基本的記載方法 事前学習 (0.5時間) : 検査マニュアルの対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 授業資料、検査マニュアルを参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第3回 標準失語症検査 (SLTA) の実施方法 (下位検査1、2 (単語の理解、短文の理解)) 事前学習 (0.5時間) : 検査マニュアルの対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 実技練習をする</p> <p>第4回 標準失語症検査 (SLTA) の実施方法 (下位検査3、4 (口頭命令に従う、仮名の理解)) 事前学習 (0.5時間) : 検査マニュアルの対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 実技練習をする</p> <p>第5回 標準失語症検査 (SLTA) の実施方法 (下位検査5 (呼称)) 事前学習 (0.5時間) : 検査マニュアルの対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 実技練習をする</p> <p>第6回 標準失語症検査 (SLTA) の実施方法 (下位検査6、9 (単語の復唱、文の復唱)) 事前学習 (0.5時間) : 検査マニュアルの対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 実技練習をする</p> <p>第7回 標準失語症検査 (SLTA) の実施方法 (下位検査7、10 (動作説明、語の列挙)) 事前学習 (0.5時間) : 検査マニュアルの対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 実技練習をする</p> <p>第8回 標準失語症検査 (SLTA) の実施方法 (下位検査8 (まんがの説明)) 事前学習 (0.5時間) : 検査マニュアルの対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 実技練習をする</p> <p>第9回 標準失語症検査 (SLTA) の実施方法 (下位検査11~13 (漢字単語の音読、仮名1文字の音読、仮名单語の音読)) 事前学習 (0.5時間) : 検査マニュアルの対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 実技練習をする</p> <p>第10回 標準失語症検査 (SLTA) の実施方法 (下位検査14 (短文の音読)) 事前学習 (0.5時間) : 検査マニュアルの対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 実技練習をする</p> <p>第11回 標準失語症検査 (SLTA) の実施方法 (下位検査15~18 (漢字単語の理解、仮名单語の理解、短文の理解、書字命令に従う)) 事前学習 (0.5時間) : 検査マニュアルの対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 実技練習をする</p> <p>第12回 標準失語症検査 (SLTA) の実施方法 (下位検査19、20 (漢字単語の書字、仮名单語の書字)) 事前学習 (0.5時間) : 検査マニュアルの対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 実技練習をする</p> <p>第13回 標準失語症検査 (SLTA) の実施方法 (下位検査21 (まんがの説明)) 事前学習 (0.5時間) : 検査マニュアルの対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 実技練習をする</p> <p>第14回 標準失語症検査 (SLTA) の実施方法 (下位検査23、24 (仮名单語の書取、漢字単語の書取)) 事前学習 (0.5時間) : 検査マニュアルの対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 実技練習をする</p> <p>第15回 標準失語症検査 (SLTA) の実施方法 (下位検査22、25、26 (仮名1文字の書取、短文の書取、計算)) 事前学習 (0.5時間) : 検査マニュアルの対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 実技練習をする</p> <p>第16回 標準失語症検査 (SLTA) の実施 事前学習 (0.5時間) : 検査マニュアルの対応箇所を読む 実技練習をする 事後学習 (0.5時間) : 実技試験の自己評価をする</p>

第17回	標準失語症検査 (SLTA) の実施 事前学習 (0.5時間) : 検査マニュアルの対応箇所を読む 実技練習をする 事後学習 (0.5時間) : 実技試験の自己評価をする
第18回	SLTAのプロフィールの解釈および報告書の作成 事前学習 (0.5時間) : 参付資料の対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : レポート作成の準備をする
第19回	SLTAのプロフィールの解釈および報告書の作成 事前学習 (0.5時間) : 参付資料の対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : レポート作成の準備をする
第20回	SLTAのプロフィールの解釈および報告書の作成 事前学習 (0.5時間) : 参付資料の対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : レポート作成をする
第21回	失語症スクリーニング検査の実施および解釈 事前学習 (0.5時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う
第22回	WAB、失語症鑑別診断検査の実施および解釈 事前学習 (0.5時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 実技練習をする
第23回	重度失語症検査の実施および解釈 事前学習 (0.5時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 実技練習をする
第24回	標準失語症補助検査 (SLTA - ST) の実施および結果の解釈 事前学習 (0.5時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 実技練習をする
第25回	失語症語彙検査 (TLPA) の実施および結果の解釈 事前学習 (0.5時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 実技練習をする
第26回	SALA 失語症検査の実施および結果の解釈 事前学習 (0.5時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 実技練習をする
第27回	失語症構文検査 (STA) の実施および結果の解釈 事前学習 (0.5時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 実技練習をする
第28回	実用コミュニケーション能力検査の実施および結果の解釈 事前学習 (0.5時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 実技練習をする
第29回	その他、掘り下げ検査について トークンテスト、語音弁別検査など 事前学習 (0.5時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 実技練習をする
第30回	その他、掘り下げ検査について 単語のモーラ分解・抽出検査、発語失行症検査など 事前学習 (0.5時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (0.5時間) : 実技練習をする
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・日本高次脳機能障害学会編：標準失語症検査 マニュアル改訂第2版. 新興医学出版社, 2003 ・伊藤元信、吉畑博代編：言語治療ハンドブック. 医歯薬出版, 2019 ・小嶋知幸編：なるほど 失語症の評価と治療. 金原出版, 2010
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	<p>配分 ①実技50% (第1～15回分)、②レポート試験15% (第16～20回分)、③筆記試験35% (第21～30回分)</p> <p>*①～③それぞれ2/3未満の出席の場合は、受験資格はありませんので注意してください。 *①～③それぞれの試験成績が60%以上で合格とします。</p>
課題 (試験やレポート等) に対応するフィードバックの方法	高橋・新谷：月曜～金曜の9：00～17：00まで随時受け付けます。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・実技はストップウォッチを使用するので、準備してください (スマートフォン不可)。 ・通年 (前期～後期) で開講している科目ですので出欠状況および評価方法を必ず確認してください。 <p>[実務経験について] ・急性期、回復期、維持期のリハビリテーション関連病院で失語症に対する言語聴覚療法の実務経験を有し、その経験を踏まえて、演習で教授する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	【必修】言語
担当教員			
高橋 宣弘・岡本 一宏			
演習		053104S2S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 大脳の器質的病変により生じる高次脳機能障害は多岐にわたり、その障害の多くは外見から判断することが難しいものが多い。高次脳機能障害をよりの確に判断し、適切な治療を実現するためには、的確かつ客観的な評価の選択や把握、適切な解釈が必要となることを理解する。 2. 高次脳機能障害の評価において、臨床場面でよく使用される代表的な検査法の概要・構成・目的を理解し、検査の実施とその解釈法を学ぶ。
授業の概要	失語以外の他の高次脳機能障害（記憶障害、注意障害、失行、失認、遂行機能障害、前頭葉機能障害、認知症）について、一般的な評価・診断の原則を概説する。検査実施上の注意点、観察のポイント、検査結果の整理と解析方法についても概説する。
授業計画	<p>第1回 注意障害の評価法（CAT）の概要 事前学習（0.5時間）：注意障害について予習する 事後学習（0.5時間）：実技練習をする</p> <p>第2回 CATの実施 事前学習（0.5時間）：マニュアルの対応箇所を読む 事後学習（0.5時間）：実技練習をする</p> <p>第3回 CATから得られた結果の解釈 CATプロフィール、同年齢群対比表、注意障害者の社会上での問題点など 事前学習（0.5時間）：マニュアルの対応箇所を読む 事後学習（0.5時間）：実技練習をする</p> <p>第4回 その他の注意障害の評価法の実施・解釈 かなひろいテスト、トレイルメイキングテストなど 事前学習（0.5時間）：マニュアルの対応箇所を読む 事後学習（0.5時間）：実技練習をする</p> <p>第5回 記憶障害の評価法（WMS-R）の概要 事前学習（0.5時間）：記憶障害について予習する 事後学習（0.5時間）：実技練習をする</p> <p>第6回 WMS-Rの実施 事前学習（0.5時間）：マニュアルの対応箇所を読む 事後学習（0.5時間）：実技練習をする</p> <p>第7回 WMS-Rから得られた結果の解釈 言語性記憶、視覚性記憶、一般的記憶、注意・集中力、遅延再生、記憶障害者の社会的問題点など 事前学習（0.5時間）：マニュアルの対応箇所を読む 事後学習（0.5時間）：実技練習をする</p> <p>第8回 その他の記憶障害の評価法の実施・解釈 S-PA、三宅式記銘力検査、Benton視覚記名検査など 事前学習（0.5時間）：マニュアルの対応箇所を読む 事後学習（0.5時間）：実技練習をする</p> <p>第9回 失認の評価法（VPTA）の概要 事前学習（0.5時間）：失認について予習する 事後学習（0.5時間）：実技練習をする</p> <p>第10回 失行の評価法（SPTA）の概要 事前学習（0.5時間）：失行について予習する 事後学習（0.5時間）：実技練習をする</p> <p>第11回 遂行機能障害の行動評価法（BADS）の概要・実施 事前学習（0.5時間）：遂行機能障害について予習する 事後学習（0.5時間）：実技練習をする</p> <p>第12回 遂行機能障害の行動評価法（BADS）の実施および結果の解釈 事前学習（0.5時間）：マニュアルの対応箇所を読む 事後学習（0.5時間）：実技練習をする</p> <p>第13回 認知機能のスクリーニング検査の概要・実施 長谷川式簡易知能評価法（HDS-R）、ミニメンタルステートテスト（MMSE）、前頭葉機能検査（FAB）など 事前学習（0.5時間）：認知症について予習する 事後学習（0.5時間）：実技練習をする</p> <p>第14回 その他の高次脳機能障害の評価法の実施・解釈 Reven色彩マトリシス検査、コース立方体組合せテストなど 事前学習（0.5時間）：マニュアルの対応箇所を読む 事後学習（0.5時間）：実技練習をする</p> <p>第15回 その他の高次脳機能障害の評価法の実施・解釈 WCST、Stroop Test、Reading Span Test、流暢性テストなど 事前学習（0.5時間）：前頭葉機能障害について予習する</p>

	事後学習（0.5時間）：実技練習をする 定期試験（筆記・実技）
テキスト	配布資料
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・小寺 富子監修：言語聴覚療法臨床マニュアル第2版．協同医書出版社，2004. ・中野 光子：高次脳機能診断法第3版．山王出版，2004. ・藤田 郁代他編：標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学．医学書院，2009. ・小寺 富子監修：言語聴覚療法臨床マニュアル第2版．協同医書出版社，2004. ・鹿島 晴雄他著：よくわかる失語症と高次脳機能障害．永井書店，2004.
学生に対する評価	定期試験（筆記試験60%、実技試験40%） 筆記試験、実技試験それぞれ6割以上の得点で合格とします。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	（高橋・岡本）月曜～金曜の9：00～17：00まで随時受け付けます。
備考	ストップウォッチを使用するので、準備してください（スマートフォン不可）。 [実務経験について] ・急性期、回復期、維持期のリハビリテーション関連病院で高次脳機能障害に対する言語聴覚療法の実務経験を有し、その経験を踏まえて、演習で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	【必修】言語
担当教員			
高橋 宣弘			
講義		053105L3S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	1. 失語症における評価と診断について学ぶ。 2. 言語治療の原則について学ぶ。 3. 失語症における各期の臨床の流れと社会復帰について学ぶ。 4. 失語症における代表的な訓練の理論と技法、訓練計画や予後について学ぶ。 5. 失語症における指導・訓練方針の決定および指導・訓練計画の立案について習得する。
授業の概要	「失語症学」と「失語症評価演習」で学んだ知識と技術を基に、失語症者へのリハビリテーション的アプローチについて、障害の全体像を把握し、各種検査結果から抽出された問題点に沿った代表的な訓練法について学ぶ。さらに失語症者への言語治療の原則や各期治療計画の立て方および治療効果のアウトカム測定方法について学修する。また、失語症のリハビリテーションの実際と、失語症者の生活向上や支援および社会参加の促進について考える。
授業計画	<p>第1回 失語症の言語聴覚療法の全体像 事前学習 (2時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第2回 評価・診断 事前学習 (2時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第3回 情報収集 (言語・コミュニケーション面) 事前学習 (2時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第4回 情報収集 (医学面、関連行動面、社会心理面) 事前学習 (2時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第5回 鑑別診断 事前学習 (2時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第6回 失語症の回復過程 事前学習 (2時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第7回 言語治療の基本原則 事前学習 (2時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第8回 言語治療の理論と技法 (刺激法、遮断除去法、行動変容アプローチ、機能再編成法など) 事前学習 (2時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第9回 言語治療の理論と技法 (語用論的アプローチ、MIT、認知神経心理学的アプローチなど) 事前学習 (2時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第10回 言語治療の理論と技法 (社会的アプローチ、CI言語療法、非侵襲性脳刺激など) 事前学習 (2時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第11回 急性期の評価訓練・訓練・支援 事前学習 (2時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第12回 機能回復訓練 事前学習 (2時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第13回 機能回復訓練 事前学習 (2時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第14回 活動・参加訓練 事前学習 (2時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第15回 生活適応期の訓練・支援 事前学習 (2時間) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う 定期試験</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・藤田郁代他編：標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版. 医学書院, 2021 ・小嶋知幸編：失語症の評価と治療. 金原出版, 2010

参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・石川裕治編：言語聴覚療法シリーズ 失語症. 建帛社, 2000 ・竹内愛子編：脳卒中後のコミュニケーション障害. 協同医書出版社, 1995 ・小寺 富子監修：言語聴覚療法臨床マニュアル 第2版. 協同医書出版社, 2004. ・鹿島 晴雄他著：よくわかる失語症と高次脳機能障害. 永井書店, 2004.
学生に対する評価	筆記試験100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月曜～金曜の9：00～17：00の在室時、随時受け付けます。
備考	<p>[実務経験について]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急性期、回復期、維持期のリハビリテーション関連病院で失語症に対する言語聴覚療法の実務経験を有し、その経験を踏まえて、講義で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	【必修】言語
担当教員			
高橋 宣弘			
講義		053106L3S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高次脳機能治療の原則について学ぶ。 2. 高次脳機能障害における代表的な訓練の理論と技法について学ぶ。 3. 高次脳機能障害における各期の治療計画の立て方および治療効果のアウトカム測定方法について学ぶ。
授業の概要	<p>「高次脳機能障害学」と「高次脳機能障害評価演習」で学んだ知識と技術を基に、高次脳機能障害例へのリハビリテーション的アプローチについて、障害の全体像を把握し、各種検査結果から抽出された問題点に沿った代表的な訓練法について学ぶ。さらに高次脳機能障害者への治療原則や各期治療計画の立て方および治療効果のアウトカム測定方法について学修する。</p> <p>また、高次脳機能障害のリハビリテーションの実際と、高次脳機能障害者の生活向上や支援および社会参加の促進について考える。</p>
授業計画	<p>第1回 神経系の回復メカニズムと認知リハビリテーション 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第2回 記憶障害に対するリハビリテーション（原則と概観、外的ストラテジー法、内的ストラテジー法など） 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第3回 記憶障害に対するリハビリテーション（学習法の改善、環境調整、事例検討など） 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第4回 注意障害に対するリハビリテーション（直接的、代償的、補填的、行動的、環境調整的介入） 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第5回 半側空間無視に対するリハビリテーション（トップダウンアプローチ、ボトムアップアプローチなど） 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第6回 遂行機能障害に対するリハビリテーション 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第7回 認知症のリハビリテーション 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第8回 高次脳機能障害者への支援および社会参加への促し 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う 定期試験</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・藤田郁代他編：標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版. 医学書院, 2021 ・配布資料
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・本田 哲三編：高次脳機能障害のリハビリテーション 実践的アプローチ 第3版DVD付. 医学書院, 2016. ・長谷川賢一：高次脳機能障害. 建帛社, 2011 ・石合 純夫：高次脳機能障害学. 医歯薬出版, 2003. ・岩田 誠他編：言語聴覚士のための基礎知識 臨床神経学・高次脳機能障害学. 医学書院, 2006. ・小寺 富子監修：言語聴覚療法臨床マニュアル 第2版. 協同医書出版社, 2004. ・鹿島 晴雄他著：よくわかる失語症と高次脳機能障害. 永井書店, 2004.
学生に対する評価	定期試験100%
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月曜～金曜の9：00～17：00の在室時、随時受け付けます。
備考	<p>〔実務経験について〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急性期、回復期、維持期のリハビリテーション関連病院で高次脳機能障害に対する言語聴覚療法の実務経験を有し、その経験を踏まえて、講義で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	【必修】言語
担当教員			
西尾 桂子・村田 里佳			
講義	初級障がい者スポーツ指導員対象科目(言語)	053201L2S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	小児の各言語障がいについて概略が把握できることを到達目標とする。
授業の概要	小児言語聴覚障がいの障害要因を通して、言語発達障がいのタイプ、発生機序、症状、評価・診断・支援の原則と流れについて学ぶ。 (西尾 桂子/全11回) 言語発達障害およびコミュニケーション障害の概観を学ぶ。また、知的発達症、自閉スペクトラム症、脳性麻痺・重複障害の発生機序、症状、評価・診断・支援の原則と流れについて理解する。 (村田 里佳/全4回) 特異的言語発達障害、限局性学習症、注意欠如多動症、後天性言語発達障害の発生機序、症状、評価・診断・支援の原則と流れについて理解する。
授業計画	<p>第1回 言語発達について (担当：西尾) 事前学習 (2時間)：講義前に指定した範囲のテキストをよみ、授業時の質問を考える。 事後学習 (2時間)：授業時に配布する「授業のまとめ」のプリントを作成し、講師に提出し指導をうける。</p> <p>第2回 言語発達の定義と関連する障害 (担当：西尾) 事前学習 (2時間)：講義前に指定した範囲のテキストをよみ、授業時の質問を考える。 事後学習 (2時間)：授業時に配布する「授業のまとめ」のプリントを作成し、講師に提出し指導をうける。</p> <p>第3回 言語発達の病態 (担当：西尾) 事前学習 (2時間)：講義前に指定した範囲のテキストをよみ、授業時の質問を考える。 事後学習 (2時間)：授業時に配布する「授業のまとめ」のプリントを作成し、講師に提出し指導をうける。</p> <p>第4回 言語発達障害の評価 (担当：西尾) 事前学習 (2時間)：講義前に指定した範囲のテキストをよみ、授業時の質問を考える。 事後学習 (2時間)：授業時に配布する「授業のまとめ」のプリントを作成し、講師に提出し指導をうける。</p> <p>第5回 知的発達症 (担当：西尾) 事前学習 (2時間)：講義前に指定した範囲のテキストをよみ、授業時の質問を考える。 事後学習 (2時間)：授業時に配布する「授業のまとめ」のプリントを作成し、講師に提出し指導をうける。</p> <p>第6回 知的発達症 (担当：西尾) 事前学習 (2時間)：講義前に指定した範囲のテキストをよみ、授業時の質問を考える。 事後学習 (2時間)：授業時に配布する「授業のまとめ」のプリントを作成し、講師に提出し指導をうける。</p> <p>第7回 脳性麻痺、重症心身障害 (担当：西尾) 事前学習 (2時間)：講義前に指定した範囲のテキストをよみ、授業時の質問を考える。 事後学習 (2時間)：授業時に配布する「授業のまとめ」のプリントを作成し、講師に提出し指導をうける。</p> <p>第8回 自閉スペクトラム症 (担当：西尾) 事前学習 (2時間)：講義前に指定した範囲のテキストをよみ、授業時の質問を考える。 事後学習 (2時間)：授業時に配布する「授業のまとめ」のプリントを作成し、講師に提出し指導をうける。</p> <p>第9回 自閉スペクトラム症 (担当：西尾) 事前学習 (2時間)：講義前に指定した範囲のテキストをよみ、授業時の質問を考える。 事後学習 (2時間)：授業時に配布する「授業のまとめ」のプリントを作成し、講師に提出し指導をうける。</p> <p>第10回 特異的言語発達障害 (担当：村田) 事前学習 (2時間)：講義前に指定した範囲のテキストをよみ、授業時の質問を考える。 事後学習 (2時間)：授業時に配布する「授業のまとめ」のプリントを作成し、講師に提出し指導をうける。</p> <p>第11回 限局性学習症 (担当：村田)</p>

	<p>事前学習（2時間）：講義前に指定した範囲のテキストをよみ、授業時の質問を考える。 事後学習（2時間）：授業時に配布する「授業のまとめ」のプリントを作成し、講師に提出し指導をうける。</p> <p>第12回 後天性言語発達症・注意欠如多動症 （担当：村田）</p> <p>事前学習（2時間）：講義前に指定した範囲のテキストをよみ、授業時の質問を考える。 事後学習（2時間）：授業時に配布する「授業のまとめ」のプリントを作成し、講師に提出し指導をうける。</p> <p>第13回 後天性言語発達症・注意欠如多動症 （担当：村田）</p> <p>事前学習（2時間）：講義前に指定した範囲のテキストをよみ、授業時の質問を考える。 事後学習（2時間）：授業時に配布する「授業のまとめ」のプリントを作成し、講師に提出し指導をうける。</p> <p>第14回 他職種連携（乳幼児期） （担当：西尾）</p> <p>事前学習（2時間）：講義前に指定した範囲のテキストをよみ、授業時の質問を考える。 事後学習（2時間）：授業時に配布する「授業のまとめ」のプリントを作成し、講師に提出し指導をうける。</p> <p>第15回 他職種連携（学童期～青年期・成人期） （担当：西尾）</p> <p>事前学習（2時間）：講義前に指定した範囲のテキストをよみ、授業時の質問を考える。 事後学習（2時間）：授業時に配布する「授業のまとめ」のプリントを作成し、講師に提出し指導をうける。 定期試験</p>
テキスト	・内山千鶴子、後藤多可志 編著：クリア言語聴覚療法4 言語発達障害学、建帛社、2024
参考書・参考資料等	・（公財）日本障がい者スポーツ協会（編）、障がいのある人のスポーツ指導教本、株式会社ぎょうせい ・山田弘幸編著：言語聴覚士のための心理学 第2版、医薬歯出版、2020
学生に対する評価	・レポート試験（授業のまとめとして各授業終了後にレポート課題を課す）10%、筆記試験90%で評価し、総合して60%以上を合格とする。 ・授業ごとに指定するレポートを未提出の場合は筆記試験の受験資格を与えない。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	（西尾）月曜～金曜で先行表示が「在室」となっているとき、随時受け付けます。 E-mail：keinishio@fukui-hsu.ac.jp （村田）月曜～金曜の先行表示が「在室」になっているとき、随時受け付けます。 E-mail：murata-r@fukui-hsu.ac.jp
備考	〔実務経験について〕 ・小児施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	【必修】言語
担当教員			
西尾 桂子・村田 里佳・熊下 由加			
演習		053202S2S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト理論・基本統計を理解することが出来る。 ・言語発達障害がいのタイプに応じて評価法を選択することが出来る。 ・全体的発達と関連させて言語発達レベルを評価することが出来る。 ・評価した内容に基づいて評価報告書を作成することが出来る。
授業の概要	<p>評価のための基礎として基本統計を演習的に復習する。そして、言語発達障害学で学んだ知識をもとに言語発達障害児に用いられる代表的な検査の概要、構成を理解し、検査の実施～解釈までの基礎的知識を習得する。情報収集～評価結果のまとめまでの流れやポイントを学んでいく。</p> <p>担当教員全員で実施する。</p>
授業計画	<p>第1回 検査1 (PVT-R、DAM)、復習(KIDS、K式、遠城寺) 事前学習 (30分) : 1年時の授業資料を確認する 事後学習 (30分) : 授業資料を整理する</p> <p>第2回 検査2 (S-S法) 事前・事後学習 (各30分) : 指定された検査の実施・検査結果のまとめなどの手順をマニュアルを読んで確認する</p> <p>第3回 検査2 (S-S法) 事前・事後学習 (各30分) : 指定された検査の実施・検査結果のまとめなどの手順をマニュアルを読んで確認する</p> <p>第4回 検査2 (S-S法:採点・サマリー、FOSCOM) 事前・事後学習 (各30分) : 指定された検査の実施・検査結果のまとめなどの手順をマニュアルを読んで確認する</p> <p>第5回 検査2 (K-ABC II、DN-CAS) 事前・事後学習 (各30分) : 指定された検査の実施・検査結果のまとめなどの手順をマニュアルを読んで確認する</p> <p>第6回 検査2 評価の目的、流れ、初回～再評価まで 事前・事後学習 (各30分) : 指定された資料を読んで確認する</p> <p>第7回 検査2 基本情報の収集、問診 事前・事後学習 (各30分) : 指定された資料を読んで確認する</p> <p>第8回 OSCE準備:問診表作成 事前・事後学習 (各30分) : 与えられた模擬症例情報をもとに、インテークの質問と流れを考える。</p> <p>第9回 検査3 (STRAW、RAN課題、フロスティック視知覚発達検査、LCスケール、LCSA) 事前・事後学習 (各30分) : 前回までの授業資料を確認し、疑問点をピックアップして授業にて確認する</p> <p>第10回 検査4 (質問応答関係検査、CARS、M-CAHT) 事前・事後学習 (各30分) : 指定された検査の実施・検査結果のまとめなどの手順をマニュアルを読んで確認する</p> <p>第11回 検査5 (J、COSS) 事前・事後学習 (各30分) : 指定された検査の実施・検査結果のまとめなどの手順をマニュアルを読んで確認する</p> <p>第12回 OSCE① インテーク1回目 事前学習 (各30分) : OSCEのインテークの準備やリハーサルを行う。 事後学習 (各30分) : OSCE後のフィードバックをもとに2回目のOSCEにむけて注意点や改善点を整理する</p> <p>第13回 問診表訂正 事前・事後学習 (各30分) : OSCE① (1回目) でのフィードバックをもとにインテークの内容、流れを再検討する</p> <p>第14回 OSCE① インテーク2回目 事前学習 (30分) : OSCEのインテークの準備やリハーサルを行う 事後学習 (30分) : インテークで得られた情報をもとに、模擬患者の問題点を整理し次回に実施すべき検査を 検討する。その内容をレポートにまとめ提出期限までに提出する</p> <p>第15回 OSCE② 検査導入の説明 事前学習 (30分) : 模擬患者への検査に関するインフォームドコンセントの内容を確認する 事後学習 (30分) : OSCE後のフィードバックをうける 定期試験</p>

テキスト	内山千鶴子、後藤多可志：クリア言語聴覚療法4 言語発達障害，建白社，2024
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・小寺富子等編著：国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査検査マニュアル(改訂第4版)、エスコアール、2011 ・山田弘幸編著：言語聴覚士のための心理学 第2版,医歯薬出版、2020 ・石坂郁代、水戸陽子：最新言語聴覚学講座「言語発達障害学」，医歯薬出版，2023
学生に対する評価	実技試験30%、筆記試験70%。各試験の60%を満たさない場合は不合格とする。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	<p>(西尾) 月曜～金曜の先行表示が「在室」になっているとき、随時受け付けます。 E-mail：keinishio@fukui-hsu.ac.jp</p> <p>(村田) 月曜～金曜の先行表示が「在室」になっているとき、随時受け付けます。 E-mail：murata-r@fukui-hsu.ac.jp</p>
備考	<p>[実務経験について]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	【必修】言語
担当教員			
西尾 桂子・村田 里佳・熊下 由加			
講義		053203L/S3S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・各種支援方法を概説できる。 ・言語発達障がい児・家族に対する支援や各関連機関との連携を説明できる。 ・発達段階と障がい特性に応じた指導・訓練を選択できる。 ・症例を通して、具体的な指導・訓練を立案できる。
授業の概要	<p>言語発達障害児1人ひとりの状況とニーズにあった支援方法について学ぶ。 (西尾 桂子／全6回) 言語発達障害児の指導には発達段階に即した指導と障害特性に応じた指導方法があり、さまざまな指導技法も提唱されている。まず発達段階に即した指導法と代表的な指導・支援方法について、理論的背景とその実際について学び支援の方法を習得する。 (熊下 由加／全4回) 子ども1人ひとりの状況とニーズを知り、その子に合った支援を行えるよう、各ライフステージにおける支援の方法についても考慮する。 (村田 里佳／全5回) 障害特性に即した指導法と代表的な指導・支援方法について、理論的背景とその実際について学び支援の方法を習得する。</p>
授業計画	<p>第1回 言語発達の概要：言語発達学の復習 (担当：西尾) 事前学習(2時間)：言語発達学を復習する 事後学習(2時間)：授業時に提示した資料の整理と、ノートをまとめる</p> <p>第2回 発達段階に即した指導法：前言語期の支援 (担当：西尾) 事前学習(2時間)：前回の授業の見直し、およびテキストの授業範囲をよみ疑問点をピックアップする 事後学習(2時間)：授業時に提示した資料の整理と、ノートをまとめる</p> <p>第3回 発達段階に即した指導法：幼児期前期の支援 (担当：西尾) 事前学習(2時間)：前回の授業の見直し、およびテキストの授業範囲をよみ疑問点をピックアップする 事後学習(2時間)：授業時に提示した資料の整理と、ノートをまとめる</p> <p>第4回 発達段階に即した指導法：幼児期後期の支援 (担当：西尾) 事前学習(2時間)：前回の授業の見直し、およびテキストの授業範囲をよみ疑問点をピックアップする 事後学習(2時間)：授業時に提示した資料の整理と、ノートをまとめる</p> <p>第5回 発達段階に即した指導法：学童期の支援 (担当：西尾) 事前学習(2時間)：前回の授業の見直し、およびテキストの授業範囲をよみ疑問点をピックアップする 事後学習(2時間)：授業時に提示した資料の整理と、ノートをまとめる</p> <p>第6回 障害特性に応じた指導法：自スペクトラム症・ADHD (担当：村田) 事前学習(2時間)：前回の授業の見直し、およびテキストの授業範囲をよみ疑問点をピックアップする 事後学習(2時間)：授業時に提示した資料の整理と、ノートをまとめる</p> <p>第7回 障害特性に応じた指導法：自閉スペクトラム症・ADHD (担当：村田) 事前学習(2時間)：前回の授業の見直し、およびテキストの授業範囲をよみ疑問点をピックアップする 事後学習(2時間)：授業時に提示した資料の整理と、ノートをまとめる</p> <p>第8回 障害特性に応じた指導法：特異的言語発達障害・限局性学習症 (担当：村田) 事前学習(2時間)：前回の授業の見直し、およびテキストの授業範囲をよみ疑問点をピックアップする 事後学習(2時間)：授業時に提示した資料の整理と、ノートをまとめる</p> <p>第9回 障害特性に応じた指導法：特異的言語発達障害・限局性学習症 (担当：村田) 事前学習(2時間)：前回の授業の見直し、およびテキストの授業範囲をよみ疑問点をピックアップする 事後学習(2時間)：授業時に提示した資料の整理と、ノートをまとめる</p> <p>第10回 障害特性に応じた指導法：知的発達症 (担当：西尾) 事前学習(2時間)：前回の授業の見直し、およびテキストの授業範囲をよみ疑問点をピックアップする</p>

	<p>第11回 事後学習(2時間) : 授業時に提示した資料の整理と、ノートをまとめる 障害特性に応じた指導法 : 脳性麻痺 (担当 : 西尾)</p> <p>事前学習(2時間) : 前回の授業の見直し、およびテキストの授業範囲をよみ疑問点をピックアップする</p> <p>第12回 事後学習(2時間) : 症例情報より評価方法を考える 症例検討(情報収集～評価) : GW (担当 : 熊下)</p> <p>第13回 事前・事後学習(各2時間) : 症例の評価結果から考察する 症例検討(評価の分析) : GW (担当 : 熊下)</p> <p>第14回 事前・事後学習(各2時間) : 症例の評価～訓練目標決定までの発表資料を作成 症例検討(評価結果から問題点の抽出、訓練目標の決定) : GW (担当 : 熊下)</p> <p>第15回 事前学習(2時間) : 発表資料の作成 事後学習(2時間) : ケースレポートの作成 症例検討(発表) (担当 : 熊下) 事前・事後(各2時間) : ケースレポートの作成 定期試験</p>
テキスト	1. 石坂郁代、水戸陽子編著 : 最新言語聴覚学講座「言語発達障害学」, 医歯薬出版, 2023
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	レポート試験(ケースレポート:30点)、筆記試験(70点)により評価する。総合して6割以上を合格とする。ただしグループワークを公的な理由もなく全4回中2回以上欠席した場合、またはGWの各講義ごとの課題レポートを未提出の場合はレポート試験の成績は0点とする。
課題(試験やレポート等)に対応するフィードバックの方法	(西尾) 月曜～金曜の先行表示が「在室」になっているとき、随時受け付けます。 E-mail : keinishio@fukui-hsu.ac.jp (村田) 月曜～金曜の先行表示が「在室」になっているとき、随時受け付けます。 E-mail : murata-r@fukui-hsu.ac.jp
備考	[実務経験について] ・小児施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	1	【必修】言語
担当教員			
西尾 桂子・村田 里佳			
演習		053204S4S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	対象児に合わせて指導計画の立案、教材の選択や制作ができる。さらに、教材・教具を適切に用いて指導ができる。
授業の概要	乳幼児から児童期の言語発達障害児への指導に際して、子どもたちの発達や障害特性に応じた指導を行うためには、指導計画の立案、教材の選択や制作、その使用方法の熟知が必要で、市販の教材・教具に頼るだけでは不十分である。子どもたちの特性を理解し、特性を考慮した教材・教具の作成が必要になる。実際の指導・治療場面で子どもに応じた適切な指導ができることを目標に、どのような指導方法が適切か、子どもの興味関心を引く教材は何かを考え作成し、作成したものを使って子どもたちが楽しんで指導が受けられるような技能を養う。 担当教員全員で実施する。
授業計画	<p>第1回 対象児の評価 事前・事後学習（各30分）：評価のための準備を行い、評価で得られた情報をまとめる</p> <p>第2回 対象児の評価 事前・事後学習（各30分）：評価のための準備を行い、評価で得られた情報をまとめる</p> <p>第3回 評価報告書作成 事前・事後学習（各30分）：評価報告に必要な資料や書籍を確認する</p> <p>第4回 教材作成①：計画書を作成 事前・事後学習（各30分）：計画書作成に必要な資料や書籍を確認する</p> <p>第5回 教材作成計画①：計画書を作成 事前・事後学習（各30分）：計画書作成に必要な資料や書籍を確認する</p> <p>第6回 教材作成計画①の中間発表 事前・事後学習（各30分）：発表準備と発表時のコメントをもとに修正するために資料をあつめる</p> <p>第7回 教材作成計画①の中間発表 事前・事後学習（各30分）：発表準備と発表時のコメントをもとに修正するために資料をあつめる</p> <p>第8回 教材作成計画②（市場調査を含む） 事前・事後学習（各30分）：計画書作成に必要な資料や書籍を確認する</p> <p>第9回 教材作成計画②（市場調査を含む） 事前・事後学習（各30分）：計画書作成に必要な資料や書籍を確認する</p> <p>第10回 教材作成計画②（市場調査を含む） 事前・事後学習（各30分）：計画書作成に必要な資料や書籍を確認する</p> <p>第11回 教材作成計画書を作成：発表用資料作成 事前：事後学習（各30分）：発表に向けて必要な資料等を準備・確認する</p> <p>第12回 教材作成計画書を作成：発表用資料作成 事前：事後学習（各30分）：発表に向けて必要な資料等を準備・確認する</p> <p>第13回 教材作成計画書を作成：発表用資料作成 事前：事後学習（各30分）：発表に向けて必要な資料等を準備・確認する</p> <p>第14回 教材作成計画発表：ポスター発表形式で実施 事前：事後学習（各30分）：発表に向けて必要な資料等を準備・確認する</p> <p>第15回 教材作成計画発表：ポスター発表形式で実施 事前：事後学習（各30分）：発表に向けて必要な資料等を準備・確認する</p> <p>定期試験</p>
テキスト	なし
参考書・参考資料等	なし
学生に対する評価	全ての授業の授業参加態度、発表内容、最終発表後のレポートをもとに評価し、60%以上を合格とする。各2回の発表が未実施もしくは最終レポートが未提出の場合は評価対象から除外する。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	（西尾）月曜～金曜の先行表示が「在室」になっているとき、随時受け付けます。 E-mail：keinishio@fukui-hsu.ac.jp （村田）月曜～金曜の先行表示が「在室」になっているとき、随時受け付けます。 E-mail：murata-r@fukui-hsu.ac.jp

備考	[実務経験について] ・小児施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。
----	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	【必修】言語
担当教員			
新谷 純・保屋野 健悟			
講義		053301L1S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	発声発語器官の機能が理解でき、それぞれの機能低下によって、どんな症状が起こるか説明できる。症状を与えられた時に、その発現機序がある程度推定できる。
授業の概要	発声発語・摂食嚥下の障害の発現機序を学修する。運動性と器質性の発現機序と症状の違いと特徴を理解し、機能訓練の方法がそれによって異なることを理解する。また、障害の種類によっては、一旦障害が生じると、発声発語、摂食嚥下の症状以前に生命維持の問題が生じること、また、コミュニケーションへの支障が出現することを理解する。このことが評価の助けになるのはもちろん、訓練の対象になることを学修する。さらには、QOLの低下につながることも理解し、その問題の解決への支援も言語聴覚士の役割であることを理解しなければならない。
授業計画	<p>第1回 発声発語器官形態（正中断面）、機能、神経支配、音声記号（復習） （担当：新谷 純） 事前学習（30分）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（30分）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第2回 中枢神経系、抹消神経系の機能。器質性、運動障害性障害それぞれの違いの理解 （担当：新谷 純） 事前学習（30分）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（30分）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第3回 呼吸器の疾患（運動性）と発声発語・構音運動の機能障害。気管切開とコミュニケーション障害 （担当：新谷 純） 事前学習（30分）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（30分）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第4回 喉頭の疾患（運動性）と発声発語・構音運動の機能障害 （担当：新谷 純） 事前学習（30分）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（30分）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第5回 鼻咽腔閉鎖不全の構音異常の発現メカニズム、下顎の疾患（運動性）と発声発語・構音運動の機能障害 （担当：新谷 純） 事前学習（30分）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（30分）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第6回 舌、口唇の疾患（運動性）と発声発語・構音運動の機能障害 （担当：新谷 純） 事前学習（30分）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（30分）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第7回 構音・摂食嚥下に関する筋の特徴 （担当：保屋野 健悟） 事前学習（30分）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（30分）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第8回 運動学習 （担当：保屋野 健悟） 事前学習（30分）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（30分）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p>
テキスト	藤田郁代 発声発語障害学 第3版 医学書院 2021年
参考書・参考資料等	なし
学生に対する評価	筆記試験（100％）とする。出題割合は、100点満点中、新谷60点、保屋野40点、とし、総合点で60点以上を合格とする。また、聴講票の未提出（欠席時は除く）があれば、不合格とする場合がある。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	新谷・保屋野：研究室在室時は随時対応します。
備考	<p>新谷：急性期・回復期のリハビリテーション関連病院で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。</p> <p>保屋野：急性期・回復期・生活期のリハビリテーション関連病院・施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	【必修】言語
担当教員			
西尾 桂子・保屋野 健悟・熊下 由加			
講義		053302L1S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	小児の機能性・器質性構音障がい の定義、発生機序、種類、特徴および評価・治療体系を理解することができる。また、後天性器質性構音障害の代表例である口腔がんの種類や特徴を理解し、がんのリハビリテーションに応用できる。
授業の概要	<p>構音障害とは、話しことばの特定の音が正しく発音されず、それがある程度固定化している状態をいう。子どもの構音障害は、原因は何であれ発達途上の問題であり、その理解と対応には言語獲得後に生じた成人の構音障害とは異なる視点が必要である。</p> <p>(西尾 桂子/全12回)</p> <p>授業では子どもの構音障害を理解するために必要と思われる、音韻の発達や発声発語器官の発生や構造などの基礎的知識と、評価から訓練までの臨床的概略について学習する。</p> <p>形態上の原因がない機能的構音障害と形態的異常により引き起こされる器質的構音障害について、各タイプとその障害機序について学ぶ。</p> <p>(熊下 由加/全7回)</p> <p>構音障害の評価～訓練までの流れ、および臨床上のポイントについて学ぶ。</p> <p>(保屋野 健悟/全3回)</p> <p>口腔がんについて種類、治療方法について学ぶとともに、がんのリハビリテーション(器質性構音障害を中心としたコミュニケーション障害)について評価・支援方法を学ぶ。</p>
授業計画	<p>第1回 発声発語器官の発生、解剖・生理・構造 (担当者：西尾・熊下) 事前学習(2時間)：発声発語器官の解剖・生理・構造を復習する 事後学習(2時間)：授業のノートをまとめるとともに、資料を整理する</p> <p>第2回 日本語の語音(音声学復習) (担当者：西尾・熊下) 事前学習(2時間)：音声学で学んだ音声記号をすぐ書けるように復習する 事後学習(2時間)：授業のノートをまとめるとともに、資料を整理する</p> <p>第3回 音韻発達、小児の構音障害の定義・分類と要因 (担当者：西尾・熊下) 事前学習(2時間)：テキストの授業範囲に読む 事後学習(2時間)：授業のノートをまとめるとともに、資料を整理する</p> <p>第4回 構音の誤り方(誤り音の種類、音声の誤り)、発達途上にみられる構音の誤り (担当者：西尾・熊下) 事前学習(2時間)：テキストの授業範囲に読む 事後学習(2時間)：授業のノートをまとめるとともに、資料を整理する</p> <p>第5回 小児の構音評価(構音・音韻に関する検査) (担当者：西尾・熊下) 事前学習(2時間)：テキストの授業範囲に読む 事後学習(2時間)：授業のノートをまとめるとともに、資料を整理する</p> <p>第6回 小児の構音評価(鑑別検査) (担当者：西尾・熊下) 事前学習(2時間)：テキストの授業範囲に読む 事後学習(2時間)：授業のノートをまとめるとともに、資料を整理する</p> <p>第7回 小児の構音訓練 (担当者：西尾・熊下) 事前学習(2時間)：テキストの授業範囲に読む 事後学習(2時間)：授業のノートをまとめるとともに、資料を整理する</p> <p>第8回 器質性構音障害：口唇裂・口蓋裂 (担当者：西尾) 事前学習(2時間)：テキストの授業範囲に読む 事後学習(2時間)：授業のノートをまとめるとともに、資料を整理する</p> <p>第9回 口蓋裂類似疾患、合併症 (担当者：西尾) 事前学習(2時間)：テキストの授業範囲に読む 事後学習(2時間)：授業のノートをまとめるとともに、資料を整理する</p> <p>第10回 口唇裂・口蓋裂に伴う問題点 (担当者：西尾) 事前学習(2時間)：テキストの授業範囲に読む 事後学習(2時間)：授業のノートをまとめるとともに、資料を整理する</p> <p>第11回 器質性構音障害の評価(鼻咽腔閉鎖機能不全の評価など) (担当者：西尾) 事前学習(2時間)：テキストの授業範囲に読む 事後学習(2時間)：授業のノートをまとめるとともに、資料を整理する</p> <p>第12回 器質性構音障害の訓練、治療、支援など</p>

	<p>(担当者：西尾) 事前学習(2時間)：テキストの授業範囲に読む 事後学習(2時間)：授業のノートをもとめるとともに、資料を整理する</p> <p>第13回 がんのリハビリテーションの概要</p> <p>(担当者：保屋野) 事前学習(2時間)：配布資料をよみ、疑問点をピックアップする 事後学習(2時間)：授業のノートをもとめるとともに、資料を整理する</p> <p>第14回 がんのリハビリテーション(器質性構音障害を中心としたコミュニケーション障害)</p> <p>(担当者：保屋野) 事前学習(2時間)：配布資料をよみ、疑問点をピックアップする 事後学習(2時間)：授業のノートをもとめるとともに、資料を整理する</p> <p>第15回 がんのリハビリテーション(摂食嚥下障害)</p> <p>(担当者：保屋野) 事前学習(2時間)：配布資料をよみ、疑問点をピックアップする 事後学習(2時間)：授業のノートをもとめるとともに、資料を整理する</p> <p>定期試験</p>
テキスト	1. 佐藤亜紀子・緒方祐子 編著：クリア言語聴覚療法5 小児発声発語障害, 建帛社, 2024 2. 配布資料
参考書・参考資料等	1. 城本修・原由紀 編集：標準言語聴覚障害学 発声発語障害学第3版, 医学書院, 2021 2. 白坂康俊・熊田政信 著：言語聴覚士のための機能性構音障害, 医歯薬出版, 2017
学生に対する評価	筆記試験100点(西尾・熊下70%、保屋野30%)で評価し、60点以上で合格とする。
課題(試験やレポート等)に対応するフィードバックの方法	西尾：月曜～金曜の9:00～17:00まで随時 保屋野：月曜～金曜の9:00～17:00まで随時
備考	[実務経験について] 西尾：小児施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。 熊下：小児施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。 保屋野：急性期・回復期・生活期など様々なリハビリテーション関連病院・施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】言語
担当教員			
新谷 純			
講義		053303L2S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	運動障害性構音障害、器質的構音障害の違いならびに下位分類としてのタイプ分類を説明できる。それぞれの様態、言語症状に合ったプログラムを立案し、適切に訓練手技を選択、実施できる。
授業の概要	音声学および病理音声学で学んだ発声発語器官の運動とその異常を踏まえ、運動障害性構音障害の臨床上的特徴および評価・訓練技法を学ぶ。運動性構音障害においては、障害のタイプによって適用すべき訓練手技が異なり、不適切に行えば、悪化させることもあるので、きちんと理解しなければならない。多くの場合、発話の明瞭度低下は完全には回復しない。そのために、代償手段とその適用指導についても十分学ばなければならない。同時に、明瞭度に制限がある状態での社会参加に対しては、地域社会の側の理解と協力が不可欠で、そのための支援についても理解する。
授業計画	<p>第1回 問診を含む評価のための情報収集 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第2回 スクリーニング検査 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第3回 発声発語器官（呼吸器、下顎、舌、口唇、軟口蓋）の運動範囲・筋力・巧緻性評価 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第4回 運動障害性構音障害のタイプ別訓練プログラム立案方法 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第5回 プロソディの評価と訓練法 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第6回 コミュニケーション障害としての構音障害とその支援法 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第7回 代償手段の検討および拡大代替コミュニケーション（AAC）の活用 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第8回 総括 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う 定期試験</p>
テキスト	藤田郁代 「発声発語障害学 第3版」 医学書院 2021年
参考書・参考資料等	なし
学生に対する評価	筆記試験（100％）で評価するが、聴講票の未提出（欠席時は除く）があれば、不合格とする場合がある。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	研究室在室時は随時対応します。
備考	新谷：急性期・回復期のリハビリテーション関連病院で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。

講義科目名称： 発声発語障害治療学Ⅲ（音声・非流暢性発話） 授業コード： 309800A

英文科目名称： Therapy for Phonation and Articulation Ⅲ
(Phonation and Fluency Disorder)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	【必修】言語
担当教員			
新谷 純・岡本 一宏・小林 宏明			
講義		053304L3S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	<p>音声障害の鑑別方法、検査法について説明できる。音声障害の治療手技、疾患別治療法を説明できる。非流暢性発話の症状の進展状態と評価について説明できる。非流暢性発話の訓練について説明できる。音声障害と非流暢性発話について、それぞれの生活支援と特徴について説明できる。</p>
授業の概要	<p>音声障害の鑑別、検査法、治療手技、生活支援について学ぶ。 非流暢性発話は、流暢に発話することが困難だが、音声や構音には異常がない。この特徴をふまえて、治療法や環境調整について学修する。オムニバス方式/全15回で行う。 (新谷純) これらの鑑別と、声の症状を中心に的確に評価するための検査方法について実践的に理解した上で、声の衛生指導を含む音声治療について具体的な手技を通じて理解する。最後に、代償手段について学ぶ。音声の喪失は、アイデンティティの喪失につながることを重視し、患者様の心理面についての支援が根底にあることを理解しなければならない。 非流暢性発話の評価と支援は、症状の進展状態によって異なる。適切に実施しなければ、悪化させることに繋がる。また、ある段階からは、周囲の見方が当事者の心理に影響し、周囲のあり方によって悪化させる側面があることも学ばなければならない。適応の有無の判断も含めて流暢性促進の訓練方法を学ぶだけでなく、周囲への働きかけなど、流暢性そのものには直接働きかけない方法についてもきちんと理解しなければならない。 音声障害の評価、訓練、声の衛生指導は演習形式を取り入れて行う。 (小林宏明) 非流暢性発話の種類と分類、原因、症状、進展段階について学ぶ。 (岡本一宏) 非流暢性発話における臨床的評価、訓練主義について学ぶ。</p>
授業計画	<p>第1回 音声障害の定義。音声障害の発生メカニズム (担当：新谷 純) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第2回 発声障害のリハビリテーション、問診、検査、治療、手術、機能訓練、指導等 (担当：新谷 純) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第3回 音声障害によって生じる問題点、苦痛 (担当：新谷 純) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第4回 呼吸器、喉頭、共鳴のそれぞれのレベルの障害の発生メカニズムと特徴 (担当：新谷 純) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第5回 声の検査：GRBAS、発話特徴抽出検査 (担当：新谷 純) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第6回 声の検査のまとめ、評価、声の衛生 (担当：新谷 純) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第7回 音声障害の疾患別訓練手技および手術 (担当：新谷 純) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第8回 喉頭摘出とその音声確保 (担当：新谷 純) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第9回 非流暢性発話の障害の種類と分類 (担当：小林 宏明) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第10回 吃音の原因論・進展段階 (担当：小林 宏明) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第11回 吃音のある人の困難・吃音に対する多面的・包括的アプローチ</p>

	<p>(担当：小林 宏明) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う 家庭・教育現場における環境調整と保護者支援</p> <p>(担当：小林 宏明) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う セルフヘルプグループにおける支援・クラタリング</p> <p>(担当：小林 宏明) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う 吃音の言語・精神症状とその評価</p> <p>(担当：岡本 一宏) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う スピーチセラピー・精神面へのアプローチ</p> <p>(担当：岡本 一宏) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の復習を行う 定期試験</p>
テキスト	宮田恵里：声をみるいちばんやさしい音声治療実践ハンドブック 医歯薬出版株式会社 2021
参考書・参考資料等	小林宏明ほか『特別支援教育における吃音・流暢性障害のある子どもの理解と支援』（学苑社、2013年） 小林宏明『イラストでわかる子どもの吃音サポートガイド：1人ひとりのニーズに対応する環境整備と合理的配慮』（合同出版、2019年）
学生に対する評価	筆記試験（100％）とする。出題割合は、100点満点中、小林20点、新谷60点、岡本20点、とし、総合点で60点以上を合格とする。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	研究室在室時は随時対応します。（新谷・岡本） 講義中および終了時に適時返答する（小林）メールによる問い合わせ可能（kobah@staff.kanazawa-u.ac.jp）
備考	<p>【実務経験について】 小林：金沢大学人間社会研究域学校教育系特別支援教育専修教育臨床相談での実務勤務経験を有しており、その経験を踏まえ、講義で教授する。</p> <p>新谷：急性期・回復期のリハビリテーション関連病院で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。</p> <p>岡本：病院における吃音に対する臨床経験をもとに講義で教授する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	【必修】言語
担当教員			
保屋野 健悟			
講義		053305L2S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	嚥下障害のリスクを含めた特徴について説明できる。正常な摂食嚥下機能について説明することができる。摂食嚥下障害のメカニズムを説明することができる。摂食嚥下障害に伴う種々の問題を説明することができる。
授業の概要	正常な摂食嚥下機能とその加齢性の変化を学ぶ。摂食嚥下障害の障害メカニズムを学ぶ。摂食嚥下障害に伴う問題やリスクを学ぶ。摂食嚥下障害の基本的な臨床の流れを学ぶ。
授業計画	<p>第1回 人にとって食べることは 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第2回 正常な摂食嚥下のメカニズム（5期モデル・プロセスモデル） 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第3回 摂食嚥下に関与する筋肉 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第4回 摂食嚥下に関与する筋肉 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第5回 摂食嚥下に関与する神経 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第6回 摂食嚥下に関与する神経 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第7回 摂食嚥下障害のメカニズム（先行期・準備期） 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第8回 摂食嚥下障害のメカニズム（口腔期・咽頭期・食道期） 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第9回 摂食嚥下障害のメカニズム（口腔期・咽頭期・食道期） 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第10回 摂食嚥下障害の原因・摂食嚥下障害に伴う内科的問題 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第11回 摂食嚥下障害に対する臨床の流れ 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第12回 老化に伴う摂食嚥下機能の低下 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第13回 球麻痺による摂食嚥下障害の特徴と臨床 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第14回 偽性球麻痺による摂食嚥下障害の特徴と臨床 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第15回 変性疾患による摂食嚥下障害の特徴と臨床 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う 定期試験</p>
テキスト	上羽瑠美編著：見える！わかる！摂食嚥下のすべて第2版. 学研, 2022 藤島一郎監修：疾患別嚥下障害. 医歯薬出版, 2022
参考書・参考資料等	標準言語聴覚障害学シリーズ 摂食嚥下障害学 第2版, 医学書院, 2021年 倉智雅子編著：言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学, 医歯薬出版, 2013年 清水充子編著：言語聴覚療法シリーズ15 改定摂食・嚥下障害, 建帛社, 2014年 山田好秋著：よくわかる摂食・嚥下のメカニズム 第2版, 医歯薬出版, 2013年
学生に対する評価	筆記試験（100%）で6割を超えない場合不合格となる。

	聴講票が、欠席以外の理由で未提出の場合は、筆記試験を受けることができないことがある。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月～金曜日の9:00～17:00の研究室在室時に随時受け付ける。
備考	急性期・回復期・生活期のリハビリテーション関連病院・施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	【必修】言語
担当教員			
新谷 純・西尾 桂子・熊下 由加			
演習		053306S2S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	発声発語障害（運動障害性構音障害、器質性構音障害、機能性構音障害）に対する評価の意味を理解することができる。それぞれの発声発語障害に対する評価を実施することができる。
授業の概要	発声発語障害（運動障害性構音障害、器質性構音障害、機能性構音障害）の発現機序と症状によって評価の視点が異なることを理解する。発声発語障害に対する評価について演習を通じて学び、それらの評価結果を解釈し、対象者の問題点を抽出することを学修する。
授業計画	<p>第1回 運動障害性構音障害の定義、発現メカニズム （担当：新谷 純） 事前学習（30分）：病理音声学の復習をする 事後学習（30分）：授業内容の復習する</p> <p>第2回 発声発語器官（呼吸器、顎、舌、口唇、軟口蓋）の運動範囲評価 （担当：新谷 純） 事前学習（30分）：演習を行う範囲のテキストを読み込む 事後学習（30分）：演習で学習した検査手続きを復習する</p> <p>第3回 発声発語器官（呼吸器、顎、舌、口唇、軟口蓋）の筋力評価 （担当：新谷 純） 事前学習（30分）：演習を行う範囲のテキストを読み込む 事後学習（30分）：演習で学習した検査手続きを復習する</p> <p>第4回 発声発語器官（呼吸器、顎、舌、口唇、軟口蓋）の巧緻性評価 （担当：新谷 純） 事前学習（30分）：演習を行う範囲のテキストを読み込む 事後学習（30分）：演習で学習した検査手続きを復習する</p> <p>第5回 運動障害と構音の異常との関係 （担当：新谷 純） 事前学習（30分）：演習を行う範囲のテキストを読み込む 事後学習（30分）：演習で学習した検査手続きを復習する</p> <p>第6回 標準ディサースリア検査（AMSD）の概要 （担当：新谷 純） 事前学習（30分）：演習を行う範囲のテキストを読み込む 事後学習（30分）：演習で学習した検査手続きを復習する</p> <p>第7回 標準ディサースリア検査（AMSD）の実技演習（呼吸運動、発声・呼吸持続） （担当：新谷 純） 事前学習（30分）：演習を行う範囲のテキストを読み込む 事後学習（30分）：演習で学習した検査手続きを復習する</p> <p>第8回 標準ディサースリア検査（AMSD）の実技演習（運動範囲・巧緻性） （担当：新谷 純） 事前学習（30分）：演習を行う範囲のテキストを読み込む 事後学習（30分）：演習で学習した検査手続きを復習する</p> <p>第9回 標準ディサースリア検査（AMSD）の実技演習（筋力・交互反復運動） （担当：新谷 純） 事前学習（30分）：演習を行う範囲のテキストを読み込む 事後学習（30分）：演習で学習した検査手続きを復習する</p> <p>第10回 頭頸部領域の反射の発現機序とその評価法、脳神経検査 （担当：新谷 純） 事前学習（30分）：演習を行う範囲のテキストを読み込む 事後学習（30分）：演習で学習した検査手続きを復習する</p> <p>第11回 構音検査の概要 （担当：西尾 桂子・熊下 由加） 事前学習（30分）：授業に使用する物品を準備し、音声学で学習した音声記号を復習する 事後学習（30分）：演習で学習した検査手続きを復習する</p> <p>第12回 構音検査の実技演習（単語検査の記録） （担当：西尾 桂子・熊下 由加） 事前学習（30分）：前講義で演習した検査手順を確認する 事後学習（30分）：演習で学習した検査手続きを復習する</p> <p>第13回 構音検査の実技演習（音節・文章・構音類似運動の検査記録） （担当：西尾 桂子・熊下 由加） 事前学習（30分）：前講義で演習した検査手順を確認する 事後学習（30分）：演習で学習した検査手続きを復習する</p> <p>第14回 構音検査の実技演習（導入～終了まで） （担当：西尾 桂子・熊下 由加） 事前学習（30分）：前講義で演習した検査手順を確認する</p>

第15回	<p>事後学習（30分）：演習で学習した検査手続きを復習する 構音検査の実技演習（構音検査のまとめ） （担当：西尾 桂子・熊下 由加） 事前学習（30分）：前講義で演習した検査手順を確認する 事後学習（30分）：演習で使用した資料やノートをまとめ、実技試験にむけて検査練習をする</p>
テキスト	<p>西尾正輝著：標準ディサースリア検査，インテルナ出版，2004年 益田 慎：発声発語・摂食嚥下の解剖・生理学. MEDICAL VIEW, 2022年</p>
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	実技試験（新谷：60%、西尾・熊下40%）で評価を行う。いずれの試験も6割未満の場合は、不合格となる。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	<p>西尾：月曜～金曜の研究室在室時は随時受け付ける。 新谷：月曜～金曜の研究室在室時は随時受け付ける。</p>
備考	<p>西尾・熊下：小児施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する 新谷：急性期・回復期のリハビリテーション関連病院で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	【必修】言語
担当教員			
保屋野 健悟			
演習		053307S2S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	摂食嚥下障害に対する評価の意味を理解することができる。発声発語障害、摂食嚥下障害の評価を実施することができる。
授業の概要	摂食嚥下障害に対する評価について演習を通じて学ぶ。それらの評価結果を解釈し、対象者の問題点を抽出することを学ぶ。
授業計画	<p>第1回 運動障害の評価 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読み、関連する教科の復習を行う 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第2回 問診・情報収集 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第3回 食事場面の観察 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読む 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第4回 摂食嚥下障害のフィジカルアセスメント 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読み、関連する教科の復習を行う 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、実技演習の復習を行う</p> <p>第5回 摂食嚥下障害のフィジカルアセスメント 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読み、関連する教科の復習を行う 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、実技演習の復習を行う</p> <p>第6回 摂食嚥下障害のフィジカルアセスメント 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読み、関連する教科の復習を行う 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、実技演習の復習を行う</p> <p>第7回 摂食嚥下障害のスクリーニング検査 (RSST、水飲みテスト、改訂水飲みテスト、フードテスト)・頸部聴診法 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読み、関連する教科の復習を行う 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、実技演習の復習を行う</p> <p>第8回 嚥下造影検査 (VF検査) 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読み、関連する教科の復習を行う 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、実技演習の復習を行う</p> <p>第9回 嚥下造影検査 (VF検査) 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読み、関連する教科の復習を行う 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、実技演習の復習を行う</p> <p>第10回 嚥下内視鏡検査 (VE検査) 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読み、関連する教科の復習を行う 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、実技演習の復習を行う</p> <p>第11回 嚥下内視鏡検査 (VE検査) 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読み、関連する教科の復習を行う 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、実技演習の復習を行う</p> <p>第12回 その他の精密検査 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読み、関連する教科の復習を行う 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第13回 栄養評価 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読み、関連する教科の復習を行う 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、実技演習の復習を行う</p> <p>第14回 栄養評価 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読み、関連する教科の復習を行う 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、実技演習の復習を行う</p> <p>第15回 症例提示 事前学習 (30分) : 教科書の対応箇所を読み、関連する教科の復習を行う 事後学習 (30分) : 授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、実技演習の復習を行う</p>
テキスト	聖隷嚥下チーム執筆：嚥下障害ポケットマニュアル第4版，医歯薬出版，2018年 大野木宏彰：“もっと”嚥下の見える評価をしよう！ 頸部聴診法トレーニング，メディカ出版，2017年
参考書・参考資料等	上羽瑠美編著：見える！わかる！摂食嚥下のすべて，学研，2021年 標準言語聴覚障害学シリーズ 摂食嚥下障害学 第2版，医学書院，2021年 稲川利光編：摂食嚥下ビジュアルリハビリテーション，学研，2017年
学生に対する評価	筆記試験（100%）で評価を行う。また、聴講票の未提出（欠席時は除く）の場合、試験を受けることができない。
課題（試験やレポート等）に対応する方	月～金曜日の9:00～17:00の研究室在室時に随時受け付ける。

トピックの方法	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	【必修】言語
担当教員			
保屋野 健悟・西尾 桂子			
講義		053308L3S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	摂食嚥下障害の治療の種類、目的、適応を理解することができる。摂食嚥下リハビリテーション施行時のリスクやその管理の重要性を理解することができる。
授業の概要	摂食嚥下障害に対する治療法やその目的、適応を学ぶ。摂食嚥下リハビリテーションにおけるリスクを理解し、それをどのように管理していくかを学ぶ。 オムニバス形式で実施する。
授業計画	<p>第1回 摂食嚥下障害のリハビリテーションの概要 (担当：保屋野 健悟) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第2回 摂食嚥下障害のリハビリテーション (間接訓練) (担当：保屋野 健悟) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第3回 摂食嚥下障害のリハビリテーション (間接訓練) (担当：保屋野 健悟) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第4回 摂食嚥下障害のリハビリテーション (間接訓練) (担当：保屋野 健悟) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第5回 摂食嚥下障害のリハビリテーション (間接訓練) (担当：保屋野 健悟) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第6回 摂食嚥下障害のリハビリテーション (直接訓練) (担当：保屋野 健悟) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第7回 摂食嚥下障害のリハビリテーション (直接訓練) (担当：保屋野 健悟) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第8回 摂食嚥下障害のリハビリテーション (直接訓練) (担当：保屋野 健悟) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第9回 摂食嚥下障害のリハビリテーション (直接訓練) (担当：保屋野 健悟) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第10回 摂食嚥下障害のリハビリテーション (直接訓練) (担当：保屋野 健悟) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第11回 摂食嚥下障害の外科的治療 (担当：保屋野 健悟) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第12回 摂食嚥下障害の訓練の組み立て方 (担当：保屋野 健悟) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第13回 小児の摂食嚥下障害の評価・治療 (担当：西尾 桂子) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む 事後学習 (2時間)：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p> <p>第14回 小児の摂食嚥下障害の評価・治療 (担当：西尾 桂子) 事前学習 (2時間)：教科書の対応箇所を読む</p>

	<p>第15回</p> <p>事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う 小児の摂食嚥下障害の評価・治療 （担当：西尾 桂子） 事前学習（2時間）：教科書の対応箇所を読む 事後学習（2時間）：授業資料、教科書を参考に授業内容の整理、復習を行う</p>
テキスト	<p>小口和代監修：摂食嚥下訓練の基本を動画でひとつひとつやさしく学ぶ本. 医歯薬出版, 2023 藤島一郎監修：疾患別嚥下障害. 医歯薬出版, 2022</p>
参考書・参考資料等	<p>MTPSSE 高齢者の発話と嚥下の運動機能向上プログラム 第1巻～第3巻, 学研, 2021年 上羽瑠美編著：見える！わかる！摂食嚥下のすべて, 学研, 2021年 標準言語聴覚障害学シリーズ 摂食嚥下障害学 第2版, 医学書院, 2021年 聖隷嚥下チーム執筆：嚥下障害ポケットマニュアル第4版, 医歯薬出版, 2018年</p>
学生に対する評価	<p>筆記試験（100%：保屋野80%、西尾20%）。合算にて評価を行うが、それぞれについて、100点満点で60点以上をとること。なお、欠席以外の理由で聴講票の未提出があれば、不合格とする。</p>
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	<p>保屋野：月～金曜日：9時00分～17時00分の研究室在室時に随時受け付ける。 西尾：月～金曜日：9時00分～17時00分の研究室在室時に随時受け付ける。</p>
備考	<p>保屋野：急性期・回復期・生活期のリハビリテーション関連病院・施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。</p> <p>西尾：小児施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	【必修】言語
担当教員			
岡本 一宏			
講義		053401L2S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・成人聴覚障害の多様性を認識し、支援の方法を理解・修得する ・聴覚障害の概略を理解したうえで、成人聴覚障害の特徴や問題点を理解し、説明できる ・聴覚障がい者への評価・支援の種類と内容、留意点を説明できる
授業の概要	聴覚障害は他の言語・コミュニケーション障害に合併することも多く、その鑑別診断が重要である。聴覚障害の特徴を理解し、重症度や発症時期、コミュニケーション手段などによる多様性を学ぶ。さらに聴力や聴覚障害全体の評価と機能回復訓練だけでなく、障害の啓発や社会参加支援についても学修する。
授業計画	<p>第1回 聴覚系の解剖と生理 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第2回 難聴の種類ときこえ方の特徴 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第3回 難聴の程度の評価：聴力検査法 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第4回 難聴の程度の評価：オーディオグラム 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第5回 難聴をきたす疾患とその特徴 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第6回 成人聴覚障害の種類(先天性・後天性) 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第7回 聴覚の伝達経路(末梢から中枢) 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第8回 成人聴覚障害の交信手段の種類(受信・発信)とその評価 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第9回 成人聴覚障害の指導-1(後天性難聴・中途失聴) 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第10回 成人聴覚障害の指導-2(後天性難聴・加齢性難聴) 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第11回 重複障害者の種類 視覚聴覚二重障害 先天性盲ろう児者 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間) (担当：岡本)</p> <p>第12回 視覚聴覚二重障害の評価と訓練-1 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第13回 視覚聴覚二重障害の評価と訓練-2 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第14回 関連機関との連携、関連法規など 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第15回 特異的な聴覚障害 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p>
テキスト	藤田郁代監修：標準言語聴覚障害学「聴覚障害学」第3版、医学書院、2021年出版出版
参考書・参考資料等	大森孝一編著：言語聴覚士テキスト第3版、医歯薬出版、2018出版
学生に対する評価	レポート20%、定期試験80%で評価する。それぞれの得点が60%以上かつ合計得点が60点以上の場合を合格とする。
課題(試験やレポート)	月～金曜日の9:00～17:00に随時受け付ける。

等) に対応するフィードバックの方法	
備考	事前学習・事後学習について：授業配布資料とテキストの該当頁で成人聴覚障害の特徴について復習する。 教員は病院での勤務経験を基に講義を行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	【必修】言語
担当教員			
岡本 一宏・村田 里佳			
演習		053402S2S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害の評価法について修得する ・各聴覚検査について目的、方法、検査対象を説明でき、検査結果を評価できる ・標準純音聴力検査（気導・骨導）が正確に実施できる
授業の概要	聴覚障害の特徴を理解したうえで、聴覚検査法の種類とそれぞれの目的、方法、対象を学ぶ。検査結果を評価して言語聴覚臨床に役立てるようにする。特に基本検査である標準純音聴力検査については、検査を正確に実施できるように実習を行う。 オムニバス形式で実施する。
授業計画	<p>第1回 標準純音聴力検査 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（0.5時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（0.5時間） （岡本）</p> <p>第2回 マスキング 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（0.5時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（0.5時間） （岡本）</p> <p>第3回 標準純音聴力検査演習－1 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（0.5時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（0.5時間） （岡本，村田）</p> <p>第4回 標準純音聴力検査演習－2 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（0.5時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（0.5時間） （岡本，村田）</p> <p>第5回 語音聴力検査 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（0.5時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（0.5時間） （岡本）</p> <p>第6回 語音聴力検査演習 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（0.5時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（0.5時間） （岡本，村田）</p> <p>第7回 自記オージオメトリー，閾値上聴力検査，インピーダンスオージオメトリー 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（0.5時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（0.5時間） （岡本）</p> <p>第8回 誘発反応聴力検査，耳音響放射 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（0.5時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（0.5時間） （岡本）</p> <p>第9回 選別聴力検査，後迷路障害の検査，耳鳴検査，機能性難聴の検査 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（0.5時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（0.5時間） （岡本）</p> <p>第10回 自記オージオメトリー，閾値上聴力検査演習 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（0.5時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（0.5時間） （岡本，村田）</p> <p>第11回 インピーダンスオージオメトリー演習 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（0.5時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（0.5時間） （岡本，村田）</p> <p>第12回 乳幼児の聴覚発達とその検査 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（0.5時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（0.5時間） （村田）</p> <p>第13回 乳幼児聴力検査 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（0.5時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（0.5時間） （村田）</p> <p>第14回 乳幼児聴力検査演習 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（0.5時間）</p>

	<p>事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(0.5時間) (岡本, 村田)</p> <p>第15回 耳管機能検査、平衡機能検査、まとめ</p> <p>事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(0.5時間)</p> <p>事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(0.5時間) (岡本)</p>
テキスト	<p>藤田郁代監修：標準言語聴覚障害学「聴覚障害学」第3版、医学書院、2021年出版</p> <p>日本聴覚医学会編：聴覚検査の実際 改訂5版、南山堂、2024年出版</p>
参考書・参考資料等	大森孝一編著：言語聴覚士テキスト第3版、医歯薬出版、2018出版
学生に対する評価	レポート40%、定期試験60%で評価する。定期試験の出題割合は岡本60%、村田40%とする。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	岡本・村田：月～金曜日の9:00～17:00に随時受け付ける。
備考	事前学習・事後学習について：授業配布資料とテキストの該当頁で聴覚障害評価法について復習する。教員は病院での勤務経験を基に、講義・指導を行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	【必修】言語
担当教員			
岡本 一宏・村田 里佳			
講義		053403L2S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・先天性や言語獲得前からの聴覚障害の影響を理解し、聴覚障害の評価ならびに聴覚障害児を持つ保護者への支援の方法を理解・修得する ・小児聴覚障害の特徴や問題点を理解し、説明できる ・聴覚障害児への評価・支援の種類と内容、留意点を説明できる
授業の概要	乳幼児期の聴覚障害が情報障害やコミュニケーション障害を生じ、それが言語発達や全体の発達に与える影響を理解したうえで、聴覚障害の評価と子どもの発達に合わせた指導と保護者や家族への支援方法を具体的に学修する。
授業計画	<p>第1回 聴覚障害学（小児領域）で学ぶこと（村田） 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（2時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（2時間）</p> <p>第2回 乳幼児の聴覚評価（新生児聴覚スクリーニングを含む）（岡本） 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（2時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（2時間）</p> <p>第3回 難聴診断の流れ、補聴器適合・装用指導－1（岡本） 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（2時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（2時間）</p> <p>第4回 難聴診断の流れ、補聴器適合・装用指導－2（岡本） 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（2時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（2時間）</p> <p>第5回 0歳代の行動発達－評価と指導（前言語期）（村田） 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（2時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（2時間）</p> <p>第6回 1歳～4歳代の行動発達－評価と指導（言語期）－1（村田） 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（2時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（2時間）</p> <p>第7回 1歳～4歳代の行動発達－評価と指導（言語期）－2（村田） 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（2時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（2時間）</p> <p>第8回 5歳～就学前までの行動発達－評価と指導（村田） 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（2時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（2時間）</p> <p>第9回 5歳～就学前までの行動発達－評価と指導、構音指導（村田） 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（2時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（2時間）</p> <p>第10回 学童期以降の評価と指導（村田） 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（2時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（2時間）</p> <p>第11回 乳幼児への人工内耳（適応・評価）（岡本） 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（2時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（2時間）</p> <p>第12回 人工内耳装用児へのマッピングとその後の訓練（岡本） 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（2時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（2時間）</p> <p>第13回 人工内耳装用児への長期指導（岡本） 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（2時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（2時間）</p> <p>第14回 重複障害の種類・評価と支援（岡本） 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（2時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（2時間）</p> <p>第15回 耳の発生学と聴覚発達（岡本） 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。（2時間） 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。（2時間）</p>
テキスト	藤田郁代監修：標準言語聴覚障害学「聴覚障害学」第3版、医学書院、2021年出版 能登谷晶子 他編：子どものことばを育てる一問こえの問題に役立つ知識と訓練・指導一、協同医書出版、2021年出版 能登谷晶子 他編：子どもの構音障害、建帛社、2021年出版
参考書・参考資料等	能登谷晶子 編：聴こえの障害と金沢方式、エスコアール、2012 平野哲雄 他編：言語聴覚療法臨床マニュアル改訂3版、協同医書出版、2015
学生に対する評価	定期試験（筆記試験）で評価する。筆記試験の配分は、村田50%、岡本50%とする。

課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	村田・岡本：月～金曜日の9:00～17:00に随時受け付ける
備考	事前学習・事後学習について：授業配布資料とテキストの該当頁で小児聴覚障害の特徴について復習する。 教員は病院での勤務経験を基に講義を行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	【必修】言語
担当教員			
村田 里佳・岡本 一宏			
講義	初級障がい者スポーツ指導員対象科目(言語)	053404L3S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障がい児・者へのコミュニケーション支援や情報保障、環境調整の方法と注意点を説明できる ・聴覚障がい児・者と適切な方法でコミュニケーションができる
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障がい児・者のコミュニケーション行動の評価と具体的な支援の技術を学修する ・オムニバス形式で実施する
授業計画	<p>第1回 聴覚障害児・者のコミュニケーション手段の理解 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第2回 聴覚障害児・者への情報補償、環境調整の方法 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第3回 聴覚障害児・者のコミュニケーション分析演習-1 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第4回 聴覚障害児・者のコミュニケーション分析演習-2 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第5回 聴覚障害児・者のコミュニケーション分析演習-3 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第6回 聴覚障害児・者のコミュニケーション分析演習-4 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第7回 聴覚障害(小児) 評価・指導-1 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第8回 聴覚障害(小児) 評価・指導-2 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第9回 聴覚障害(成人) 評価・指導-1 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第10回 聴覚障害(成人) 評価・指導-2 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第11回 模擬症例の評価・支援演習-1 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第12回 模擬症例の評価・支援演習-2 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第13回 模擬症例の評価・支援演習-3 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第14回 模擬症例の評価・支援演習-4 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第15回 模擬症例の評価・支援演習-5 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p>
テキスト	藤田郁代監修：標準言語聴覚障害学「聴覚障害学」第3版、医学書院、2021年出版 能登谷晶子 他編：子どものことばを育てる一聞こえの問題に役立つ知識と訓練・指導一、協同医書出版、2021年出版 能登谷晶子 他編：子どもの構音障害、建帛社、2021年出版
参考書・参考資料等	大森孝一編著：言語聴覚士テキスト 第3版、医歯薬出版、2018出版 山口美和：「PT・OTのための これぞ安心 コミュニケーション実践ガイド」第2版、医学書院、2016出版 (公財)日本障がい者スポーツ協会(編)、障がいのある人のスポーツ指導教本、株式会社ぎょうせい
学生に対する評価	定期試験(60%)及び演習のレポート課題(40%)で評価する。定期試験とレポート課題それぞれ60点以上、且つ全体の合計が60%以上の場合を合格とする。

課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	村田・岡本：月～金曜日の9:00～17:00に随時受け付ける。
備考	事前学習・事後学習について：授業配布資料とテキストの該当頁で聴覚障害の治療法について復習する。 教員は病院での勤務経験を基に講義・指導を行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2	【必修】言語
担当教員			
岡本 一宏			
講義		053405L4S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・補聴器と人工内耳等の補聴機器の仕組みと調整方法、装用指導について説明できる ・補聴器と人工内耳等の補聴機器の適応を判断でき、適合を評価できる ・聴覚補償を通じた聴覚リハビリテーションについて、内容と留意点を説明できる
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚補償機器について仕組みと調整方法を理解して、適応と適合の判断方法を学修する ・聴覚補償機器の装用指導や聴覚学習・聴取訓練などの聴覚リハビリテーションを学ぶ ・聴覚障害者の周囲への環境調整を含めた聴覚補償の方法を修得する ・オムニバス形式で実施する。
授業計画	<p>第1回 補聴器の種類、構造、機能 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第2回 補聴器の音響特性とその測定 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第3回 カップリングシステム、イヤモールド用耳型の採取 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第4回 成人の補聴器フィッティング 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第5回 補聴器適合検査 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第6回 音場校正演習 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第7回 補聴器適合検査演習1 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第8回 補聴器適合検査演習2 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第9回 小児の補聴器適合・装用指導 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第10回 人工内耳① 原理と特徴 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第11回 人工内耳② 適応と評価 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第12回 小児の人工内耳の調整・装用指導 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第13回 人工中耳、骨導埋め込み補聴器、聴性脳幹インプラント 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第14回 補聴補助機器 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間)</p> <p>第15回 補聴の社会的側面、補聴にかかわる諸問題 事前学習：テキストの該当範囲を熟読し、重要語句などについて予習しておく。(2時間) 事後学習：授業資料の重要箇所を見直す。(2時間) 定期試験</p>
テキスト	藤田郁代監修：標準言語聴覚障害学「聴覚障害学」第2版、医学書院、2021年出版予定
参考書・参考資料等	喜多村健編：言語聴覚士のための聴覚障害学、医歯薬出版、2002年出版 大森孝一編著：言語聴覚士テキスト 第3版、医歯薬出版、2018出版

学生に対する評価	レポート（20％）と期末の筆記試験（80％）で評価する。総合点60点以上を合格とする。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	月～金曜日の9:00～17:00に随時受け付ける。
備考	事前学習・事後学習について：授業配布資料とテキストの該当頁で聴覚補償の特徴について復習する。 教員は病院での勤務経験を基に、講義を行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	【専門】必須
担当教員			
保屋野健悟・西尾桂子・新谷純・高橋宣弘・岡本一宏・村田里佳			
講義			
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	言語聴覚障害をもつ対象者は、地域社会で生活を送る際に様々な困難に直面している。言語聴覚士は、病院や施設でのリハビリテーションだけでなく、退院後の生活に対する介入・支援も重要な役割となっている。
授業の概要	以下の内容を理解できるよう学修を進める。 <ul style="list-style-type: none"> ・言語聴覚障害をもつ対象者の地域社会での生活における困難さを理解することができる ・言語聴覚障害をもつ対象者の生活上の困難さの原因を理解することができる ・言語聴覚障害をもつ対象者がその人らしく生活することの重要性を理解できる ・言語聴覚士が生活期に行う介入・支援について理解することができる
授業計画	<p>第1回 地域リハビリテーション 事前学習（2時間）：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習（2時間）：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>第2回 地域言語聴覚療法 事前学習（2時間）：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習（2時間）：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>第3回 地域言語聴覚療法を支えるシステム 事前学習（2時間）：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習（2時間）：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>第4回 地域言語聴覚療法を支えるシステム 事前学習（2時間）：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習（2時間）：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>第5回 地域言語聴覚療法の展開・地域における連携 事前学習（2時間）：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習（2時間）：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>第6回 地域言語聴覚療法におけるサービス 事前学習（2時間）：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習（2時間）：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>第7回 地域言語聴覚療法の実際（失語症・高次脳機能障害） 事前学習（2時間）：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習（2時間）：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>第8回 地域言語聴覚療法の実際（摂食嚥下障害） 事前学習（2時間）：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習（2時間）：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>第9回 地域言語聴覚療法の実際（発声発語障害） 事前学習（2時間）：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習（2時間）：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>第10回 地域言語聴覚療法の実際（聴覚障害） 事前学習（2時間）：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習（2時間）：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>第11回 地域言語聴覚療法の実際（認知症） 事前学習（2時間）：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習（2時間）：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>第12回 地域言語聴覚療法の実際（神経難病・がん） 事前学習（2時間）：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習（2時間）：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>第13回 小児の地域言語聴覚療法（発達・教育支援） 事前学習（2時間）：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習（2時間）：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>第14回 小児の地域言語聴覚療法（支援の実際）</p>

	<p>第15回</p> <p>事前学習（2時間）：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習（2時間）：聴講票を作成し、講師に提出する</p> <p>災害リハビリテーション</p> <p>事前学習（2時間）：テキストの指定された範囲を読み、不明な用語を調べる。また、疑問点を整理し講義時に質問できるよう準備する。 事後学習（2時間）：聴講票を作成し、講師に提出する</p>
テキスト	半田理恵子，藤田郁代編集：標準言語聴覚障害学 地域言語聴覚療法学．医学書院，2019年
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	筆記試験（60%）、レポート（40%）で評価する。 筆記試験、レポートそれぞれで6割以上の得点で合格とする。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	保屋野・西尾・新谷・高橋・村田・岡本：月～金曜日の9：00～17：00まで随時受け付ける。
備考	<p>[実務経験について]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急性期・回復期・生活期など様々なリハビリテーション関連病院・施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	【専門】 必須
担当教員			
保谷野健悟・西尾桂子・新谷純・高橋宣弘・岡本一宏・村田里佳			
演習	ST		
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	地域言語聴覚療法の重要性を理解した上で、言語聴覚障害をもつ対象者の地域社会での生活状況や問題点を知り、理解することができる。言語聴覚障害をもつ対象者がかかえる社会生活における問題点の改善方法や支援方法を考え、提案することができる。
授業の概要	生活期の言語聴覚障害をもつ対象者の生活について、グループワーク、施設見学を通して学ぶ。グループワークで対象者の生活上の問題点を抽出し、改善方法・支援方法についてディスカッションし学びを深める。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、生活期リハビリテーション 事前学習 (0.5時間) : 講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間) : 授業資料を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第2回 生活期リハビリテーションとICF 事前学習 (0.5時間) : 講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間) : 授業資料を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第3回 グループワーク 事前学習 (0.5時間) : 講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間) : 授業資料を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第4回 グループワーク 事前学習 (0.5時間) : 講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間) : 授業資料を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第5回 発表 事前学習 (0.5時間) : 講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間) : 授業資料を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第6回 グループワーク 事前学習 (0.5時間) : 講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間) : 授業資料を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第7回 施設見学 事前学習 (0.5時間) : 講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間) : 授業資料を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第8回 グループワーク 事前学習 (0.5時間) : 講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間) : 授業資料を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第9回 グループワーク 事前学習 (0.5時間) : 講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間) : 授業資料を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第10回 施設見学 事前学習 (0.5時間) : 講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間) : 授業資料を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第11回 グループワーク 事前学習 (0.5時間) : 講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間) : 授業資料を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第12回 グループワーク 事前学習 (0.5時間) : 講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間) : 授業資料を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第13回 グループワーク 事前学習 (0.5時間) : 講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間) : 授業資料を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第14回 発表 事前学習 (0.5時間) : 講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間) : 授業資料を参考に授業内容の復習を行う</p> <p>第15回 発表 事前学習 (0.5時間) : 講義内容に関連する書籍、教科書による予習を行う 事後学習 (0.5時間) : 授業資料を参考に授業内容の復習を行う</p>
テキスト	半田理恵子, 藤田郁代編集: 標準言語聴覚障害学 地域言語聴覚療法学. 医学書院, 2019年
参考書・参考資料等	
学生に対する評価	レポート (70%)、発表 (30%) で評価する。 レポート、発表それぞれの得点が6割以上の得点で合格とする。
課題 (試験やレポート等) に対応するフィードバックの方法	保屋野・西尾・新谷・高橋・村田・岡本: 月～金曜日の9:00～17:00まで随時受け付ける。

備考	[実務経験について] ・急性期・回復期・生活期など様々なリハビリテーション関連病院・施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、講義で教授する。
----	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	1	【必修】言語
担当教員			
保屋野 健悟・西尾 桂子・高橋 宣弘・新谷 純・村田 里佳・岡本 一宏			
実習	初級障がい者スポーツ指導員対象科目(言語)	053501PIS	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	社会人としての適切な振舞い以外に、医療従事者としての患者・利用者を中心に据える姿勢を身に付ける。また、言語聴覚士として必要な基礎及び専門科目と、選択科目で学んだ内容を臨床場面で活用する。
授業の概要	言語聴覚療法対象者がいる施設にて臨床実習指導者の指導・監督のもとで、臨床実習指導者が行う言語聴覚療法を見学あるいは一部実施する。課題は対象者の情報と心身の状態や行動の観察を行い、疾患による言語聴覚や摂食嚥下への影響(病態)を考え、病歴(障害歴)を適切な表現を用いて記述する。さらに、対象者との会話を通して、対象者の全体像を把握し、情報を収集する。担当教員全員で実施する。
授業計画	<p>1. 事前学習：3時間</p> <p>1) オリエンテーション(臨床見学実習の目的、内容、課題、留意すべき点などについて理解する。)</p> <p>2) 自己のコミュニケーション態度に関する学習</p> <p>3) 客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination: OSCE)</p> <p>2. 学外実習：40時間</p> <p>【学修内容】</p> <p>1) 言語聴覚賞障害のある対象者の抱える問題とその背景について学ぶ</p> <p>2) 言語聴覚士の役割と業務について学ぶ</p> <p>3) 見学する施設の特徴と地域について学ぶ</p> <p>4) 職業倫理(守秘義務など)について学ぶ</p> <p>【必須課題】</p> <p>1) 言語聴覚療法業務の見学および一部実施</p> <p>2) 実習記録(観察場面の記録およびデイリーノート)</p> <p>【選択課題】</p> <p>1) カンファレンス見学</p> <p>2) 教材および道具の作成補助</p> <p>3. 事後学習(まとめ)：2時間</p> <p>1) 実習報告会(レジュメ作成・報告)</p> <p>2) 残された課題の整理</p>
テキスト	臨床実習マニュアル、学生手帳、実習手帳 大塚裕一他 監修：これで解決!PT・OT・ST臨床実習まるごとガイド、金芳堂、2017
参考書・参考資料等	これまで使用したテキスト、参考書、資料。 (公財)日本障がい者スポーツ協会(編)、障がいのある人のスポーツ指導教本、株式会社ぎょうせい
学生に対する評価	事前学習および事後学習：10%、学外実習：90%で総合的に評価します(事前学習、学外実習、事後学習に参加したうえで評価します)。詳細はオリエンテーション時に提示する。
課題(試験やレポート等)に対応するフィードバックの方法	保屋野・西尾・新谷・高橋・村田・岡本：月曜～金曜の9：00～17：00に随時受け付ける。
備考	〔実務経験について〕 ・急性期・回復期・生活期など様々なリハビリテーション関連病院・施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	3	【必修】言語
担当教員			
保屋野 健悟・西尾 桂子・高橋 宣弘・新谷 純・村田 里佳・岡本 一宏			
実習		053502P2S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	社会人としての適切な振舞い以外に、医療従事者としての患者・利用者を中心に据える姿勢を身に付ける。また、言語聴覚士として必要な基礎及び専門科目と、選択科目で学んだ内容を臨床場面で活用し、対象者が抱える問題を理解しようとする姿勢を身につける。
授業の概要	言語聴覚療法対象者がいる施設にて指導者の指導・監督のもとで、指導者が行う言語聴覚療法を見学あるいは一部実施する。 課題は対象者の身体・行動の観察、情報の収集、病歴（障害歴）記述、検査の実施と所見記述、言語聴覚や摂食嚥下の問題点の列挙と明確化、言語聴覚療法訓練の目標設定を行なう。
授業計画	<p>1. 事前学習：10時間</p> <p>1) オリエンテーション</p> <p>2) 評価に必要な基礎知識・技術の復習</p> <p>3) 客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination: OSCE)</p> <p>2. 学外実習：120時間</p> <p>【学修内容】</p> <p>1) 臨床の基本的態度と評価・診断技能を学ぶ</p> <p>2) 他職種との連携や言語聴覚士の臨床以外の業務について学ぶ</p> <p>3) 言語聴覚障害がある対象者との適切なコミュニケーションを学ぶ</p> <p>4) 実施した評価結果を分析することを学ぶ</p> <p>【必須内容】</p> <p>1) 担当患者・利用者の評価</p> <p>2) 言語聴覚療法業務の見学</p> <p>3) 実習記録（自己が実施した患者・利用者に対する言語聴覚療法の補助内容について整理し、記録する。デイリーノートおよびケースレポートを作成する。）</p> <p>【選択内容】</p> <p>1) 症例検討会</p> <p>2) カンファレンス見学</p> <p>3) 教材および道具の作成補助</p> <p>4) 他職種の業務見学</p> <p>5) 各種勉強会・患者会への参加</p> <p>6) 各種レポートの作成</p> <p>3. 事後学習（まとめ）：5時間</p> <p>1) 実習報告会（レジュメ作成・報告）</p> <p>2) 残された課題の整理</p>
テキスト	臨床実習マニュアル、学生手帳、実習手帳 大塚裕一他 監修：これで解決！PT・OT・ST臨床実習まるごとガイド，金芳堂，2017
参考書・参考資料等	これまで使用したテキスト、参考書、資料
学生に対する評価	事前学習および事後学習：10%、学外実習：90%で総合的に評価します（事前学習、学外実習、事後学習に参加したうえで評価します）。 詳細についてはオリエンテーション時に提示する。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	保屋野・西尾・新谷・高橋・村田・岡本：月曜～金曜の9：00～17：00に随時受け付ける。
備考	〔実務経験について〕 ・急性期・回復期・生活期など様々なリハビリテーション関連病院・施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年	5	【必修】言語
担当教員			
保屋野 健悟・西尾 桂子・高橋 宣弘・新谷 純・村田 里佳・岡本 一宏			
実習		053503P3S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	臨床評価実習の到達目標に加え、関連職種との連携強化、対象者が抱えている問題の詳細な分析及び解決技能を身に付けることを目標とする。
授業の概要	言語聴覚療法対象者がいる施設にて指導者の指導・監督のもとで、対象者の情報と身体・行動の観察に加え、検査を実施し、評価と鑑別診断を行い、訓練・指導を考え、実践する。 課題は対象者の身体・行動の観察、情報収集、検査の実施、問題点の列挙、訓練（目標、課題）の立案、実施とする。
授業計画	<p>1. 事前学習：20時間</p> <p>1) オリエンテーション</p> <p>2) 評価・訓練に必要な基礎知識・技術の復習</p> <p>3) 残された課題の克服状況の確認</p> <p>4) 客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination: OSCE)</p> <p>2. 学外実習：200時間</p> <p>【学修内容】</p> <p>1) 指導者の助言・指導のもとに典型的な対象者に提供できる基本的言語聴覚療法を学ぶ</p> <p>2) 対象者を評価し、言語聴覚療法の実施計画を作成することを学ぶ</p> <p>3) 対象者の障害特徴を掘り下げて調べる検査を行い、生活を考慮した問題点の抽出を学ぶ</p> <p>4) 多職種と連携してリハビリテーションを実施する方法を学ぶ</p> <p>【必須内容】</p> <p>1) 担当患者・利用者の評価</p> <p>2) 言語聴覚療法業務の見学および訓練補助</p> <p>3) 実習記録（自己が実施した患者・利用者に対する言語聴覚療法の補助内容について整理し、記録する。デイリーノートおよびケースレポートを作成する。）</p> <p>【選択内容】</p> <p>1) 症例検討会</p> <p>2) カンファレンス見学</p> <p>3) 教材および道具の作成補助</p> <p>4) 他職種の業務見学</p> <p>5) 勉強会・患者会への参加</p> <p>6) 各種レポートの作成</p> <p>3. 事後学習（まとめ）：5時間</p> <p>1) 実習報告会（レジュメ作成・報告）</p> <p>2) 残された課題の整理</p>
テキスト	臨床実習マニュアル、学生手帳、実習手帳 大塚裕一他 監修：これで解決！PT・OT・ST臨床実習まるごとガイド，金芳堂，2017
参考書・参考資料等	これまで使用したテキスト、参考書、資料
学生に対する評価	事前学習および事後学習：10%、学外実習：90%で総合的に評価します（事前学習、学外実習、事後学習に参加したうえで評価します）。 詳細はオリエンテーション時に提示する。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	保屋野・西尾・新谷・高橋・村田・岡本：月曜～金曜の9：00～17：00に随時受け付ける。
備考	〔実務経験について〕 ・急性期・回復期・生活期など様々なリハビリテーション関連病院・施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年	7	【必修】言語
担当教員			
保屋野 健悟・西尾 桂子・高橋 宣弘・新谷 純・村田 里佳・岡本 一宏			
実習		053504P4S	
添付ファイル			

授業の到達目標及びテーマ	臨床実習Ⅰの目標に加え、対象者が抱えている問題の詳細な分析を行い、臨床現場に即した解決技能を身に付けることを目標とする。
授業の概要	言語聴覚療法対象者がいる施設にて指導者の指導・監督のもとで、対象者の情報と身体・行動の観察に加え、検査を実施し、評価と鑑別診断を行い、訓練・指導を考え、実践する。 課題は対象者の身体・行動の観察、情報収集、検査の実施、問題点の列举、訓練（目標、課題）の立案、実施、再評価計画の立案とする。再評価の実施は実習状況に応じて選択的に行う。
授業計画	<p>1. 事前学習：20時間</p> <p>1) オリエンテーション</p> <p>2) 評価・訓練に必要な基礎知識・技術の復習</p> <p>3) 残された課題の克服状況の確認</p> <p>4) 客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination: OSCE)</p> <p>2. 学外実習：280時間</p> <p>【学修内容】</p> <p>1) 指導者の助言・指導のもとに典型的な対象者に提供できる基本的言語聴覚療法を学ぶ</p> <p>2) 対象者を評価し、言語聴覚療法の実施計画を作成し、言語聴覚療法を実施することを学ぶ</p> <p>3) 対象者の障害特徴を掘り下げて調べる検査や、それに対応した治療（訓練・指導・支援）の方法を考案することを学ぶ</p> <p>4) 多職種と連携してリハビリテーションを実施する方法を学ぶ</p> <p>【必須内容】</p> <p>1) 担当患者・利用者の評価</p> <p>2) 言語聴覚療法業務の見学および訓練補助</p> <p>3) 実習記録（自己が実施した患者・利用者に対する言語聴覚療法の補助内容について整理し、記録する。 デイリーノートおよびケースレポートを作成する。）</p> <p>【選択内容】</p> <p>1) 症例検討会</p> <p>2) カンファレンス見学</p> <p>3) 教材および道具の作成補助</p> <p>4) 他職種の業務見学</p> <p>5) 各種勉強会・患者会への参加</p> <p>6) 各種レポートの作成</p> <p>3. 事後学習（まとめ）：15時間</p> <p>1) 実習報告会</p> <p>2) 残された課題の整理</p>
テキスト	臨床実習マニュアル、学生手帳、実習手帳 大塚裕一他 監修：これで解決！PT・OT・ST臨床実習まるごとガイド，金芳堂，2017
参考書・参考資料等	これまで使用したテキスト、参考書、資料
学生に対する評価	事前学習および事後学習：10%、学外実習：90%で総合的に評価します（事前学習、学外実習、事後学習に参加したうえで評価します）。 詳細はオリエンテーション時に提示する。
課題（試験やレポート等）に対応するフィードバックの方法	保屋野・西尾・新谷・高橋・村田・岡本：月曜～金曜の9：00～17：00に随時受け付ける。
備考	〔実務経験について〕 ・急性期・回復期・生活期など様々なリハビリテーション関連病院・施設で言語聴覚療法の実務経験を有しており、その経験を踏まえて、教授する。